339
1325

現物税に就て

ウ・イ・レーニン著
西雅雄譯

（レーニン重要著作集）

東京 白揚社出版

始

特220
702

レーニン重要著作集

レーニン著
西雅雄譯

現物税に就て

東京 白揚社刊

譯者序

ソヴェート・ロシアは三つの經濟的發展段階を通過した。一九一七―一九二〇年の戰時共產主義の時代、一九二一―一九二六・二七年の新經濟政策の時代、一九二八年以後の社會主義的攻擊の時代がこれである。第一期は帝國主義戰爭に續く內亂期であつて、プロレタリアートは內外の敵に對して自己の權力を維持するために、あらゆるものを犧牲にして戰はなければならなかつた。大工業や運輸は、プロレタリア國家の手に移りながら、荒廢に委ねられ、農民からは穀物が强制的に徵發された。一九二〇年の凶作と飢饉とは、それでなくてさへ困難な農民の窮迫を一層激化し、新政策への移行を絕對的な必要たらしめ、內亂の鎭定はまた折よくそれを可能ならしめた。

新經濟政策の重點は、現物稅または食糧稅を以つて徵發に代へたことであつた。農民は以前の徵發よりも遙かに少い一定量の穀物を租稅として納めた後、收穫物の剩餘を自由に取引すること

を許され、それによつて、農民經濟が改善され、中小工業も復興される端緒が與へられた。戰時共產主義時代の非常政策が終つて、農業と工業との間の正しい生產物交換の時代が始まつたのである。この新經濟政策によつて國の生產力は漸次に向上し、一九二六・二七年には農業においても工業においても生產指數は戰前の水準を越えるに至り、次の飛躍的な改造期の基礎が据ゑられた。

本書は一九二一年の春新經濟政策への轉換期におけるレーニンの重要な報告、論文、演說を、ロシア語全集、第三版、第二十六卷から飜譯したものである。こゝには、當時のロシアの內外の情勢、社會經濟制度（ウクラード）、階級關係特にプロレタリアートと農民層との關係、現物稅の意義が、プロレタリアートの終局目的實現の見地から、繰返し〳〵說明されてゐる。

レーニンによつて解剖されてゐる一九二一年のロシアを今日のソヴェート聯邦——第二次五ケ年計畫が半ば終了し、國の工業化と農業の社會主義化、階級の廢絕、勤勞者の生活水準の上昇が異常なテンポで進行しつゝある今日の狀態と比較すれば、誠に隔世の感がある。しかしこの社會主義時代も、また新經濟政策時代の繼續發展であり、一つの過渡期である限りにおいて、多かれ

少かれ新經濟政策的なものを持つてゐる。我々は今日のソヴェート聯邦を理解するためにも、レーニンのこれらの文獻を繙かなければならぬ。本書は實に第一次的なソヴェート經濟史料たるべきものである。

本書に收められた全六篇のうち、第二、三篇を除いて他のものは、一九二六年三月發行邦譯レーニン著作集、『新經濟政策』に主としてドイツ譯から重譯して收められてゐるが、そのテキストは、全集版と比較すれば、到るところ省略箇所の多いものである。譯者はなほ第七篇として共產主義インタナショナル第三回大會におけるロシア共產黨の戰術に關する報告を本譯書に收める豫定であつたが、伏字が相當多くなる虞れもあり、その內容は『食糧稅に關する小冊子とロシア共產黨の戰術に關するテーゼ』とに盡されてもゐるので、こゝには省くことにした。大體のことは知らうと欲する人々は、右の『新經濟政策』收錄のものを參照していただきたい。

一九三六年十月十日

譯者

目次

(一) 一九二一年三月十五日ロシア共産黨第十回大會における現物税に關する報告および結語……三
(二) 一九二一年四月九日モスクワ市およびモスクワ縣ロシア共産黨書記および細胞責任代表者の集會における食糧税に關する演説……四九
(三) 小冊子『食糧税について』のプランと要領……七五
(四) 食糧税について——新政策の意義とその諸條件……九五
序に代へて……九六
ロシアの現代の經濟について……一一六
食糧税について、商業の自由について、利權について……一四八
政治的結果および歸結……

結　論……一二〇
（五）一九二一年五月二十六―二十七日ロシア共産黨全露會議における食糧税に關する報告および結語……一二四
（六）共産主義インタナショナル第三回大會におけるロシア共産黨の戰術に關する報告のテーゼ（原案）……二二
一、ロシア社會主義聯邦ソヴェート共和國の國際的地位……二二
二、國際的規模における階級的勢力の相互關係……二八
三、ロシアにおける階級的勢力の相互關係……三一
四、ロシアのプロレタリアートと農民層……三二
五、ロシア社會主義聯邦ソヴェート共和國におけるプロレタリアートと農民層との軍事同盟……三三
六、プロレタリアートと農民層との正しい經濟的相互關係への移行……三三
七、ソヴェート權力が資本主義と利權とを許容しうる意義と條件……三五

八、我々の食糧政策の成功……三六
九、社會主義の物質的基礎とロシアの電化計畫……三四
一〇、資本の同盟者としての第二および二箇二分の一インタナショナル、社會革命黨およびメンシェヴィキの「純粹民主々義」の役割……三九
註……三四

――（終）――

現物税に就て

レーニン著
西雅雄譯

一九二一年三月十五日ロシア共産黨
第十回大會における

現物税に關する報告および結語(註一)

「ロシア共産黨第十回大會、速記報告(一九二一年三月八—十六日)」、國立出版所一九二一年に掲載されたもの。

同志諸君、租税を以て徴發に代へることの問題は、何よりも先づ且つ何よりも多く政治上の問題である、何故ならこの問題の本質は勞働者階級の農民層に對する關係にあるからである。この問題の提起は、彼等の間に闘爭が行はれるかまたは彼等の間に協調が保たれるかによつてすべての我々の革命が決定されるところのこの二つの主要階級の關係を、我々が新しい、または、もつと適當な言葉でいへば、ヨリ綿密な且つ正しい補足的考察と或る修正とに附せなければならない

ことを意味する。かやうな修正の原因の問題を詳說する必要はない。如何に幾多の事件が、特に戰爭、荒廢、復員および極度に困難な凶作によつて喚び起されたところの窮迫の極度の激化を基礎にして、如何に幾多の事情が、農民の狀態を特に困難にし、行詰らせ、そして不可避的にプロレタリアートからブルジョアジーへの彼等の動搖を强化したかは、勿論、諸君がすべて熟知してゐるところである。

この問題の理論的意義または理論的取扱について二つの言葉を述べたい。人口の壓倒的多數が小農＝生產者に屬する國における社會主義……が、工業および農業における賃銀勞働者が壓倒的多數を占める發展した資本主義の國々においては全く不必要であるところの、幾多の特殊な過渡的方策を通じてのみ實現されうることは、疑ひがない。發展した資本主義の國々においては數十年間のうちに形成された賃銀農業勞働者階級がある。たゞかゝる階級のみが社會的、經濟的および政治的に社會主義への直接的移行の支柱たりうる。たゞこの階級が十分に發展してゐるが如き國々においてのみ、資本主義から社會主義への直接的移行は可能であり且つ特殊な過渡的な全國家的方策を必要としない。我々は幾多の著作において、すべての我々の演說において、すべての

新聞において、ロシアでは事情が異つてゐること、ロシアでは我々は工業における少數の勞働者と壓倒的多數の小農とを有することを强調した。かゝる國における社會主義……は二つの條件の下においてのみ終局的成功を遂げることができる。第一には、一箇または數箇の先進國における社會主義……によつてほどよくそれが支持されるといふ條件の下において。諸君の知る如く、この條件を作り出すために我々は以前に比して極めて多くの努力をしたが、それが現實となるには、まだまだ不十分であつた。

他の一つの條件は、その獨裁を實現してゐるところの、またはその手に國家權力を握つてゐるところのプロレタリアートと農民人口の大多數との間の協調である。協調は、そのうちに幾多の方策および移行を含むところの、極めて廣汎な概念である。こゝでいつておかなければならないことは、我々がすべての我々の宣傳および煽動において問題を公明正大に提起せねばならないことである。政治を往々危く欺瞞に類する小細工と理解してゐる人々は、我々のなかでは最も決定的な非難を受けなければならぬ。彼等の誤謬は正されなければならぬ。諸階級は欺瞞することができぬ。我々は過去三年間に、大衆の間における政治意識を高めるために、極めて多くの努力を

した。大衆は何よりも多く激烈な闘爭から學んできた。我々は――我々の世界觀、十年間の我々の革命的經驗、我々の革命の教訓に從つて――問題を率直に提起しなければならぬ。即ちこれらの二階級の利益は異つてをり、小農は勞働者の欲するものを欲しない。

他の國々に革命が起らない限りは、たゞ農民層との協調のみがロシアにおける社會主義革命を救ふことができることを、我々は知つてゐる。そして、このことを、率直に、すべての集會において、すべての新聞において語らなければならぬ。勞働者階級と農民層とのこの協調は鞏固なものではない、――柔かに表現するならば、尤もこの『柔かに』といふ言葉を議事錄には記さないで、――もし率直にいふならば、それは著しく惡いことを、我々は知つてゐる。いかなる場合にも我々は何事かを秘密にしておかうと努めてはならぬ。そして農民層はわが國で彼等の間に現に打ち立てられてゐる關係の形態には滿足してゐないこと、彼等はこの關係の形態を欲しないし且つ今後このまゝでは存續しないであらうといふことを、我々は率直に語らなければならぬ。これは爭ふべからざる事實である。農民層のこの意思は決定的に現はれてゐる。これは勤勞人口の巨大な大衆の意思である。我々はこれを考慮しなければならぬ、そして我々は率直に次の如く語る

だけに十分冷靜な政治家なのである。即ち農民層に對する我々の政策を修正せしめよ。今までの狀態、――かゝる狀態はもはや維持されえないからだ、と。

我々は農民に次の如くいはなければならぬ、『諸君は後戻りすることを欲するのか、諸君は私有財產と自由商業とを完全に復舊しようと欲するのか、――その時にはこれは不可避的に地主と資本家との權力の下に陷ることを意味するのだ。幾多の歷史的實例と革命の實例とはこのことを證明してゐる。共產主義のABC、經濟學のABCをほんの一寸考へてみても、この不可避性が確認される。考へてみようではないか。プロレタリアートから離れて、後方へ抛り出され――そして國を滅茶々々になるまゝにし――遂に資本家と地主との權力を復活させることが、農民層に引き合ふかどうか？　考へてみよ、また一緒に考へてみようではないか』。

そして我々は、もし正しく考へてみるならば、プロレタリアートと小農との經濟的利益が著しく深く異つてゐる場合には、勘定は我々に有利であるであらう、と思ふ。

我々の狀態が財源においていかに困難であらうとも、中農層を滿足させる任務は解決されなければならぬ。農民層は以前よりも遙かに中農的になり、矛盾は拂拭され、土地は遙かにヨリ平等

的に利用されるやうに分配され、クラークは顚覆され且つ大部分は收奪されてゐる、――ロシアにおいてはウクライナよりも多く、シベリアにおいてはヨリ少く。しかし大體において、與へられた統計は、農村が平均化され、平等化されてゐること、換言すれば、クラーク側へと播種地なき農民側へとの鋭い分離は拂拭されてゐることを全く爭ふ餘地なく示してゐる。すべてがヨリ平等的となり、農民層は一般に中農の狀態になつた。

その經濟的特殊性とその經濟的根源とを有するこの中農層を、かゝるものとして、我々は滿足させうるであらうか？　もし共產主義者のうち誰かゞ、三年間に小農業の經濟的基礎、經濟的根源を改造しうると夢想してゐたとすれば、彼は、勿論、空想家であつた。そして――實をいへば――かゝる空想家は我々の間に少くなかつたのである。そしてそこには何も特に惡いことはないのである。空想家なしにかゝる國で何處から社會主義……を始めることができたらうか？　農業の共同的管理の領域における試みと發端とが如何に巨大な役割を演じうるかは、いふまでもなく實踐が示したところである。しかし實踐は、折角のこれらの試みも、最善の意圖と希望とに充ちた人々が、コンミュンや共營農場を設立するために農村へ行つて、共同的經驗を持たないがため

に、これを經營することができない場合には、實に否定的な役割を演じたことを示した。

これらの共營農場の試みは、たゞ、いかに經營してはならないかの實例を示したにすぎない。即ち近隣の農民は嘲笑しまたは惡意を抱いてゐる。どれほどかゝる實例があつたかは、諸君のよく知るところである。繰返していふが、これは驚くに足りないことである、何故なら小農を造りかへること、彼等の全心理と習慣とを造りかへることは、數世代を要する仕事だからである。小農に關するこの問題を解決すること、彼等の全心理をいはゞ健全化することは、物質的基礎、技術、農業への大規模なトラクターおよび機械の應用、大規模な電化のみが能くするところである。こゝにおいてはじめて小農は根本的に且つ非常に急速に改造されるであらう。私は數世代を要するといつたが、これは百年を要するといふ意味ではない。トラクターや機械を手に入れることと、この巨大な國を電化すること――かゝる仕事が、いづれにもせよ、十年以下ではできないことは、諸君のよく理解するところである。かくの如きが客觀的情勢である。

我々は、滿足させられてゐない、そして滿足させられず且つ滿足させられえないのが當然であるところの、農民の要求を滿足させることに努めなければならぬ。我々は彼等に次の如くいはね

ばならぬ、『さうだ、かゝる狀態はこれ以上維持されえない』と。如何にして農民を滿足させるか、そして彼等を滿足させることは何を意味するか？　如何にして彼等を滿足させるか、といふ問題に對する解答を我々はどこから取ることができるか？　勿論、農民層の同じ要求自體からである。我々はこれらの要求を知つてゐる。　しかし我々はそれらを檢査し、　我々が農民の要求について知つてゐるすべてのことを經濟學の見地から觀察しなければならぬ。この問題を研究すれば、我々には直ぐ次のことが分る、卽ち、小農を滿足させることは、その本質からいつて、二つの事物によつて可能である……第一には、若干の取引の自由、私的小經營主にとつての自由が必要であり、そして第二には、商品および生產物を手に入れることが必要である。ところが取引する何物もない場合に、どうして取引の自由があり、賣買する何物もない場合に、どうして商業の自由があらう！　殘るところは紙屑のみである、だが諸階級は紙屑ではなくて、物質的な事物によつて滿足させられるのである。これらの二つの條件は十分に理解されなければならぬ。第二の條件については、――如何にして我々は商品を手に入れるか、我々はそれを手に入れうるかどうか――このことについては我々は後に述べるであらう。だが第一の條件――取引の自由――この

ことは詳述されなければならぬ。

取引の自由とは何であるか？　取引の自由は商業の自由であり、そして商業の自由は、資本主義への退却を意味する。取引の自由と商業の自由、これは個々の小經營主の間の商品交換を意味する。いやしくもマルクス主義のＡＢＣを學んだ我々すべての者は、この取引および商業の自由からして不可避的に、資本の所有者と勞働力の所有者とへの分裂、資本家と賃銀勞働者とへの分裂、換言すれば、新たに資本主義的賃銀奴隸制の再興が生ずること、そしてそれは天から降つてくるのではなくて、全世界において正に商品的農業經營から發生することを知つてゐる。これは我々がよく理論的に知つてゐることであり、ロシアにおいても、小農の生活と經濟條件とを觀察したすべての人々は、これを目擊せずにはゐられないのである。

然らば共產黨が如何にして商業の自由を承認し、それに復歸することができるか、といふ疑問が生ずる。そこには妥協することのできない矛盾が存在しないであらうか？　これに對しては、問題は、勿論、實際的に解決することになると、極めて困難である、と答へなければならぬ。私は前以て豫見し且つ諸同志との談話によつて知つてゐる、卽ち租稅を以て徵發に代へるこの案、

諸君に配付されてゐる案は、何よりも多く、交換は地方的な經濟的取引の範圍内において許される、といふ點について、當然且つ不可避的な疑問を惹き起すことを。これは第八項の終りに述べられてゐる。これは何を意味するか、この範圍とは如何なるものであるか、如何にしてこれを實現すべきであるか？　かゝる問題に對してこの大會で解答を得ようと考へてゐる人があるなら、それは誤つてゐる。この問題に對する解答は我々の立法から得られるであらう、我々の任務はただ原則的方針を樹立すること、スローガンを採用することだけである。我々の黨は政府黨であり、黨大會で採用される決議は、全共和國にとつて拘束的なものになるであらう。だからこゝで我々はこの問題を原則的に解決しなければならぬ。我々はこの問題を原則的に解決し、これを農民層に知らさなければならぬ、播種は目前に迫つてゐるからである。そして更に、すべての我々の機關、すべての我々の理論的勢力、すべての我々の實踐的經驗を動員して、如何にしてこれを實行すべきかをみなければならぬ。これは實行されうるであらうか、理論的にいつて、或る程度まで商業の自由を、小農のための資本主義の自由を、これによつてプロレタリアートの政治的權力の根柢を覆すことなしに、復興し得るであらうか？　これは可能であらうか？　可能である、

何故なら問題は程度にあるからである。もし我々が少量ながら商品を受取つて、それを國家の手に、政治的權力を有するプロレタリアートの手に維持しうる狀態にあり、そしてこの商品を取引に投じうるならば、――我々は、國家權力として、政治的權力の上に經濟的權力を附加へることになるであらう。これらの商品を取引に移すことは、今日戰爭、荒廢の困難な條件に壓迫されて、小農業を發展させることの不可能に壓迫されて、怖るべき狀態に陷つてゐる小農業を活氣づける。小農は、小農として殘存する限り、その經濟的基礎、卽ち個々の小經營に適應する刺戟、衝動、皷舞するものを持たなければならぬ。もしこの取引が國家に工業生產物との交換において都市、工場、工業の需要を充たすに足るだけの或る最低量の穀物を與へるとすれば、經濟的取引は、國家權力がプロレタリアートの手に殘存し且つ强化されるやうに復興されるのである。農民層は、その手に工場、工業を握つてゐる勞働者が農民層との取引を樹立しうることを自分たちに實際に示してくれるやうにと要求してゐる。然るに他方では、惡い交通路、廣大な面積、種々の氣候、種々の農業的條件その他を有する巨大な農業國は、地方的規模での地方的農業と地方的工業との或る種の取引の自由を不可避的に前提する。我々はこの點で、あまりに行きすぎて、極め

て多くの誤りを犯した。即ち我々は商業および工業の國有化の道を、地方的取引の閉鎖の道をあまりに行きすぎた。これは誤りであつたか？　疑ふべくもない。

この點では我々によつて單純に多くの誤りが犯されてきた、そしてこゝで、我々が程度を觀察せず、それを如何に觀察すべきかを知らなかつたことを、見ず且つ理解してゐないことは、この場合最大の罪惡であらう。しかしそこにもまた不可避的な必然性があつた。即ち我々は今日までかくも狂暴な、未曾有に困難な戰爭の條件の下に生活してゐたので、經濟の領域においても我々は軍事的に行動する外はなかつたのである。そして荒廢された國がかやうな戰爭をもちこたへたのは奇蹟であつたが、この奇蹟は天から降つてきたのではなくて、それは、この奇蹟をその大衆的な昂揚によつて作り出した勞働者階級と農民層の經濟的利益から發生したのである。この奇蹟によつて地主と資本家に對する反擊が作り出された。しかしそれと同時に、我々が理論的にまた政治的に必要であつた以上に行きすぎたことは、疑ひなき事實であり、そしてそれを煽動および宣傳において隱蔽する必要はない。我々は、プロレタリアートの政治的權力を破壞しないで强化しつゝ、かなりの程度まで自由な地方的取引を許すことができる。如何にしてこれを實行すべき

かは實踐の問題である。私の問題は、理論上これが考へられうることを諸君に證明することである。その手に國家權力を握つてゐるプロレタリアートは、若干の財源を持つてゐさへすれば、それを取引に投じ且つそれによつて中農の或る滿足を達成すること、地方的な經濟的取引を基礎にして彼等を滿足させることが完全に可能である。

次に地方的な經濟的取引について一言しよう。豫め私は協同組合の問題に觸れなければならぬ。勿論、地方的な經濟的取引にあたつては、わが國で非常な窒息狀態にある協同組合が必要である。我々の綱領は、分配のための最良の機關は資本主義時代から殘つてゐる協同組合であることと、この機關は保存されなければならぬことを强調してゐる。これは綱領のなかに述べられてゐる。我々はこれを遂行したであらうか？　極めて不十分に、そして一部分は全く遂行しなかつた——やはり一部分は誤謬のために、一部分は戰爭の必要のために。協同組合は、經濟的にヨリ高級な、經濟的關係においてヨリ高級な要素を派生したが、それによつて政治においてはメンシェヴィキと社會革命黨員とを派生した。これは化學的法則であつて、——何とも致し方がない！メンシェヴィキと社會革命黨員とは、意識的または無意識的に資本主義を復興しユーデニッチを援

けてゐる人々である。これもまた法則である。我々は彼等と戰爭せねばならぬ。戰爭するなら、戰爭風に。我々は自らを防衛しなければならなかつた、そして我々は自らを防衛した。しかし今日の狀態の下に不變のまゝでゐることができるだらうか？　否。そしてこれに拘束されることは無條件に誤謬である。だから私は協同組合について一つの決議案を提出する。それは極めて短いものであるから、私はそれを讀み上げよう――

『協同組合に關するロシア共產黨第九回大會の決議は、全く徵發の原則の承認の上に樹てられたものであるが、徵發は今や現物稅を以て代へられたことに鑑み、ロシア共產黨第十回大會は決議する――

前記の決議を撤廢すること、を。

大會は中央委員會に對して、協同組合の設立および活動をロシア共產黨綱領に一致し且つ現物稅による徵發の代用に適應するやうに改善し且つ發展させるやうな決議を作成して、黨およびソヴェートをして實施せしめることを委任する』。

これは漠然としてゐる、と諸君はいふ。然り、そしてこれは或る程度まで漠然としてゐなければならぬ。何故漠然としてゐなければならぬか？　何故なら、完全に決定的たるがためには、我が後年においても行ふことを最後まで知つてゐなければならぬ。誰がこれを知つてゐるか？　誰も知らないし且つ知ることはできぬ。

しかし第九回大會の決議は我々を拘束する、それはいふ、『給養人民委員部に從屬する』と。給養人民委員部は立派な機關であるが、諸君が小農に對する關係を修正しつゝある時、それに協同組合を强制的に從屬させ且つ自らを拘束することは、政治的には明かな誤謬を犯すことである。我々は新たに選出される中央委員會に、若干の方策と修正とを作成し且つ確立し、我々のする前進と退却、――如何なる程度にこれをなすべきか、政治的利益を如何に觀察すべきか、もつと容易にするためには、どれだけ讓步すべきか、經驗の結果を如何に檢査すべきか――を檢査することを委任せねばならぬ。我々はこの點において、理論的にいへば、幾多の過渡的段階、過渡的方策に當面してゐる。我々にとつては一つのことが明かである、即ち第九回大會の決議は、我々の運動が一直線に進むものと想像してゐた。しかしつねに革命の全歷史において示された如く、運動はジグザグに進んだのである。かゝる決議で自らを拘束することは、政治的誤謬であ

る。決議を撤廢するにあたつて、我々はいふ、協同組合機關の意義を強調してゐる綱領によつて指導されなければならぬ、と。

決議を撤廢するにあたつて、我々はいふ、租稅による徵發の代用に順應せよ、と。しかし何時我々はこれを實施するか？　收穫以前ではない、卽ち數ケ月後に。それは種々の地方において一樣であらうか？　決してさうではない。中央ロシア、ウクライナ、シベリアを一律に取扱ふこと、或る型に嵌めこむことは最大の馬鹿げたことであらう。私は地方的取引の自由に關するこの根本思想を大會の決議の形で發表すべきことを提議する。私は、確かに今から數日間のうちに中央委員會の手紙が發表されるだらう、と思ふ。それは次のことを聲明するであらう、――そして勿論それを私が今述べるよりももつと立派に聲明するであらう（我々はこれをもつと立派に起草する立派な文筆家を持つてゐる）。何も苦しむ必要はない、急ぐ必要はない、周章てゝ詭辯を弄する必要はない、プロレタリアートの利益を損はないで、中農層を最大限に滿足させるやうに行動すればいゝ。あゝもやつてみ、かうもやつてみることだ、經驗に基いて、實踐的に學ぶがいい、それから我々と一緒に働いて、諸君が成功したことを話してくれることだ。我々は集つた經

驗を研究するところの一つの特別委員會または數箇の委員會さへも作り、そして我々はこのために『プロレタリア獨裁時代における紙幣』（註二）の著者、同志プレオブラジェンスキーを特別に引つぱつてくることだらうと思ふ。この問題は極めて重要だ。何故なら貨幣の流通は國の流通の滿足を檢査するところのものであり、そしてこの流通が不規則なときには、貨幣は無用の紙片となる。然るのち經驗を基礎にして進むためには、我々は採用された諸方策を十遍も檢査しければならぬ……。

人々は我々に質問を出し且つ知らんと欲するであらう、何處で商品を手に入れるべきか、と。商業の自由は商品を要求するではないか、そして農民は極めて賢い人間であり且つ誇らがほに嘲笑することを知つてゐる。我々は今商品を手に入れることができるだらうか？　今や吾々は手に入れることができる、何故なら我々の經濟狀態は國際的規模において著しく改善されたからである。我々は國際資本に對して鬪爭してをり、そして後者はわが共和國をみて、次の如く放言した、『これは强盜であり、鰐である』と（この言葉は、この表現を或る最も勢力ある政治家から聞いた、或るイギリスの美術家が私に文字どほりに傳へたのである）（註三）。だがもし鰐だとすれ

ば、それを輕蔑しうるのみである。そしてこれは國際資本の聲であつた。これは階級敵の聲であり且つ敵の見地からみれば正しかつた。しかしこの結論の正しさは實際における檢査を必要とする。もし汝が世界的な、有力な勢力であり、世界資本であるならば、もし汝が我々を『鰐だ』といひ、そして汝の手許にすべての技術があるならば、やつてみろ、射つてみろ！　だが彼が射つたときには、彼はこれがために一層惱むことになるだらう。そのとき、現實の政治的および經濟的生活を考慮することを餘儀なくされる資本は、『取引しなければならぬ』といふであらう。この點に我々の最大の勝利がある。我々の許には金で約一億に上る二つの借款計畫があることを今諸君に告げよう。金は我々の許にあるが、これは食ふことができないものであるから、金は渡すことができぬ。すべてはかくも荒廢されて、すべての國において資本主義國家間の爲替關係は信ぜられない程度に戰爭のために顚覆されてゐる。その外に、ヨーロッパとの交通のためには商船隊を持たなければならないが、これは我々の許にはない。商船隊は敵の手にある。我々はフランスと何等の條約を締結しなかつた。フランスは、我々が彼等に債務を負ふてゐる、即ちどの船でも『失禮ながら、これは私のものです』と考へてゐるのである。彼等の許には軍艦があるが、我

我の許にはない。かゝる事情で、我々は今まで金を少しも、をかしいほど少しも實現することができなかつたのである。今や資本家＝銀行家から一億の借款を現實化する二つの提案がある。勿論、この資本は强盜的な利子を取るのである。しかし今までは彼等は一般にこのことについていはなかつた、今までは彼等はかういつてゐた、『俺はお前を射ち殺して無料で取るであらう』と。今や、彼等は射ち殺すことができないので、彼等は取引しようと用意してゐる。アメリカおよびイギリスとの通商條約は目下進行中であるといふことができる。利權もまたさうである。私は昨日、こゝに滯在してゐるヴァンダーリップ氏から手紙を受取つたばかりだが、彼は幾多の希望と共に、利權および借款に關する幾多の計畫を通知してゐる。これは日本に比較的敵對的な北アメリカの西部諸州と結びついた最も利己的な邊境の金融資本の代表者である。我々の許では商品を手に入れる可能性はかゝる狀態である。どれだけ我々がこれをなしうるかは別個の問題であるが、若干の可能性はある。

私は繰返していふが、上層で外國の資本主義とのブロックの形を持つ經濟關係の型は、プロレタリア國家權力にとつて下層では農民層との自由な取引の可能性を與へる。このことは若干の嘲

笑を惹き起したことを私は知つてゐる、――このことを私はすでにいつたことがある。モスクワには一聯のインテリゲンチヤ官僚層があつて、『輿論』を作り出さうと試みてゐる。彼等はもう樂みはじめてゐる、『共産主義とはこんなものだ！　まるで、松葉杖にすがり、それと共に顔は一面の繃帶をした人間のやうだ、そして共産主義からは謎のやうな光景だけが殘る』。この種の諧謔を私は飽きるほど聞いたが、この諧謔は或ひは官僚的であり、或ひは不眞面目なものである！ロシアは、その狀態は何よりも多く半死半生に打ちのめされた人間の狀態に似た狀態で、戰爭から出て來たのである。六年間ロシアは叩きつけられてゐた、だから今松葉杖で動けるのは、神に感謝してもいゝ！　現在我々はかういふ狀態にあるのである！　今我々が松葉杖なしに匍ひまはりうると考へることは、何物をも理解しないことを意味する！　革命が他の國々に起らない限りは、我々は數十年も匍ひまはらなければならないだらう。そしてその場合には、巨大な先進資本主義から援助が得られさへすれば、我々の無限の富から、我々の豐富な原料資源から數億或ひは數十億を引き出しても悲しむべきではない。我々は後に高利で取り返すであらう。農民層が壓倒的優勢を占める未曾有に荒廢された、かくも荒廢された國において、資本の援助なしには、――

援助に對しては、勿論、資本は十割も掠奪する、――プロレタリアの權力を維持することができぬ。このことは理解されなければならぬ。それだから、――經濟關係のこの型か、或ひは無かである。これと異つて問題を提起するものは、實際經濟において絶對に何物をも理解しないで、あれやこれやの洒落によつておし通すものである。吾々は大衆の過勞および困憊の如き事實を認識しなければならぬ。先進諸國における四年間の戰爭が今日に至るまでそこで自らを感じさせてゐるとすれば、七年間の戰爭がどうしてわが國において影響を殘さないでゐられたであらうか?!

だがわが國では、我々の後れた國では、七年間の戰爭の後ではこれは直接に、未曾有の犠牲を拂つた勞働者における、また農民大衆における困憊狀態である。この困憊、この狀態は、完全な勞働不可能に近い。そこでは經濟的な息繼ぎが必要である。我々は金準備を生産手段に使用しようと目論んだ。機械を作ることは極めて結構だが、もし我々がそれを購入するなら、我々はそれによつて生産を打ち立てることができよう。しかしこれがためには、働き得べき勞働者がゐ、農民がゐなければならぬ。しかし彼は多くの場合働くことができぬ、すなはち彼は消耗してをり、彼は疲勞してゐる。彼を支持しなければならず、我々の最初の綱領に反して金準備は消費品に投

ぜられなければならぬ。最初の我々の綱領は理論的には正しかつたが、實踐的には役に立たなかつた。私は同志レジャフから得た情報を發表しよう。これによつて我々は、數十萬プードの種々雜多の食糧品がすでに購入され、そして大急ぎでリトヴィア、フィンランドおよびラトヴィアから送られつゝあることを見る。今日ロンドンで千八百五十萬プードに上る石炭の取引契約が署名された、といふ報告を受取つた、これはペトログラードの工業および繊維工業を活氣づけるために購入することに決したのである。我々が農民のために商品を獲得するのは、勿論、綱領の侵犯であり、これは不當なことであるが、しかし息繼ぎは與へられなければならぬ、何故ならさもなければ勞働に耐へえないほど、國民は疲勞してゐるからである。

なほ個人的商品交換について述べなければならぬ。我々が取引の自由について語るときには、それは個人的商品交換を意味する、換言すれば、クラークを皷舞することを意味する。然らばどうなるか？　租税を以て徵發に代へることは、クラーク層が現在の制度の下においてはこれまでより一層成長するであらうといふことを意味することに眼を閉すべきではない。それは以前は成長しえなかつた場所に成長するであらう。しかしこれに對しては禁止的方策によつて鬪爭すべき

ではなくて、上からの國家的結合と國家的方策とによつて鬪爭しなければならぬ。我々が農民に機械を與へうるならば、これによつて我々は彼等を高め、そして我々が機械または電化を與へうるときには、數萬または數十萬の小クラークは勦滅されるだらう。これを與へえない間は一定量の商品を與へよ。もし商品が我々の手にあるならば、我々は權力を維持するであらう。しかしかやうな可能性を妨害し、切斷し、投棄することは、取引のあらゆる可能性を拋棄することを意味し、中農層を滿足させないことを意味し、彼等を馴化することができないであらう。農民層はロシアではヨリ多く中農的になつた、そして交換が個人的になることは何も怖れることはない。誰でも何物かを國家に交換に提供しうる。或る者は穀物の剩餘を提供し、他の者は野菜生産物を交換に提供し、第三の者は勞働義務を提供する。根本的には狀態は次の如くである。すなはち我々は中農層を經濟的に滿足させ且つ取引の自由に進まなければならぬ、さもなければ、國際革命が停滯してゐる際に、ロシアにおいてプロレタリアートの權力を保持することができない、經濟的にできないのである。これは明瞭に意識すべきであり且つこれについて語ることを少しも怖れてはならぬ。租税を以て徵發に代へることに關する決議案（テキストは諸君に配付されてゐる）に

は多くの不調和があり、矛盾がある。だから結論にはかう書かれてゐる、『大會は根本において（この言葉は極めて多辯的であり多義的である）租税を以て徴發に代へることに關する中央委員會のテーゼを是認し、黨中央委員會に對して最も急速にこのテーゼを調和的ならしめることを委任する』。我々は、テーゼが調和されてゐないことを知つてゐる、我々はさうすることに成功しえなかつた、我々はこの詳細な仕事に觸れなかつた。全露中央執行委員會と人民委員會議とが、租税實施の形式を詳細に作成し且つこれに應ずる法律を實施するであらう。順序はかうなる豫定であつた、即ち諸君が今日この案を採用するときは、それは全露中央執行委員會の最初の會議において決議され、そして中央執行委員會は法律ではなくて、修正されたテーゼを發布するだけで、それから人民委員會議と勞働國防會議がそれを法律と、そして更に一層重要なことだが、實踐的訓示とに轉化する。人々が地方においてこの意義を理解し且つ我々に一致することが重要である。

何故我々は租税を以て徴發に代へなければならなかつたか？ 徴發は、すべての剰餘を没收し、强制的な國家的獨占を樹立することを前提するものであつた。我々はこれ以外に致し方がな

かつた、我々は極端な窮迫狀態にあつた。國家的獨占が社會主義の見地から最上のものであることを理解するには、理論上說明を必要としない。工業を有する農民國においては、――だが工業は活動してをり、――そしてもし一定量の商品があるならば、過渡的方策として、租税および自由取引の制度を採用することができる。

この取引自體は、農民にとつて刺戟であり、皷舞するものであり、衝動である。經營主は自分自身の利益のために努力することができ且つ努力するに相違ない、何故なら彼からはすべての剰餘を取るのではなくて、可能性に應じて、豫め決定さるべき租税のみを取るのだからである。根本的な點は、小農にとつてその經營において刺戟、皷舞するもの、衝動があることである。我々が三年間に改造することができなかつたし、そしてなほ十年間は改造することができないであらうところの中農の經濟に適應させて、我々はわが國家經濟を建設せねばならぬ。私はこれが何に依存するかを述べよう。

國家は一定の給養義務を負うてゐた。だから我々の徴發は前年には增加されたのである。租税はヨリ少くなければならぬ。數字は正確には決定されてゐないし、また決定することができない

のである。ボボフの小冊子『ソヴェート共和國およびその聯邦諸共和國における穀物生産』のうちには、正確な數字を與へ且つ如何なる原因によつて農業生産が低下したかを示すところの、わが中央統計局の資料が引用されてゐる(註四)。

凶作の場合には、剰餘はないであらうから、剰餘を取ることはできぬ。それは農民の口から取らなければならないであらう。豊作の場合には、すべての人々が大して飢ゑず、そして國家は救はれるであらう、――或ひは、滿腹しえない人々から取ることができなければ、國家は破滅するであらう。かくの如きが農民の間における我々の宣傳の任務である。平年作の場合には、約五億プードの剰餘がある。これは需要を充たし且つ若干の豫備を與へる。要するに肝要なことは、農民に經濟の見地から刺戟、鼓舞するものを與へることにある。小經營主にかういはねばならぬ、『經營主よ、生産物を生産せよ、だが國家は最少限の租税を取る』と。

私の時間は過ぎる、私は報告を終らねばならぬ。私は繰返していふが、我々は今法律を發布することはできぬ。我々の決議の缺陷は、それがあまり立法的でないことである、――黨大會では法律を起草しない。だから我々は中央委員會の決議を基本として承認し且つそのテーゼを調和させることを中央委員會に委任すべきことを提議する。我々はこの決議のテキストを印刷する。そして活動家たちは諸地方でそれを調和させ且つ修正することに努力するであらう。最後まで調和させることはできぬ、これは解決されない任務だ、何故なら生活はあまりに雜多だからである。過渡的方策を求めることは、極めて困難な任務である。これは急速に且つ一直線にはなされえないだらう、――我々は空中から落ちるのではなくて、我々自身を攫むのである。幾分でも意識的な農民は、政府としての我々が勞働者階級と、勤勞農民（その十分の九）がこれと調和しうる勤勞者とを代表してゐること、あらゆる退却は舊ツァール政府への復歸を意味することを理解せずにはゐない。クロンシュタット事件の經驗がこのことを示してゐる。あそこでは人々は白衛軍を欲せず、我々の權力を欲しない、――だが他の權力はない、――而も我々に味方してあらゆる新政府に反對する最良の煽動たる狀態にあるのである。

我々は今日農民と協調する可能性を持つてゐる、そしてこれを實踐的に、巧妙に、聰明に、屈伸性を以て實行しなければならぬ。我々は給養人民委員部の機關を知つてゐる、我々はこれは我我の最良の機關の一つであることを知つてゐる。それを他と比較することによつて、我々は、こ

れを最良の機關であり、そして保存されなければならぬが、機關は政治に從屬されなければならぬことを見るのである。もし我々が農民に對する關係を調整しえないならば、最も素晴らしい給養人民委員部の機關も我々に何の値もないであらう。そのときにはこの素晴らしい機關は我々の階級にではなくて、デニキンおよびコルチャックに役立つであらう。政治が決定的な變化、屈伸性、巧みな移行を必要とするとすれば、指導者はこのことを理解しなければならぬ。鞏固な機關はあらゆるマヌーヴァにとつて役立たなければならぬ。然るにもし機關の强固が化石狀態に轉化され、轉換を阻害するならば、鬪爭は不可避である。だから我々は無條件にその目的を達成するために、機關の政治への完全な從屬を達成するために、全力を注がなければならぬ。政治は諸階級の間の關係であつて――これは共和國の運命を決定する。補助手段としての機關は、鞏固であればあるほど、それは益々マヌーヴァに有益である。だがもしそれがこれを遂行しえないならば、それは何の役にも立たぬ。

諸君は根本的な點を眼中におくやうにしてほしい。卽ち細目および解釋の研究は數ケ月を要する事業である。だが今我々は根本的な點を眼中におかねばならぬ。卽ち今晩採用されることにつ

つてはラヂオによつて世界の隅々まで報道されるに相違ない、卽ち政府黨の大會は根本において租稅を以て徵發に代へ、これによつて小農に對して經營を擴大し、播種を增大する幾多の刺戟を與へた、大會はこの道に進むことによつて、プロレタリアートと農民層との關係を修正し、これによつてプロレタリアートと農民層との間に鞏固な關係が達成されるであらうといふ確信を表明した、と。

結語

同志諸君、私は十分短い注意だけに止めうると思ふ。何よりも先づ、シベリアの食糧徵發者の問題について。ヤロスラフスキーとダニシェフスキーとは私に次の公表をすることを請うた。もしドゥロジンが裁判に附せられるとすれば、これは正に彼が無罪であることを示すためになされるのである、と。私はそこで懷疑的な言葉を聞くが、いづれにもせよ、これは正しい見地だ、といはねばならぬ。非難と虛說とは往々あることであり、そしてかういふ仕方でその虛僞を示すことは正しい方法だ。その後、多くのテュメンスクの食糧徵發者が鞭打、拷問、强姦その他の刑事

的犯罪のために射殺された。從つて、今の場合はこれを食糧徴發活動との聯關において提起することが全くできない、我々はこの現象において、食糧徴發活動が行はれてゐる環境の下において、普通以上の懲罰が必要であるところの、すでに直接刑事的な不法行爲を見なければならぬ。だから、この方面から、疑ひもなく正しい方策が適用されたのである。

今や私は最初に協同組合の問題について一言したい。同志チュルパの報告は、——彼自身が説明したやうに、そして我々すべてがこゝで聞いたやうに——原則上他の見地にある報告者に對立する意味での共同報告ではなかつた。租税を以て徴發に代へる中央委員會の決議は滿場一致で通過したのであつたが、重要なことには、我々は大會の仕事がまだ始まらないうちに、方々で種々の同志が、これとは獨立に、實際的經驗の指示を基礎にして、かゝる方策の合目的性と必要とを疑ふことは本質において不可能である、といふ同じ結論に達してゐたことを我々は直ちに見たのである。そして同志チュルパの報告は多くの問題に關する補足と戒告とに歸するものであつたが、そのなかに異つた政策の提案はなかつた。

同志チュルパの報告においてこの一般的方向から外れてゐたのは、たゞ協同組合の問題のみで

あつた。この點で同志チュルパは私の提議した決議に反對したが、彼の反對は尤もなものと認めることができないやうに思はれる。その豫備の意味における地方的な自由經濟取引の關係は如何にして發展されるであらうか、——協同組合を通じてかまたは小さな私的商業の再興によつてか、——我々は恐らく今それを終局的に確定しえないであらう。この問題は檢査されなければならぬ、——これは疑ひのないことだ、——そしてこの點においては地方的經驗を注意深く檢査しなければならぬ、この點では、勿論、我々はすべて一致してゐる。しかしながら、私は協同組合の或る優越が依然として殘ると思ふ。もしそれが、私がすでに指摘したやうに、政治的に我々に敵對的な、そして事の本質においてコルチャックおよびデニキンの政策を遂行してゐるところの諸要素の組織、集中、結合の場所として政治的に役立つならば、——勿論、協同組合は、小經營、小商業と比較してたゞ事柄の形式を異にするのみである。勿論クラーク層のあらゆる分化と小ブルジョア關係の發展とは、ロシアでは數十年もかゝつて形成され且つ我々によく知られてゐるところの、それに相應する政黨を產出する。この場合これらの黨を放任するかしないかを擇ぶ必要はない、——それは小ブルジョア的經濟關係によつて不可避的に產出される、——だが、これらの

黨の集中、結合、活動の形態だけは、たゞ或る程度においてではあるが、これを擇ばなければならぬ。協同組合はこの點において一層惡かつた、といふことは決して證明することができぬ。反對に、協同組合に對する組織的影響と統制との手段を、共產主義者はやはり若干ヨリ多く持つてゐるであらう。

協同組合に關する第九回大會の決議はこゝで同志チュルパの決定的な反對を受けた、チンの決定的な擁護を受け、同志ミリュー

同志チュルパは就中、私自身が協同組合の問題についてこの大會においてそれが解決される以前に行はれた鬪爭の證人である、といつた(註五)。私はこの事實を確認しなければならぬ。實際、鬪爭はあつた、そして第九回大會の決議は、食糧部のためにヨリ多くの比重を、或ひは一層正しくいへば、最も完全な重點を確保する方向においてその結末をつけたのである。しかしこの考慮の故に、今日協同組合に對して行動のヨリ多くの自由と政治的方策の選擇の自由とを拒絕することは、疑ひもなく、すでに政治的に誤つてゐるであらう。私にとつては、例へば人民委員會議長の見地からすれば、十箇もの會議において小さな鬪爭および爭論さへをも目擊することを餘儀な

くされるのは、この鬪爭を終結させるところの、すべての人々にとつて强制的な決議を基礎にし背景にするよりか、勿論、遙かに不愉快である。しかしかういふ種類の氣樂を考へないで、一定の經濟政策の實施の利益を考へなければならぬ。諸君はすべてこゝで、私が受取つた大量の文書——文書の山——を見たであらう、そしてこれらの文書は、この具體的問題においては我々の政策のこの變更を實施するにあたつて數多の細々した困難が起るであらう、といふことを更に一層明白に確證した。こゝに問題の本質がある。そして我々は一擧にこれを解決しえないことは、何等の疑ひもない。若し我々が協同組合に關する第九回大會の決議を殘しておくならば、我々は自らを拘束するものである。大會に對して完全に責任を負ひ且つその政策を遂行する義務を負ふ以上、我々はこの決議の文字から外れることはできない、といふやうな地位に我々は自らをおいてゐるのである。決議は絕えず徵發のことを念頭においてゐる、だが諸君は租稅を以てこれに代へようとしてゐるのである。

どの程度に我々が經濟的取引の自由を殘すかは、我々は知らないのである。

我々が或る程度まで經濟的取引の自由を殘さなければならぬことは、疑ひがない。我々はこの

經濟的條件を考慮し且つ檢査しなければならぬ。だから、勿論、第九回大會の決議の撤廢は、一見或る程度まで隱蔽されてゐる問題を公然のものに轉化するやうな地位に新たに我々を導く。しかしこれは全く不可避的である。これを無視することは、疑ひもなく農民にとつて一層受けいれ易いところの、我々によつて變更された經濟政策の關係を根本的に無效にすることを意味する。

租稅を以て徵發に代へることは農民にとつて一層受けいれ易い經濟政策である、この點については、見たところ、この大會では異論がなく、一般に共產主義者の間にも異論はない。この點については我々は幾多の聲明書を無黨者の農民層からも受取つてゐる。これは全く確立された事實である。この一事からしても我々はかゝる變更に向つて進まねばならぬ。それ故私は協同組合に關する決議を今一度讀み上げよう、『協同組合に關するロシア共產黨第九回大會の決議は全く徵發の原則の上に樹てられたものであるが、徵發は今や現物稅を以て代へられたことに鑑み、ロシア共產黨第十回大會は決議する——

前記の決議を撤廢すること、を。

大會は中央委員會に對して、協同組合の設立および活動をロシア共產黨綱領に一致し且つ現物

稅による徵發の代用に適應するやうに改善し且つ發展させるやうな決議を作成して、黨およびソヴェートをして實施せしめることを委任する』。

私は中央委員會の名において大會が最初の決議——租稅を以て徵發に代へることに關する前の案——を採用し、それを根本的に改善して、黨中央委員會にそれを調和的にし、完成し且つ全露中央執行委員會に提出すべきことを委任するやうに提議する。第二の決議——協同組合に關するものも、また同樣である。

今や私はこゝでなされた注意に移らう。先づいつておかなければならないことは、私の受取つた覺書の問題であるが、覺書は山を成すほどの大量で、私はそれらが觸れてゐる問題を一々數へ上げることができないばかりでなく、それらについて更に今討論を繼續しうるやうに、それらを完全に分類する任務を全く斷念することを餘儀なくされたことである。遺憾ながら、私はこれを斷念することを餘儀なくされ、そして私は覺書を今後の討議のための材料として保存する。

我々は、多分、それらを新聞のために一層詳細に利用し、または少くとも、最近に租稅を以て徵發に代へることに關する法律の起草に從事しなければならないであらうところの、すべての同

志＝經濟學者、行政家および政治的指導者に、詳細な且つ實際に完全な要約を與へるやうに、蒐集し且つ分類することに成功するであらう。私は今たゞ二つの基本的な流れを區別し、二つの基本的な論駁または注意について、これらの覺書において取り上げられてゐる諸問題の二つの基本的な型またはグループについて一言することができる。

第一は技術に對する指示である。即ちこの方策を具體的に實施するにあたつて、如何なる困難が現はれるか且つ如何に多數の未解決問題が生ずるか、といふことに對して幾多の指示があつた。私はすでにその最初の報告において、この種の指示は全く不可避的であること、正に如何にしてこれらの困難の解決に着手すべきかを今直ちに知る可能性は全く存在しないことを述べておいた。

第二の――一般的――指示はすでに經濟政策の基礎に歸せられるものである。そしてそれについてこゝで多くの、大多數さへもの演說者が、その演說において述べ、また送られた覺書において指示されてゐる點は、小ブルジ"アジー、ブルジ"アジーおよび資本主義の不可避的な強化である。『諸君はかくして――と或る人々はその覺書に書いてゐる、――ブルジ"アジー、小工業の發

展のために、資本主義的關係の發展のために廣く門戸を開くのである』と。この點については、同志諸君、私は、その最初の報告で述べたことを或る程度まで繰返して、次の如くいはねばならぬ。即ち資本主義から社會主義への過渡期は、我々が國內にすでに大規模な資本主義的關係の支配を有するか、または國內において小經營が支配するかに從つて、種々の形態において考へられることは、何等の疑ひもない、と。そしてこの方面から私は次のことを指摘しなければならぬ、即ち數人は私の演說の結論を批判し、國家資本主義と小さな自由取引との相互關係を批判したが、辯士のうちの何人もこの點を批判しなかつたこと、そして前記の命題を批判した一通の覺書も送られず（私はそれらの大多數を通讀した、――そしてそれは約十通であつた）、私は一通の覺書をも見なかつたことを。もし我々が大工業が支配し、または、例へば、支配しないまでも、極めて強く發展してをり、また農業における大生產が極めて發展してゐる國家を有するならば、共產主義への直接の移行が可能である。これなくしては、共產主義への移行は經濟的に不可能である。同志ミリューチンはこゝで、わが國には調和的な體制があること、そして我々の立法は、彼の表現に從へば、或る程度までかゝる移行の調和的な體制を示してゐるが、この體制は小ブルジ

"アジーに對する多くの讓歩の必要を考慮してゐない、と述べた。かういつて、同志ミリューチンは、私の與へた結論を與へなかつたのである。創造された調和的な體制は、軍事的な要求、考慮および條件によつて口授されたのであつて、經濟的なそれによつて口授されたのではない。我々が大戰の後幾多の內亂に耐へることを餘儀なくされた時に我々が陷つてゐたところの、未曾有の荒廢の條件の下においては、その以外の出口はなかつたのである。勿論、一定の政策の適用にあたつては誤謬があつたし、幾多のやり過ぎがあつた、——このことは全く決定的に述べなければならぬ。しかし我々がおかれた戰爭の條件の下においては、根本においてこの政策は正しかつた。我々は、何等の賠償なしのすべての剩餘の取り上げに至るまでの卽時の獨占の最大限の適用以外には、他の何等の可能性をも持つてゐなかつた。我々はこの任務に對してこれ以外には着手のしやうがなかつた。これは調和的な經濟體制を意味するものではなかつた。これは經濟的條件によつて喚び起された方策ではなくて、著しい程度に軍事的條件によつて我々に强制されたものであつた。經濟的考慮についていへば、この場合今日基本的な考慮は、生產物の數量を增大することである。我々は主要生產力たる農民と勞働者との甚だしい窮乏、荒廢、過勞および消耗の

條件の下にあるのであるから、この基本的な考慮——何はともあれ生產物の數量を增大することに——にすべてのものを從屬させなければならぬ。

人々は私に質問する、租稅を以て徵發に代へることは、現在行はれてゐる播種カンパニヤといかなる關係があるか、と。そして同志達はその覺書においてこゝに多くの矛盾を見出さうと努めてゐる。根本においてこゝには經濟的一致があつて、矛盾はない、と私は思ふ。播種カンパニヤは、播種量を增大するために、すべての經濟的可能性を最大限に利用するところの多くの方策を考へてゐる。これがためには、種子を再分配し、それを保存し、運送しなければならぬ。しかし我々は、種子の豫備の貯藏がかやうに貧弱なので、それを運送しえない。農具の驚くべき不足の下に休耕地を縮少するためには、それを除去するためには、始終幾多の相互扶助方策に訴へなければならぬ。このことは幾多の縣においては思ひもよらないことである。もし極めて多くの場合に自らすでに租稅を以て徵發に代へる要求を提出してゐた無靠者の農民が、與へられた經濟的基礎の上にその經濟の發展の刺戟を租稅において得ようとしてをり、そして彼が春のカンパニヤまでに國家權力の側から、この方策が決定され且つ實施されるといふ聲明を聞くとすれば、——こ

れは播種カンパニヤの一般政策と矛盾するであらうか？　否、矛盾しない、そしてこれは激勵の要素を引き入れる方策である。これは極めて小さな激勵の要素であることを私は知つてゐるし、さういはれもしよう。問題はそこにあるのではない。もし我々が次の收穫において農民によつて集められるものとの交換のために、商品を積んでイギリスから來るところの十隻の汽船を直ちに農民に示すことができるならば、勿論、これは非常にヨリ現實的であらう。しかし實際に我々の商業の條件を知つてゐる人々をかくして欺瞞しようと試みることは、笑ふべきことであらう。石炭と小量の食糧とを積んだ數隻の汽船がイギリスを出發しつゝあることを我々は知つてゐる、これについて我々は同志クラシンから報知を得てゐる。我々は、まだ署名されない通商條約の締結に先立つて、個々の商人と半合法的に取引が行はれてゐることを知つてゐるが、ブルジョア政府は、勿論これを禁止しえないのである。我々が取りまかれてゐる經濟封鎖の環を破ることは困難な仕事であつて、どんなものにもせよ廣汎な約束をすることは、勿論、我々にはできぬ。いづれにもせよ、我々はできるだけのことをなし、この點において輸入計畫の變更を行ふであらう。

小經營主、小農の見地からすれば、租稅は額において徵發よりも少く決定されるであらう、そ

れはヨリ正確に決定されるであらう、またそれは彼等にヨリ多く播種する可能性を與へ、剩餘は經濟の改善に向けられることが保證される可能性を彼等に與へるであらう、――これは勤勉な經營主を最大限に援助する方針であつて、このことは播種カンパニヤにおいても提起されたところである。すべての異論は結局次の問題に歸着する、既ち經濟上共產主義に敵意を有する小ブルジョアジーがヨリ多く利益を得るか、それとも、社會主義への移行の基礎を成すところの、そして生產力の構成の見地から見て、換言すれば卽ち全社會的發展の基準から見て、社會主義的經濟組織を成し、進步的工業勞働者を結合し、プロレタリアートの獨裁を實現する階級を結合するところの、大工業がヨリ多く利益を得るかといふ問題である。

こゝで或る人々は、疑ひもなく、小ブルジョアジーが、クスタール商品生產がヨリ多く利益を得る、と述べ、または經濟的に結論しようと試み、そして特に、正に大工業は、利權のために、社會主義的なものにはならないであらう、……利權の援助によつて國家資本主義とのブロックが實現されるであらう、……といふ見地からそれを基礎づけようと試みた。* この考へ方には根本的な經濟的誤謬がある、と私は思ふ。小工業が相對的に、否絕對的にさへ非常にヨリ多く利益を得

ることが全く正確に證明されると假定しても、このことは、我々によつて企てられてゐる歩みの正しさを理論的にも實踐的にも少しも否定しない。結局のところ、社會主義の建設に關するすべての我々の事業を經濟的に鞏固にするためにはこれ以外の支柱はありえないのである。今、例へば、――これは說明のために分り易いと思ふ、――小工業が一〇〇の大いさで（これは一〇〇百萬の勞働單位であらうと、その他の何等かの一〇〇の單位であらうと、同じことである）、大工業が二〇〇の數字で表はされる、と假定しよう。例へば、小工業は資本主義的工業を基礎にして一七五の大いさに成長し、大工業はたゞ二〇〇に止まつてゐる、と假定しよう。大工業の停滯と小工業の巨大な發展とを前提しよう。私のなしたこの最惡の前提さへも、我々にとつて疑ひなき利益を意味するであらう、と私は思ふ。何故なら今や、昨年度がこれを示した如く、我々の燃料および運輸の條件が示した如く、これについては極めて好時機に同志ミリューチンが思ひ出さしめた食糧の分配が示してゐる如く、我々はやつと維持してゐるのだからである。

＊「……」の個所には速記錄で數語の脫落がある。――編輯者。

こゝで人々は次の如くいひ且つ覺書によつて質問した、『農村における資本主義の發展の下に

おいて諸君は如何にして勞働者國家を維持するか？』我々を脅かすこの現象、――農村における小生產と小ブルジョアジーとの發展、――この現象が最も大なる脅威を成してゐる。

利權に移らう。利權は先進諸國の資本主義とのブロックである。利權の性質を明瞭にすることが必要である。これは先進諸國における進歩した金融資本との同盟、ブロック、契約であり、そしてこの契約は我々に生產物の些かの增加を與へ、また相手方の生產物の增加をも與へるものである。もし我々が鑛石または木材を利權所有者に與へるならば、彼はこの生產物の分前の大部分を取り、我々には些細な控除を與へるであらう。しかし我々にとつては生產物の數量を增大することが極めて重要であつて、些細の控除でさへ我々にとつて巨大なプラスなのである。利權の援助の下に契約によつて確保されるであらうところの都市勞働者の狀態の些細な改善、――そしてこれは外國資本には少しも困難ではない、――それでさへもプラスであり、我國の大工業の鞏固化である。そしてこれは、經濟的影響によつて、プロレタリアートの地位の改善のために、その手に國家權力を維持する階級の狀態の改善のために役立つのである。

小農業および小工業がわが國の大工業にとつて危險になるほどの範圍に向上するだらうと怖れ

ることは、何等根據がない。工業が向上するためには、そのためには若干の徴候の出現が必要である。

もしわが國に凶作が現はれるならば（私はすでに諸君にボボフの小冊子のことを述べた）、もし我々が凶作と前年におけると同樣に貧弱な資金を持つならば、恐慌の如何なる縮少も小工業の發展も問題となりえない、即ち資本主義的關係の復興は農業的產業の剩餘の獲得といふ條件の下においてのみ可能である。後者は、――そしてこれは極めて重要なことであるが、――それが我我に本質的なプラスを與へる限りにおいて可能である。大生產と小生產とそのいづれがヨリ多く利益を得るかといふ問題は我々が利權と關聯して資本主義との協定によつて達成するところの市場の發展と我々の豫備の利用との結合の問題である。結果は實に、我々のうち何人がこの手段をヨリ良く利用するかに依存する。もし大工業の最も重要な部門をその手に有する勞働者階級がそれらのうちの最も重要なものに注意を集中ならば、勞働者階級は、小工業が利益を得るよりも多く利益を得るであらう、――相對的には後者がヨリ急速に發達しようとも、――と私は思ふ。わが國における纖維工業の狀態は、次の如くであつた、即ち一九二〇年末には疑ひもなく、改善が

見られたが、燃料を摑んでゐなかつた。もし我々が燃料を十分に持つてゐれば、我々は八億アルシンの織物を得且つ農民の生產物との交換のために自己生產の物資を持つであらう。

然るに燃料恐慌と共に生產の巨大な低下が行はれてゐる。もし今日外國における石炭の購入が實現され、そして一二週間のうちにこの荷物を積んだ汽船が到着するとしても、依然として我々はすでに數週または數ヶ月さへも失つたことになる。

大生產の狀態のあらゆる改善、若干の大工場を運轉する可能性は、成長しつゝある小ブルジョアジーの要素を少しも怖れる必要のないまでに、プロレタリアートの地位を鞏固にする。小ブルジョアジーと小資本とが成長することは、怖れる必要はない。怖るべきは、極端な飢餓、窮迫、生產物の不足の狀態があまりに長く續くことであつて、そのためにすでにプロレタリアートの力が完全に弱くなり、小ブルジョア的動搖と失望とに對抗することができなくなるのである。これは一層恐ろしい。生產物の數量が增大する場合には、小ブルジョアジーの發展は、それが大工業の發展を與へる限り、決して大きなマイナスではないであらう。されば我々は小農業を激勵しなければならぬ。その激勵のために我々がなしうるすべてのことを我々はなすべき義務がある。租

税はこの點において控目の方策の一つであり、而も確かな方策の一つである、それはかゝる激勵を與へるものであり、そしてそれは無條件に承認すべきものである。

（全集、第二十六卷、二三七―二五六頁）。

一九二一年四月九日モスクワ市および
モスクワ縣ロシア共產黨書記および細
胞責任代表者の集會における

食糧稅に關する演說（註六）

一九二一年四月十五、十六および十七日、「プラウダ」第八十一、八十二および八十三號所載。

同志諸君、食糧稅や食糧政策の變更、そしてまたソヴェート權力の經濟政策の問題については、多くの誤解を生むところの種々雜多の意見を聞かざるをえない。同志カメネフの同意によつて、發布されたばかりの法律をそのすべての細目にわたつて說明することが彼の分擔となるやうに、我々のテーマを分割することを許していたゞきたい。同志カメネフは、最初わが黨の中央委員會によつて任命され、その後人民委員會議によつて確認され、そして關係諸官廳の代表者達との幾

多の協議會において、最近發布されたすべての法律を仕上げたところの、委員會の代表者であつただけに、このことは一層目的に適つてゐる。これらの法律の最後のものは昨日發布され、そして今日我々はすでにそれを新聞紙上で讀むことができた。これらの法律の各々が幾多の實際問題を喚び起すこと、そして地方における黨およびソヴェート機關のすべての活動家がこれらの法律に十分に通曉し且つ實際に地方におけるそれらの適用の正しい實踐を仕上げるためには少からざる仕事を必要とすることは、疑ひない。

私は前述のすべての方策の一般的または原則的な意義に諸君の注意を止めたいと思ふ。ソヴェート權力とプロレタリアートの獨裁とがあれやこれやの程度に自由商業を承認する道に立つといふことを、如何に說明すべきか？　どの程度に自由商業と社會主義經濟に併立する個人經濟とは許容されうるか？　局限されたものにもせよ、ともかくも自由商業の許容の下においては不可避的のやうに見えるところの資本主義のこの復活は、どの程度に許されうるか？　かゝる變化は何によつて喚び起されたか、その眞の意味、性質および意義は何處にあるか、そして如何に共產黨員にはこの變化を理解することが必要であるか？　それは如何に說明しなければならないか、そ

してその實施の限界を如何に見なければならないか？　これが、大略、私が自ら提起してゐる課題である。

第一の問題は、多くの者にはあまりにも急激で不十分にしか基礎づけられてゐないやうに思はれるこの變化が、如何にして喚び起されたかにある。

この變化の基本的な且つ最も主要な原因は、異常に尖銳化した農民經濟の危機、一九二一年の春豫見されえたよりも遙かに困難となつたその非常に困難な狀態である。だが他方では、この狀態の結果はわが國の運輸の復興においても、我國の工業の復興においても示された。私が力說したいと思ふのは、食糧稅を以て徵發に代へることについて語る時、この代用の意義について論議する時、人々が特に、この移行の本質は何處にあるか、この移行は何處から來り何處へ行くか？といふ問題をみづからに課さないことのために、何よりも多く誤謬を犯すことである。戰爭によつて喚び起されたすべての荒廢の後、更に異常に困難な凶作、およびこれと關聯して、飼料不足――何故なら凶作は草にもあつたからだ、――家畜の疫病をも齎したところの、農民經濟の異常に困難な危機、農民經濟の生產力の低下、多くの地方においてそれを直接荒廢に全面的に宣告し

たこと、――これが一九二一年春の農民經濟の姿である。そしてそこには次の問題が現はれる、即ち異常に尖鋭化した農民經濟のこの危機は、ソヴェート權力が企てた徵發の代用と如何に關聯するか？　がこれである。この方策の意義を理解するためには、何よりも先づ、我々はその時何處から何處へ移行するか？　と自問しなければならない、と私はいふのである。

もし農民人口が支配的な國において勞働者革命が起り、工場や鐵道が勞働者階級の手へ移行するとすれば、勞働者階級と農民層との間の關係の本質は何處にあらねばならないであらうか？　明白に次の點にある、即ち勞働者は、今や彼等に屬する工場において、國にとつて、從つて人口の大多數としての農民にとつても必要な生產物を生產しつゝ、それらを自己の鐵道、自己の河船によつて運送し、それらを農民層に提供し、後者から農業生產物のすべての剩餘を受取るといふことに。これは全く明白であつて、殆ど何等の說明を必要としない。然るに食糧稅について考察する場合には、人々はいつもこのことを忘れてゐる。だがこのことは眼中におかれなければならぬ。何故ならたゞ過渡的方策たるにすぎない食糧稅の意義を明かにするためには、我々が何に向つて進まうと欲してゐるかを明瞭に理解しなければならないからである。そして私が上に述べた

ところによつて、我々は、農民の生產物が徵發による剩餘としてまたは租稅として勞働者國家に入るのではなくて、運輸機關によつて輸送されて、農民層に提供される、すべて彼等に必要な生產物との交換として入るやうになることに向つて進まうと欲してをり且つ進まなければならないことは、明瞭である。社會主義へ移行した國の經濟は、かゝる基礎の上に建設されうるのである。もし農民經濟が更にヨリ以上發展しうるならば、ヨリ以上の移行をも永久的に確保することが必要である、だがヨリ以上の移行は不可避的に次の點にある、即ち最も不利な、そして最も後れた、小さな、孤立的な農民經濟が、漸次に結合されて、社會的な大農業經濟を組織することに。社會主義者は常にこのことをすべてさう考へて來たのである。わが共產黨もまたまさにさう見てゐる。私は繰返していふ、誤謬と誤解との最大の源泉は、我々が行きうるしまた行かなければならない地點に到達しうるために必要な過渡的方策の特殊性が何處にあるかを考慮しないで、食糧稅を評價することにある。

食糧稅とは何であるか？　食糧稅とは、我々が少しばかり過去からも見、少しばかり未來からも見るところの方策である。租稅とは、國家が何等の賠償なしに住民から取り上げるところのも

のを意味する。もしこの租税が昨年徴發が決定されたものゝ約半分と決定されるとすれば、勞働者國家は、赤軍、すべての工業、すべての非農業人口の給養のため、生産の發展のため、我々が機械および設備についてその援助を必要とする外國との關係の發展のために、——勞働者國家は租税のみではやつて行くことができないであらう。一方では、それは、租税をこの徴發前にあつたものよりも約二倍少く決定することによつて、租税に立脚しようと欲し、他方では、農民生産のあれやこれやの剰餘と工業生産物との交換に立脚しようと欲してゐる。即ち、租税のうちには以前の徴發の一小片があり、またそれのみが正しいものである秩序、即ち勞働者階級に屬する國家權力の食糧供給機關を通じての、勞働者および農民の協同組合を通じての農民經濟の生産物と大社會主義的工場の生産物との交換の一小片がある。

かういふ疑問が生ずる、何故我々は、そこでは一部分が過去に屬し、そしてたゞ一部分のみが正しい線路の上に置かれる——而もその場合我々が正しい線路の上に一擧に置くことに成功するかどうか、また我々が正しい線路の上に置くこの部分が相當多いかどうかを、我々は決して確信してゐない——やうな方策に訴へることを、餘儀なくされるのであるか？　何故我々はそれほど

中途半端な政策に訴へることを餘儀なくされるのであるか、何故我々は我々の食糧政策および經濟政策においてかゝる方策をあてにしなければならないのであるか？　この方策は何によつて喚び起されたのであるか？　勿論、それはあれやこれやの政策に對するソヴェート權力の何等かの選り好みによつて喚び起されたものでないことを、誰でも知つてゐる。それは極めて必然的な、絶對絶命の狀態によつて喚び起されたのである。諸君の知る如く、ロシアにおける勞働者革命の勝利の後數年間、我々は帝國主義戰爭の後内亂に耐へなければならなかつた。そして今や誇張なしに次の如くいふことができる、即ち帝國主義戰爭に引きこまれたすべての國のうちで、戰爭がその領土で行はれたがために、最も多く損害を蒙つた國のうちでさへも、やはりロシアほどひどく損害を蒙つた國は一つもない。何故なら四年間の帝國主義戰爭の後、我々は三年間の内亂を忍ばなければならなかつた、そしてこの戰爭は、荒廢、破滅、生産條件の劣惡化の意味においては、この戰爭が國家の中央においてあつたがために、對外戰爭よりも遙かに甚しかつたからである。この絶望的な荒廢は、何故我々が最初、特に、内亂がシベリア、カウカサスおよび全ウクライナの如き穀物地方を切り離し、そしてまた石炭と石油との供給を切り離し、そして、またその

他の燃料の輸送の可能性を切斷した戰爭時代に、――何故我々が、包圍された要塞内にあつて、徴發の適用卽ち辛うじて存在する剩餘を農民から取り上げ、時にはたゞ剩餘のみならず、農民に必要なものさへも取り上げること、纔かに鬪爭能力を有する軍隊を保存し且つ工業をば完全には荒廢せしめないやうにすることによる以外には、支へることができなかつたかの基本的原因である。内亂中この任務は異常に困難であつた、そして他の黨によるその評價を取つて見るならば、それはすべてによつて解決することのできない任務と說明されたのである。メンシェヴィキとエス・エル、小ブルジョアジーとクラークの黨とを取つて見よう。これらの黨は内亂の最も激烈な瞬間に、ボリシェヴィキは狂人じみた仕事を始めたとか、すべての强國が白衞軍の援助にやつて來た時に、内亂において支へることはできないとかいつて、最も多く叫び立てたのである。實際において、任務は、すべての力の緊張を必要としたところの極めて困難なものであつて、それはただ、この期間に勞働者階級と農民層とによつて耐へ忍ばれた、犧牲がいはゞ超自然的であつたが故に、首尾よく遂行されたのである。勞働者階級は、その獨裁の最初の數年間におけるが如き食糧不足、飢餓を嘗て經驗しなかつた。そしてこの任務の解決のためには、すべての剩餘および農

民に必要な部分の取り上げの意味における徴發の外に、何等の可能性もなかつた、といふことは理解されうることである。『君もまた飢ゑてゐるが、我々はみんな一緒になつて自己の事業を固守して、デニキンとウランゲルとを驅逐しようではないか』――これ以外の如何なる解決をも考くることができなかつたのである。

政策における一つの經濟的プランがあつたこと、それがあれやこれやの體系の間において選擇をする可能性の下に採用されたことが問題なのではない。さういふことはなかつた。最小限度に食糧も燃料も保證されてゐなかつた時に、工業を復興することは考へることができなかつた。勞働者を全く四散させないために工業の遺物を保存し、軍隊を持つこと――これが我々の提起した任務であり、そしてそれは賠償なき徴發による外には――紙幣は勿論賠償ではないから――解決することができなかつた。我々はそれ以外の何等の出口を持つてゐなかつた。こゝから我々は出發した、そして我々が何に向つて移行しつゝあるかは、私がすでに諸君に述べたところである。如何にしてこの移行を實現するか――これがために實に租稅の如き方策があるのである。もしわが國の工業の復興が一層急速に成功するならば、恐らく、豐作の條件の下にお

いて、我々は一層速かに農業生産物と工業生産物との交換に移ることができよう。

諸君のうちの多くは、第九回黨大會において我々が經濟戰線への移行の問題を提起したことを記憶されるであらう。すべての注意は當時この問題に割かれた。我々は當時、我々は戰爭から免れた、と考へたのである、即ち我々は當時ブルジョア的なポーランドをその媾和條件の提出にとつて未曾有に有利にしたではないか。諸君の知る如く、媾和は決裂して、ポーランド戰爭とその繼續——ウランゲルその他は續いた。第九回大會から第十回大會に至る期間は殆どすべて戰爭に充たされてゐる。我々はやつと最近ポーランド人との最終的な媾和に署名し、それから數日の後、それのみが我々をカウカサスにおける永久的戰爭から我々を解放するところの、トルコ人との媾和條約に署名したことを、諸君は知つてゐる。今や初めて我々は世界的意義を有するイギリスとの通商條約を結んだ、今や初めてイギリスは我々と通商關係に入ることを餘儀なくされた。例へば、アメリカは今日までこれを拒んでゐる。これが即ち、如何なる困難さを以て我々がこの戰爭から匍ひ出したか、といふことついて諸君に與へられる觀念である。もし我々が第九回黨大會の提案を當時において實現することができてゐたら、我々は勿論生産物を遙かに多く與へることができたであらう。

本日同志カラレフがイヴァノヴォ・ヴォズネセンスクから、最も工業的な、プロレタリア的な、赤色の縣から私を訪ねて來た。彼は數字と事實とを持つて來た。第一年には僅かに六工場が作業し、そしていづれも一ケ月さへも全面的には作業しなかつた。これは工業の完全な休止であつた。しかるに過去一年間には、中斷なしに數ケ月宛、若干のものは半年宛作業してゐた二十二工場が、初めて運轉せしめられた。最近の數字によれば、生産計畫は一億五千萬アルシンと算定されてゐたが、それらは一億一千七百萬アルシンを生産した、それらは燃料を僅かに豫定されてゐた半分だけ受取つたのである。かういふ風に挫折したのである、而もイヴァノヴォ・ヴォズネセンスク的規模においてのみならず、全ロシア的規模において。これは農民經濟の破滅や、家畜の疫病や、停車場および港へ十分な數量の薪を輸送することの不可能と著しく關聯してゐた。イヴァノヴォ・ヴォズネセンスク人はこれがためにヨリ少い薪、ヨリ少い泥炭、ヨリ少い石油を受取つた。そして彼等が燃料を僅かに半分だけ受取つて、而もプログラムを一億五千萬のうち一億一千七百萬まで遂行したといふことは、奇蹟である。彼等は勞働生産性を增大し、ヨリ良き工場への勞働

者の移動を實行し、これからして多くの製造量比率を獲得した。こゝに我々が如何なる狀態に陷つてゐるかを示すところの、近くして正確な實例がある。製造業における全プログラムは第九回黨大會において六億餘と算定されたが、我々は今日三分の一も遂行しなかつた、だから、イヴァノヴォ・ヴォズネセンスク縣は最良であつたけれども、それでさへも一億一千七百萬を與へるにすぎない。諸君は何千萬のロシアとこの一億一千七百萬アルシンの織物とを表象することができる。これは貧困だ。工業の復興は、一九二一年の春その復興の可能性が全く考へられえなかつたやうな巨大な規模において、阻止されてゐた。我々には巨大な軍隊が必要であり、そしてそれは數百萬人に達するに至つた。それを冬急速に復員することは、運輸の崩壞の結果、非常に困難であつた。我々はこれらすべてを未曾有の緊張の代價によつて達成したのである。

これが卽ち作り出された狀態である。だが徵發を最後の限界まで引き下げること、卽ち四億二千三百萬プードの穀物の代りに、二億四千萬プードを取り上げること以外に、如何なる出口があるか。これは最少限度であつて、これだけはその場合に我々がどうにかかうにか食べて行ける平均的收穫の下において集めなければならないのである。これだけに局限されざらんがためには、

農民經濟に向上する可能性を與へなければならぬ。今や方策が必要だ。最善の方策は、勿論、大工業の復興であらう。いふまでもなく、これは最善の、經濟的に正しい唯一の方策であらう——工場の生產を强化し、農民　必要な生產物を、勞働者とその家族に必要な織物のみではなくて、最も簡單なものであらうとも、農民が極度に必要とする機械、道具をもヨリ多く與へること、これである。しかし織物について行はれたことは、金屬工業についても行はれた。かくの如きがわが國の狀態であつた。第九回大會後工業を復興することに成功しなかつたのは、戰爭の二年が襲ひかゝつて、燃料供給の不足も、運輸の不足も、農民經濟も最後の限界まで弱められたからである。農民經濟に最大限の援助を與へるためには、如何なる方策が採用されうるか？　徵發を低減し、租稅へ移る以外の方策はない、　そしてこの租稅は、　平年作の場合には二億四千萬と算定され、凶作の場合には恐らくもつと少く算定されるであらう。それによつて農民層は、最小規模に算定された若干額を提供しなければならないことを知り、最大の熱心を以て全勞働を生產に向けることができ、それによつてすべての餘餘の生產物が彼等に必要とするものを與へることができ、それによつて農民經濟に工業の計算のみによらないで自らを改善する可能性を與へうるであ

らう――これは最も正しいものであらう、これは最も合理的なものであらう、しかしそれだけま
だ力が足りない。租税は最小規模に算定されてをり、そしてその諸地方への適用は、すでに小工
業の復興を與へる、何故なら我々は我々の欲する期間内に大工業を修復することができないから
である。このことはすでに、我々が記した最良の分前を與へたところのイヴァノヴォ・ヴォズネセ
ンスクのプログラムによつて證明されてゐる。燃料の貯藏がすべての工場における生産を保證す
るに足るやうになるには、まだ一年待たなければならぬ。もし我々がこれを一年間になし了へる
なら、結構であるが、恐らく二年間はかゝるだらう。我々は農民を確保しうるかどうか？　もし
收穫が良好であるならば、これは可能であらう。

食糧税の問題が決定された黨大會においては、わが中央統計局の指導者、同志ポポフのロシア
の穀物生産に關する小冊子が配布された。この小冊子は數日中に增補された形で發行される、そ
してすべての人がそれに通じなければならぬ。それは穀物生産に關する觀念を與へる、それは、
我々が行ひ、そして全人口の正確な數字を與へ且つ經濟の規模を大略決定したところの、調査の
資料を基礎にして考察されてゐる。その中には、一デシャチンから四十プードの收穫の場合農民

經濟はソヴェート・ロシアの今日の領土において五億プードの剩餘を與へうるだらう、といふこ
とを示してゐる。我々はその時都市人口の需要――三億五千萬プード――を完全に充たし、そし
て外國貿易のためおよび農民經濟の改善のための貯藏を有するであらう。凶作は非常に大であつ
て、平均して我々は一デシャチンから二十八プード以上を持たなかつた。不足が生じた。統計家
が考へてゐるやうに、一人當り十八プードが必要だと看做すならば、軍隊および工業の半飢餓的
生活を保證するためには、各人から三プードを取り上げ、各〻の農民を若干の食物不足に宣告し
なければならぬ。今やかゝる狀態の下においては、我々には徵發を最大限低減してそれを租税に
移す以外の出口はなかつたのである。すべての力と配慮とを小農民經濟の改善に向けなければな
らぬ。それに織物、機械その他の大工場製品を與へること、我々はこの任務をこれまで解決する
ことができなかつたが、しかし今や即時にそれを解決しなければならぬ、そして小工業の援助の
下にそれを解決しなければならぬ。新しい方策の實施の第一年はすでに結果を與へなければなら
ぬ。

今や、何故農民經濟に最も多く注意が向けられるのであるか？　何故なら、たゞこゝからのみ

我々は我々に必要な食糧と燃料とを得ることができるからである。勞働者階級は、××階級として、自己の××を實現する階級として、經濟を正しく指導したいと欲するならば、こゝに、――農民經濟の危機のうちに、最も弱い箇所が示されてゐる、と語らなければならぬ。大工業の復興に今一度着手し、そしてこの同じイヴァノヴォ・ヴォズネセンスク地方において二十二工場ではなくて、全八十工場が作業するやうになるためには、修正が必要である。その時にはこの大工場の織物は全人口の需要を充たすであらう、そしてその時には農民人口から生産物が租税の形で取られないで、勞働者階級がそれに與へる工業生産物との交換の形で取られるであらう。こゝに我々が經驗しつゝある過渡がある、この時には、すべての人の食物不足の代價によつて、それなくしては工場の遺物をも、鐵道をも、白衞車に抵抗を示す軍隊をも維持することができないところのものを救ふために、缺乏と飢餓とを區別しなければならないのである。

ソヴェート權力は徵發と窮迫と崩壞との外には何物をも住民に與へなかつたといつたメンシェヴィキ（註七）は、我々の徵發を誹謗して、部分的平和の復興の後、內亂の終結の後、短期間に我國の工業を復興することは不可能であつた、といつた。しかし最も富裕な國々においてさへ、工業を

復興しうる時間は、數年間を以て數へられるではないか？　フランスのやうな富裕な國でさへ、その工業の復興には多くの時間を費さなければならぬ、だがフランスは、我々が損害を蒙つたほどこの戰爭によつて損害を蒙らなかつたではないか、何故ならフランスにおける荒廢はたゞ國の一小部分に觸れたにすぎないからである。我々が不完全な平和の第一年において、例へばイヴァノヴォ・ヴォスネセンスクにおいて八十工場のうち二十二工場が運轉せしめられ、而も一億五千萬のうち一億一千七百萬が仕上げられた、といふ成績を上げたことは、驚くべきことである。徵發はその當時においては不可避的であつたが、今や我々は食糧政策を變更しなければならなかつた、卽ち徵發から租稅へ移行しなければならなかつた。このことは、疑ひもなく、農民の狀態を改善するであらう、このことは、疑ひもなく、彼等に彼等が有するであらう穀物のすべての自由な剩餘を、地方的なクスタール工業品とにもせよ交換に出しうることを、ヨリ正確に、ヨリ決定的に且つヨリ確信的に考慮する可能性を與へるであらう。されば こそソヴェート權力のかゝる經濟政策が必要なのである。

今や、結論として、私は、如何にしてこの政策が共產主義の見地と調和しうるか、そして共產

主義的ソヴェート權力が自由商業の發展を助長するといふことは如何にして生ずるか、といふ問題について述べたいと思ふ。これは共產主義の見地から結構であるかどうか？　この問題に答へるためには、農民經濟において行はれた變化を注意深く觀察しなければならぬ。最初狀態はかうだつた、卽ち我々は地主の權力に對する全農民層の攻擊を見た。地主に對しては、勿論、異つた意向からではあるが、貧農もクラークも同樣に進出した、卽ちクラークは地主から土地を奪ひ、その土地の上に自己の經濟を發展させる目的を以て進出したのである。こゝでは卽ちクラークと貧農との間に異つた利害と傾向とが暴露された。ウクライナにおいてはこの利害の不一致は今日でも、わが國におけるよりも遙かに明瞭に見られる。貧農は地主からの土地のこの移行を直接に極めて少ししか利用しえなかつた、何故なら彼等はこれがために、材料をも器具をも持つてゐなかつたからである。そしてこゝに我々は、沒收された土地をクラークに掴ませざらんがために貧農が組織されつゝあるのを見る。ソヴェート權力はわが國に生れた貧農委員會（コムネザモデ）やウクライナにおける『貧農委員會』に對して援助を示してゐる。結果において何が得られたか？　農村における支配的要素は中農であつた、といふことが結果において得られたのである。我々はこれを統計によつて知つてゐるが、農村に住つてゐるすべての人々は、これを自己の觀察によつて知つてゐる。クラーク層の側への極端はヨリ少くなり、貧農の側への極端はヨリ少くなり、そして人口の大多數は中農的なものに接近して來たのである。我々がわが國の農民經濟の生產性を向上させなければならないとすれば、我々は、先づ第一に、中農を考慮しなければならぬ。共產黨はこれに應じてその政策を建てなければならなかつたのである。

一たび農村が中農的となれば、中農が經濟を向上させるのを援助しなければならぬ。そしてその外に、彼等に對しては、我々が勞働者に提示する要求を提示しなければならぬ。最近の黨大會において、主要な問題は食糧宣傳であつた、卽ちすべての力を經濟戰線へ、勞働生產性を向上させ、生產物の數量を增大せよ、といふ宣傳がこれである。この任務を遂行することなしには、如何なる前進も不可能である。もし我々がこのことを勞働者に對していふならば、我々は同じことを農民層に對してもいはなければならぬ。國家は農民から一定の租稅を取り上げるが、その代りに、租稅を支拂つた後農民が、彼からはそれ以上何物も取り上げられないこと、すべての剩餘は經濟の發展のために彼の手許に殘されることを知つて、自己の經濟を擴張すべきことを要求して

ゐる。卽ち、農民層に對する政策における變化は、農民層自身の狀態が變化したことによつて說明される。農村はヨリ多く中農的となつた、そして生產力の向上のためには我々はこのことを考慮しなければならないのである。

私は次になほ、私が一九一八年、ブレスト媾和の締結の後、いはゆる『左翼共產主義者』とのグループと論爭しなければならなかつたことを思ひ出す(註八)。當時黨內にゐた人々は、如何に若干の共產主義者が、ブレスト媾和の締結がすべての共產主義的政策を掘り崩すことを懼れたかを思ひ出すであらう。就中、これらの同志達との論爭において私はいつた、國家資本主義はわがロシアにおいては恐しいものではない、それは一步前進であらう、と。これは非常に奇妙に聞えた、どうしてさうなのであるか——ソヴェート社會主義共和國において國家資本主義が一步前進であるとは？ そして私はこれに答へてかういつた、我々がロシアにおいて何を見るかを、現實の經濟的關係の見地から注意深く觀察せよ。我々は少くとも五つの異つた體制(システム)または制度(ウクラード)、または經濟的秩序を見る、そして下から上まで數へるならば、それらは次の如くである。卽ち第一のものは、父家長的經濟である、これは農民經濟がたゞ自らのためにのみ働く場合、または遊牧的

或ひは半遊牧的狀態にある場合であるが、かゝるものはわが國にいくらでもある。第二のものは小商品經濟である。この場合にはそれは商品を市場で販賣する。第三のものは國家資本主義經濟、——これは資本家、小私經濟的資本の現はれである。第四のものは國家資本主義であり、第五のものは社會主義である。そしてもしぢつと見るならば、我々は、今もなほロシアの經濟體制、經濟構造において、これらすべての關係を見る、といはねばならぬ。我々がいかなる場合にも忘れることができないことは、我々が屢〻國家に屬する工場において社會主義的勞働者關係を見ることであつて、そこでは勞働者自身が燃料、原料および生產物を集め、またはその時には勞働者は工業生產物を農民層の間に正しく分配することに努力し、それらを運輸機關によつて輸送する。これは社會主義だ。しかしそれと並んで小經營が存在し、そしてそれは全く社會主義に依存しないで存在する。何故それは社會主義に依存しないで存在するか？ 何故なら大工業が復興されてゐないから、また社會主義的諸工場は、恐らくそれが獲得しなければならないもの〻僅か十分の一の分前を獲得しえてゐるにすぎないからである。そしてそれらがこれを獲得しない限りは、小經營は依然として社會主義的諸工場に依存しないであらう。國の信じ難いほどの荒廢、燃

料、原料および運輸の不足は、小經營が社會主義から離れて存在することに導くのである。そして私はいふ、かゝる條件の下において國家資本主義とは——何であるか？　と。これは小生産の結合であらう。資本は小生産を結合し、資本は小生産から成長する。この點については眼を蔽ふ何物もない。勿論、商業の自由は資本主義の成長を意味する。これからはどうしても逃げることができぬ、そして逃げ且つ避けようと思ひつく者は、たゞ空語を喜ぶものである。もし小經營が存在するなら、もし交換の自由が存在するなら、——資本主義は常に現はれるのである。しかしこの資本主義は我々にとつて恐ろしいであらうか、我々が工場、運輸および外國貿易を持つてゐる場合に？　そしてこの場合に私はいつた、この資本主義は我々にとつて恐ろしくはない、と。私は今日でもそれを繰返すであらうし、またこれは爭ふ餘地がないと考へてゐる。

我々は利權契約を結びたいと強く考へてゐるが、遺憾ながら今日に至るまで一つも結んでゐない。しかしそれでも、我々は今や、最後に利權について會談した數ヶ月前におけるよりもそれに近づいてゐる。經濟關係の見地から見て利權とは何であるか？　これは國家資本主義である。ソヴィート權力は資本家と契約を結ぶ。この契約によつて彼には若干の數量の物品が委任される、

即ち原料、鑛山、産業地、鑛石、または最近の利權計畫の一つにおけるが如く、特殊な工場さへも（ベアリング〔軸受〕に關するスウェーデン企業の利權計畫）。社會主義國家權力は資本家に自己の所有する生産手段——工場、材料、鑛山を提供し、資本家は契約當事者として、社會主義的生産手段の賃借者として活動し、自己の資本に對して利潤を受取り、社會主義國家に生産物の一部分を提供するのである。

何故これが我々にとつて必要であるか？　何故なら我々は直ちに生産物量の增大を獲得するであらうが、而もこれは我々にとつて必要だ、我々自身これをなし遂げる力がないからだ。そしてこゝに國家資本主義が生れるのである。それは我々にとつて恐ろしいか？　恐ろしくはない、何故なら我々はどの程度に利權を讓渡するかを決定するであらうから。例へば、石油利權である。これは一擧に我々に數百萬プードの燈用石油を、我々自身が生産するよりも多くを與へるであらう。それは我々にとつて有利である、何故なら農民はその穀物の剩餘をこの燈用石油の代りに、そして紙幣の代りではなく與へるであらうし、そして我々は今や全國の狀態における改善を齎す可能性を持つであらうから。さればこそ、自由商業から不可避的に成長するであらうところの資

本主義が我々にとつて恐ろしくないのである。それは取引の發展の結果であり、工業生産物の交換の結果なのである、尤も農業生産物と小工業の生産物との交換ではあるが。

昨日の法律によつて諸君は知つてゐる、勞働者には、若干の産業部門において、現物賞與の形で、彼等の工場で生産された生産物の若干の部分を、穀物との交換のために受取ることが許されてゐるといふことを。かくて織維勞働者は國家の需要を充たすといふ條件の下に織物の一部分を自ら受取り且つそれを自ら穀物と交換するであらう。これは勞働者の狀態および農民の狀態をヨリ速かに改善するために必要だ。我々はこれを全國家的規模において行ふことはできないであらうが、これはどうしてもなされなければならぬ。だから我々は、商業の自由は或る程度資本主義の發展を意味するといふことに少しも眼を閉さず、そしてこの資本主義は國家の統制の下に、監督の下にあるであらう、といふのである。勞働者國家がその手に工場や鐵道を握つてゐる場合には、この資本主義は我々にとつて恐ろしくはない。これは我々に農業の生産物と隣人のクスターリとの間における經濟的取引の改善を與へるであらう、このクスターリは工業生産物における農民の需要をさう多くは補塡しないであらうが、やはり或る程度補塡するであらう。やはり農民經

濟は以前と比較すれば改善されるであらう、そして我々は是非ともそれを改善しなければならないのである。そして小工業をして或る程度まで發展させておかう、國家資本主義をして發展させておかう――これはソヴェート權力にとつて恐ろしくはない。ソヴェート權力は事物をまともに見、明らさまに語らなければならないが、しかしこれを統制し、この程度を決定しなければならぬ。

もし我々が大多數を我々の手に保存して、若干の工場を利權所有者に提供するならば、利權は恐ろしくはない。これは恐ろしくはない。もしソヴェート權力がその所有する大部分を利權に分與するならば、勿論、それは全く愚劣であらう。この時には利權が生じないで、資本主義への復歸が生ずるであらう。我々がすべての國有企業を掌中に維持し、そして如何なるものを且つ如何なる條件に基いて、また如何なる規模において我々が利權に提供することができるかを、正確且つ嚴密に考量する限りは、利權は恐ろしくはない。成長する資本主義は統制、監査の下にあり、そして國家權力は依然として勞働者階級および勞働者國家の掌中にある。利權の形で存在するであらうところの資本と同樣に、協同組合を通じて、商業の自由を通じて不可避的に成長するであ

らうところのものも、我々にとつて恐ろしくはない。我々は農民層の狀態の發展と改善とに努力しなければならぬ。我々はこれが勞働者階級の利益となるやうにすべての努力を緊張しなければならぬ。同時に、大社會主義的工業がこれまでよりも遙かに復興されるやうに、全國家經濟を考慮しつゝ、農民經濟の改善のため、地方的機構の發展のためになしうるすべてのことを、――これらすべてのことを我々は利權の援助の下に、利權なき場合よりも早くなすであらう。息繼ぎし且つ恢復した農民經濟の援助の下に我々は、農民經濟においてこれまであつた絶對的窮迫の下におけるよりも早くなすであらう。

これが卽ち、共產主義的見地から如何にこの政策を評價しなければならないか、何故それは必要であるか、何故それは正しく適用される場合には我々に卽時の、そしていづれにもせよ、それが適用されない場合よりも急速な改善を與へるか、といふ問題について、私が述べようと思つてゐたことである。

（全集、第二十六卷、二九七―三〇八頁）。

小册子『食糧稅について』のプランと要領（註九）

一九二一年三―四月に書かれ、一九二五年『レーニン・スボールニク』第四卷に初めて揭載されたもの。

一　大　略

一、租稅の一般的意義。

退却か？　前進か？（商品交換へ）。
『プレスト』かどうか？
徵發（剩餘の取上げ）から商品交換への移行。
『戰時』共產主義對正しい經濟關係。

二、租稅と商業の自由。

租稅と商業の自由。
商業の自由對小經營の經濟的基礎（「地方的取引」）。
〃　　對プロレタリアートの國家權力。
〃　　對利權。
商業の自由の程度と條件。

三、中農（平均化）。

クラークへの割當か？
或ひは中農か。
平均化。

勤勉な農民。
生產物の增大。

四、社會主義的農業への移行の道。

小農。
コルホーズ。
電化。

五　協同組合。

六　官僚主義との鬪爭。
（その經濟的基礎）。

七　國際情勢と國內關係

八　黨および政治の危機（一九二〇—一九二一年）。

メンシェヴィキプラス社會革命黨員プラス無政府主義者（クロンシュタット）。

九、農民層との『協調』か？　または獨裁か？

十、無黨者會議。

九へ追加

官僚主義およびそれとの鬪爭。

協同組合。

二

一層正確に內容を傳へるだらう。

一般的任務および與へられた政治的瞬間の諸條件との關聯における、租稅に

租稅を以て徵發に代へることについて、農民層との協調について（または農民國における勞働者政府の任務について）、および農民層に對する勞働者階級の任務について。

よる徴發の代用について。

困難だ！

與へられた政治的瞬間の特殊な諸條件との關聯における、租稅による徴發の代用。

租稅を以て徴發に代へること、その原則的意義——『戰時』共產主義から正しい社會主義的基礎へ。

徴發でもなく租稅でもなくて、大（『社會主義的』）工業生產物と農民生產物との交換、かくの

如きが社會主義の經濟的本質であり、その基礎である。

徴發は『理想』ではなくて、苦くして悲しい必要だ。逆の見解は危險な誤謬だ。

徴發と『機構』。『機構』なくしては我々はとうに滅亡してゐたであらう。機構の改善のための組織的にして執拗な鬪爭なくしては、我々は社會主義の基礎の創造前に滅亡するであらう。

勞働者と農民層との同盟＝ソヴェート權力のアルファおよびオメガ。その鞏固さは『必要にして十分なる』條件である。

デニキン一派に對するこの同盟は、經濟的建設における（同じ）同盟ではない。

前者＝ブルジョア革命。

後者＝社會主義革命。

戰爭から建設への移行。

一九二〇年第九回大會（一九一八年四月比照）對第十回大會（一九二一年三月）。

徴發から正しい商品交換への移行。

租稅は原則において穀物その他の生產物の自由交換と一致しうるものであり、調和しうるもの

である。

租税の問題およびこの種のその他の問題における形式的民主々義對階級關係の現實性。

強制プラス説得（徴發において）——租税において——『商品交換』において。

どの程度に『商業の自由』？　租税支拂の後。

経驗、實踐へ　地方的活動家

の自由……　の任務。

小商業……　地方的權力の　地方的權力の。

任務

多くの大國におけるプロレタリア革命以前の經濟關係または經濟體制の型＝上層では集積？

下層では農民的商業の自由……

一種の國家資本主義（一九一八年四月比照）。

中農への『割當』か？　クラークへのそれか？　ブルジョア的關係の復興か？

農村の平均化

『貧農には』

平均的再分割を與へた

地主の土地を與へた

クラークから取り上げさせた

國家の特別の援助を與へた。

今や生産の増大が中心となり、試金石となりつゝある（なつた）（ロシア共産黨綱領比照）（註一〇）。

こゝから中農への『割當』が生ずる。

我國の經濟的昂揚の『中心人物』としての勤勉な農民。

個人的商品交換。

コルホーズの役割——人々は多くの馬鹿なことをした。法律の不履行および不器用のために裁判中だ（三年間）。

農民の『個人主義』は、彼の『自由商業』は社會主義にとつて恐ろしいか？　否。

電化——尺度だ。完成されたプラン、しかしプランであり（從つて）基準である。（すべてのプランは尺度、基準、燈臺、道標等々である）。

もし十—二十年間のうちに電化があるならば、小農の個人主義と地方的取引における彼の自由商業とは少しも恐ろしくはない。もし電化がないならば、資本主義への復歸はやはり不可避的である。

國際情勢は好都合になつた——新しい均衡。

聯合國對ドイツ。

アメリカ對日本（およびイギリス）

アメリカ對ヨーロッパ。

帝國主義世界對『アジア』

（七分の一）　（七分の四）

（0,250×7＝1,75）（1,750のうち1,000）（註一）

農民層との十—二十年間の正しい關係は世界的規模における勝利を保證する（成長するプロレタリア革命の遲延の場合においてさへ）、然らずんば二十—四十年間の白衛軍のテロルの苦難。

彼等の分裂は我々の結束だ。

あれか——これか。第三のものは與へられない。（Aut—aut, Tertium non datur.）

農民層との『協調』か？

憲法議會（公然および隱然の）、投票、憲法の改正、社會革命黨員とメンシェヴィキ、プラス無政府主義者。

クロンシュタットの經驗と教訓（ソヴェート權力の政治史における新しきもの）。

『政治』とは何ぞや？

（一）その大衆に對するプロレタリアートの前衛。

（二）農民層に對するプロレタリアート。

（三）ブルジョアジーに對するプロレタリアート（と農民層）。

協同組合。

その經濟的および政治的（メンシェヴィキと社會革命黨員）方面。

注意

特に『獨裁』に對する『協調』の概念の不分明。

メンシェヴィキ、社會革命黨員、無政府主義者に對する容赦なき闘爭。

疲勞、衰弱、絶望……
無力……『息繼ぎ』……
官僚主義（農民層の對立物）。

注意

勞働者階級においても、
農民層においても。

注意——

『上層』の墮落と『下層』からの新人の擡出＝（イ）青年、（ロ）無黨者。

注意——

無政府主義とそれに對する『マルクス主義的』鬪爭。『絶望』？

同じテンポではない（軍事的建設と平和的建設）。

一九一八年四月においても一九二〇年四月においても我々は戰爭から政治の同じ線路上における單なる移行としての平和的建設への移行を代表した。

複雜な移行——農民層に對する異つた態度、異つたテンポ、異つた情勢。

軍隊の復員。匪賊行爲。（破滅。七年間の戰爭）。

白衛軍のテロルかプロレタリアートの（益々穩かな）指導、その獨裁か。

『獨裁』てふ語における恐ろしきもの。

規準として、指標として、助言者として、——および政治スローガンとしての無黨者農民（＝社會革命黨員とメンシェヴィキ）。投票すべきか？ 横力を廢棄すべきか、或ひは彼等との協調を求むべきか？

注意——

無黨者會議はメンシェヴィキと社會革命黨員プラス無政府主義者の絶對的な政治的道具ではない。

護民官達をして注意深からしめよ！

（Caveant consules！）

通常のブルジョア的黨派性とブルジョア的議會主義との通常の態度は——『狩獵』への讓歩を基礎にしてゐる。

しかし我々はブルジョア的議會主義、『通常の（ブルジョア的）黨派性の基礎自體を認めないのだ。

注意

注意――　　注意――　　注意

『××の死滅の經濟的基礎』（『××××』）――こゝには、また官僚主義の死滅、上層と下層との死滅、不平等の死滅の『經濟的基礎』がある（『資本主義から共産主義への第一歩』比照）。**社會主義の經濟的基礎はまだ存在しない。それは何にあるか？　農民層との商品交換のうちに。**

官僚主義との闘爭のために。

注意

注意

プラス　註。一九二一年春（二―三月）の政治的危機（『移行』）および黨の危機（一九二〇年十一月または九月）の意義。黨の上層がその大衆に順應すべきかまたはその逆たるべきか？　黨が大衆（プロレタリアートプラス次に農民層）へかまたはその逆か。

三

國家資本主義は恐ろしきものではなくて、望ましきものである。　　國家資本主義から學ぶこと。

實例――

（一）　利權。

（二）　協同組合。

（三）　仲買人。

（四）　賃貸借。

四、未組織の資本主義。

すべて適度に且つ或る條件の下において。

この程度とは如何？

經驗が示すであらう。

約四分の一。

『取引』

『要素』これが一七九四年對一九二一年の言葉だ。

一主として且つ眞先に食糧稅と取引。

投機との闘爭。何ぞや？
食糧徵發者への訓令——
100＋100＝200％
？ M 100＋25
60＋60

これら（三および四）の形態は弱い、何故なら我々が弱く且つ愚かだから。官僚主義……參照。

商業の自由は（イ）農民經濟の生產力の發展のため、（ロ）小工業の發展のため、（ハ）官僚主義との闘爭のため。

程度は？ 條件は？

實踐が示さなければならぬ。

食糧徵發者——100％を集めよ
100＋100＝200

大學：100＋25＝125
60＋60＝120

投機との闘爭とは？

何ぞや？

政治的方面——

小ブルジ"ア的要素を投げ棄てる（一八一八年五月五日）（註二）。

『模範』フランス革命を一九一八年九月十日と比較せよ。反カウツキー。

悲觀論か樂觀論か？

力の考慮。謹直と猛烈な熱情。

四　若干の結論

政治への移行。

一九二一年春の經濟は政治へ、『クロンシュタット』へ轉化した。

社會革命黨員とメンシェヴィキ（ダン、ロジコフ一派、マルトフ一派）との役割。『小さな移動』は右へ行かうと左へ行かうと同じことだ。

ミリュコフはチェルノフまたはマルトフよりも賢い、即ちこれらの自惚れの馬鹿者、空語の英雄、小ブルジ゛ア的學說の騎士（一七八九—一八四八—一九二〇年）より賢くなることは困難ではない。

彼等にふさはしい場所は監獄であつて、無黨者會議ではない。

『要素』の動搖（一七九四年對一九二一年）。

（『要素』とは何ぞや）

および堅牢さ。

選擧と

人物の拔擢。

悲觀論か樂觀論か？　罪惡および困難の最も眞面目な評價。

鬪爭における獻身。MM＝

諸結果——

（一）『取引』。何ぞや？

（二）小工業。原料は何處に？

（三）交換。

（四）資本主義。

（五）國家資本主義。

（六）地方の創意。

（七）メンシェヴィキと社會革命黨員、プラス無黨者。

（全集、第二十六卷、三一〇—三一六頁）。

食糧税について

——新政策の意義とその諸條件（註一二）

一九二一年四月に書かれ、一九二一年五月單行小冊子として印刷されたもの。

序に代へて

食糧税の問題は現在特に多くの注意、討論、論爭を惹き起してゐる。全く理解されうることである、何故ならこれは實に今日の條件の下における主要な政治問題の一つだからである。討論はやゝ混亂的な性質を帶びてゐる。原因についてはあまりによく分つてゐるこの罪には、我々すべてが惱んでゐる。この問題をその『焦眉の』方面からではなくて、その一般原則的方面から取扱ふ試みは、ヨリ多く有益であらう。換言すれば、我々がいまその上に今日の一定の實踐

的方策の模様を描くところの繪畫の一般的、根本的な背景を一瞥することである。

この試みをするために、私の小冊子『今日の主要任務。――「左翼」小兒病と小ブルジョア性とについて』から長い拔萃を引用したいと思ふ。この小冊子は一九一八年ペトログラード・ソヴェートから出版され、そのなかには、第一に、ブレスト媾和に關する一九一八年三月十一日の新聞論說、第二には、一九一八年五月五日附の、當時の左翼共產主義者の一グループとの論爭を含んでゐる（註一四）。論爭は今必要がないから、私はそれを省略し、『國家資本主義』に關する考察と資本主義から共產主義に至るわが現代の過渡的經濟の基本的諸要素に關する考察とに關係する部分のみに止めよう。

當時私はかう書いた――

ロシアの現代の經濟について

（一九一八年の小冊子から）

『……國家資本主義はわがソヴェート共和國の今日の狀態に對しては一歩前進であらう。例へ

ば、もし半年の後にわが國に國家資本主義が確立されたならば、これは巨大な成功であり、そして一年の後にはわが國において社會主義が終局的に固められ且つ打ち破り難きものとなることの最も確かな保證であらう。

誰でもこの言葉を聞いて、如何に貴い憤怒と共に後しさりするかを、私は想像する。……どうして？　ソヴェート社會主義共和國において國家資本主義への移行が一歩前進であらうか？　……これは社會主義への裏切ではないか？』

『……この點こそ一層詳細に論及しなければならぬ。

第一には、社會主義ソヴェート共和國と呼ぶ權利と根據とを我々に與へるところの資本主義から社會主義への移行とはまさに如何なるものであるかを明かにしなければならぬ。

第二には、わが國における社會主義の主要な敵としての、小ブルジョア的經濟條件および小ブルジョア的要素を見ない人々の誤謬を暴露しなければならぬ。

第三には、ブルジョア國家と經濟的に異つてゐるソヴェート國家の意義をよく理解しなければならぬ。

すべてこれらの三つの事情を考察しよう。

ロシアの經濟に關する問題を課せられて、この經濟の過渡的性質を否定した人はまだなかつたやうである。一人の共産主義者も、「社會主義ソヴェート共和國」といふ表現が社會主義への移行を實現せんとするソヴェート權力の決意を意味するものであつて、今日の經濟制度を社會主義的なものと認めることを意味しない、といふことを否定しなかつたやうである。

しかし移行といふ言葉は一體何を意味するか？　それは、經濟に適用された場合には、現在の制度のうちには資本主義と社會主義とそのいづれもの要素、部分、斷片があることを意味するものではないか？　すべての人は、さうである、と承認する。しかしこのことを承認しつゝ、すべての人は、ロシアに現存する種々の社會經濟制度（ウクラード）の諸要素がまさに如何なるものであるかを熟考しない。だがこゝにすべて問題の中心がある。

これらの要素を數へ上げて見よう——

（一）父家長的な、卽ち著しい程度に自然的、農民的な經濟。

（二）小商品生産（穀物を賣る者のうち農民の壓倒的多數はこれに屬する）。

（三）私經濟的資本主義。

（四）國家資本主義。

（五）社會主義。

ロシアは非常に廣大であり非常に多樣であるから、社會經濟制度（ウクラード）のすべてのこの種々の型は互ひに絡みあつてゐる。狀態の特色はまさにこゝにある。

如何なる諸要素が支配するか、といふ疑問が起る。小農民國では小ブルジョア的要素が支配し、また支配せざるをえないことは明瞭な事實である。卽ち農民の大多數、そして壓倒的多數は、小商品生産者である。國家資本主義の外殼（穀物の獨占、統制下にある企業家と商人、ブルジョアの協同組合役員）をわが國のこゝかしこで投機業者が引き裂いてゐる、そして投機の主要な對象は穀物である。

主要な鬪爭はまさにこの領域で展開される。この鬪爭は、もし「國家資本主義」といふやうな經濟的範疇の用語でいふならば、誰と誰との間に行はれるであらうか？　私が今數へ上げた順序における第四と第五の段階の間に行はれるであらうか？　勿論、否。こゝでは國家資本主義が社

會主義と闘爭するのではなくて、小ブルジ・アジーブラス私經濟的資本主義が一緒になり、共同して、國家資本主義に對しても、社會主義に對しても闘爭するのである。小ブルジ・アジーは、國家資本主義的であらうと、國家社會主義的であらうと、あらゆる國家的干渉、計算および統制に對して反對する。これは全く爭ふべからざる現實の事實であつて、それを理解しないことのうちに幾多の經濟的誤謬の根據がある。投機業者、暴利商人、獨占の破壞者——これは我々の主要な「內」敵であり、ソヴェート權力の經濟方策の敵である。今から百二十五年前、最も熱烈な且つ最も純眞な革命家であつたフランスの小ブルジ・アには、個々の、少數の「選ばれた者」の處刑と騷々しい宣言とによつて投機業者を克服しようとする渴望は、まだ許さるべきことであつたが、今日或る左翼社會革命黨員におけるこの問題に對する純美辭麗句家的態度は、あらゆる意識的革命家にたゞ侮蔑と嫌惡とを起さしめるにすぎぬ。我々は投機の基礎が、各〻の小ブルジ・アにおいてその代理人を有するところの、ロシアにおいて非常に廣汎な小有產者層と私經濟的資本主義であることをよく知つてゐる。この小ブルジ・ア的水蛇の數百萬の觸手がこゝかしこで個々の勞働者層を捉へてゐること、投機が國家的獨占の代りにわが社會經濟生活のすべての氣孔を埋

めてゐることを我々は知つてゐる。

これを見ない者は、恰も自己の盲目によつて、小ブルジ・ア的偏見に捉へられてゐることを暴露するものである……』

『小ブルジ・アは、「正直に」および戰爭中に特に「不正直」に蓄積した、何千かの、小金の貯蓄を持つてゐる。これが、投機および私經濟的資本主義の基礎としての特徵的な經濟上の型である。貨幣は社會的富を受取ることのできる證書であつて、數百萬の小有產者層は、この證書を固く握りしめ、「國家」に對してはそれを隱匿し、いかなる社會主義も共產主義も信ぜず、プロレタリアの嵐が過ぎ去るのを「待つて」ゐる。或ひは我々がこの小ブルジ・アを自己の統制と計算に從屬させるか（もし我々が階級意識あるプロレタリア前衞の周圍に貧農、卽ち人口の大多數または半プロレタリアを組織するならば、我々はこれをなしうるであらう）、或ひは彼等が、正にこの小有產者的地盤の上に發生するところの、ナポレオンおよびカヴェニャックの徒が革命を顚覆したやうに、我々の勞働者權力を不可避的に顚覆するであらう。問題はかくの如くである。問題はたゞかくの如くである……』

「……數千金を貯へてゐる小ブルジ・アは、國家資本主義の敵である、そしてこの數千金を彼等はきつと自己のために、貧農に反對して、あらゆる全國家的統制に反對して實現しようと欲する。だが數千の金額は我々の社會主義建設を破壞するところの數十億の投機の基礎を與へるのである。或る一定數の勞働者が數日間に一、〇〇〇の數字で表現される價値額を與へる、と假定しよう。更に、この額のうち二〇〇は、小さな投機、あらゆる掠奪およびソヴェートの命令および ソヴェートの命令を小有産者が潜ることの結果、我々の許で失はれる、と假定しよう。あらゆる階級意識ある勞働者はいふ、もし自分が千のうち三〇〇をヨリ大なる秩序と組織との創造によつて與へうるならば、自分は喜んで二百の代りに三百を提供するであらう、何故なら一たび秩序と組織とが修復され、一たび國家的獨占の小有産者による破壞が挫かれたならば、その後この「貢稅」を、例へば百または五十に縮少することは、ソヴェート權力の下においては全く容易な課題であらうから、と。

この單純な數字の實例――それは通俗的說明のためにことさら極度に簡單化されてゐる――によつて、國家資本主義と社會主義との今日の狀態の相互關係が明かにされる。勞働者は國家權力

を握つてゐる、彼等は千の價値をすつかり自分のものにする、換言すれば、社會主義的目的以外には一カペークをも渡さない、完全な法律上の可能性は、社會主義の一要素である。しかし小有産者的およびたことを根據とするこの法律上の可能性を持つてゐる。勞働者に權力が事實上移つ私資本主義的要素はいろいろな方法でこの法律上の地位を掘り崩し、投機を續け、ソヴェートの法令の遂行を妨げる。我々が今日よりもヨリ多く支拂はねばならぬとしても、國家資本主義は巨大な前進であらう（そして私は、このことを鋭く示すために、ことさらかやうな數字の例を取つたのである）。何故なら「學問に對して」は支拂ふ價値があるから、これは勞働者にとつて有益であるから、混亂、崩壞、弛緩に對する勝利は何よりも重要であるから、小有産者的無政府狀態の存續は、（もし我々がそれを征服しないならば）無條件的に我々を滅ぼすところの、最も大きな、最も怖るべき危險であるが、一方國家資本主義にヨリ多くの貢稅を支拂ふことは、我々を滅ぼさないのみならず、社會主義への最も確かな道へ導くものだからである。小有産者的無政府狀態に對して國家的秩序を擁護することを學び、また國家資本主義的基礎の上に大きな全國家的生産組織を修復することを學んだ勞働者階級は、そのときすべての切札――こんな表現を許してほ

しい――をその手に握り、そして社會主義の强化は確保されるであらう。

國家資本主義はわが今日の經濟よりも比較にならぬほど經濟的に高級なものである、これが第一。

第二には、國家資本主義のうちにはソヴェート權力にとつて何等恐ろしいものはない、何故ならソヴェート國家は、その中で勞働者と貧農との權力が確保されてゐる國家であるからである』。

* * *

『……問題をなほ一層明かにするために、何よりも先づ國家資本主義の具體的な實例を引用しよう。かういふ實例で誰でも知つてゐるのは、ドイツである。こゝには近代的大資本主義的技術と、ユンケル＝ブルジョア的帝國主義に從屬された、計畫的組織の「極致」がある。傍點を打つた言葉を樂てゝ、軍事的、ユンケル的、ブルジョア的、帝國主義的國家の代りに、同じく國家ではあるが、異つた社會的タイプ、異つた階級的內容の國家、ソヴェート國家、即ちプロレタリア國家をおくならば、諸君は社會主義を與へる條件の總和を得るであらう。

社會主義は最新の科學の極致によつて建設された大資本主義的技術なしには、生產物の生產および分配において數千萬の人々を單一の規範の嚴格な遵守に從屬せしめる計畫的な國家的組織なしには考へられない。このことを、我々マルクス主義者はつねに述べてきた、そしてこのことをさへ理解しない人々（無政府主義者と左翼社會革命黨員の大半）とは、二秒間さへも對話に費すに値しない。

社會主義はそれと同時に國家におけるプロレタリアートの支配なしには考へられぬ。これもまたABCである。歷史（恐らく第一級のメンシェヴィキ的痴人を除いては、何人も歷史が滑かに、穩かに、容易に且つ簡單に「出來合ひの」社會主義を與へるものとは期待しなかつた）は極めて特殊な發展をなし、一九一八年には、恰も國際帝國主義の一つの殼から孵つた二羽の未來の雛の如くに、二つのちぐはぐの社會主義の双生兒を相前後して生んだ。ドイツとロシアとは一九一八年に、一方では社會主義の經濟的、生產的、社會經濟的條件の、他方ではその政治的條件の最も明かな物質的實現を體現したのである。

ドイツにおけるプロレタリア革命の勝利が一度に、非常に容易に、帝國主義のあらゆる殼を破り（殘念ながら、それは最良の鋼鐵で作られてゐたため、雛の……あらゆる努力をもつてしても

破られなかつた)、困難なしにまたは少しばかりの困難によつて――勿論、「困難」の規模を世界史的に理解して、俗物的＝グループ的に理解しない場合のことであるが、――確かに世界社會主義の勝利を實現してゐたら、どんなによいことであらう。

ドイツにおいて革命が「勃發する」のにまだ手間取るならば、我々の任務は、ドイツ人の國家資本主義を學ぶこと、全力をあげてそれを取り入れること、未開ロシアによる西歐文明のこの取り入れを促進するために、獨裁的方策を惜まないこと、未開狀態に對しては未開的な鬪爭手段を取るに躊躇しないことである。もし無政府主義者や左翼社會革命黨員の間に(私はふと中央執行委員會におけるカレリンとゲーの演說を思ひ出した)、ドイツの帝國主義に「學ぶ」ことは、我我革命家には似合はしくないなどゝナルチス流に論ずる人々があるならば、我々はたゞ一言いはねばならぬ、かゝる人々を眞に受ける革命は、きつと(そして全く當然)滅亡するだらう、と。

ロシアではいま恰も小ブルジョア的資本主義が支配してをり、そしてそこから大規模な國家資本主義へでも、社會主義へでも同じ道が通じてをり、「生產物の生產および分配に對する全國民的計算および統制」といふ同じ中間驛を經て道が通じてゐる。これを理解しない者は、或ひは實

際の事實を知らないで、或ひは現にあることを見ず、眞理を直視することを理解しないで、或ひは「資本主義」と「社會主義」との抽象的對立にのみ局限されて、また今我々の許にあるこの移行の具體的形態と段階とを洞察しないで、許し難い經濟的誤謬を犯すものである。

序でにいつておくべきことは、「ノーヴァヤ・ジーズニ」と「ヴペリョード」の同人の優秀な人人を迷はしたのも同一の理論的誤謬であつたことである。卽ち彼等のうちの劣等の者と中位の者とは、愚鈍と無性格とのために、ブルジョアジーに脅かされて、その尻尾について行き、優秀な者は、資本主義から社會主義への全過渡期について社會主義の敎師達が述べたことは無駄でなくまた新社會の「長い生みの苦しみ」(註一五)を强調したことは徒らでなかつたこと、そしてこの新社會もまた一つの抽象であつて、あれやこれやの社會主義國家を創立しようとする多くの種々雜多の、未完成の、具體的な試みによる以外に、實現されえないものであることを理解しなかつたのである。

ロシアの今日の經濟狀態からは、國家資本主義にも社會主義にも共通なもの(全國民的計算および統制)を通過しないでは、前進することができないが故に、「國家資本主義の方向への進化」

によつて自他を恐怖させることは、全くの理論的ナンセンスである。これは恰も「進化」の眞の道を思想的に踏み「外す」こと、この道を理解しないことを意味する。そして實踐においては、これは、小有産者的資本主義へ引き戻すのと同じである。

國家資本主義を私が「高く」評價するのは全く今日始まつたことではなくて、ボリシェヴィキの權力奪取以前からであることを讀者に納得させるために、私は一九一七年九月に書かれた私の小冊子「切迫する大破綻、いかにしてそれと闘爭すべきか」から次の引用をしたいと思ふ。

『「……ユンケル的＝資本家的國家の代りに、地主的＝資本家的國家の代りに、×××＝民主的國家、卽ちあらゆる特權を×××××、最も完全な民主々義を××××實現することを恐れぬ國家を試みにおいてみよ。諸君は、眞に×××＝民主的國家の下における國家獨占的資本主義は不可避的に社會主義への一歩を意味することを見るであらう！」

『「……何故なら社會主義は國家資本主義的獨占からほんの一歩前進に外ならないからである」』。

『「……國家獨占的資本主義は社會主義の最も完全な物質的準備であり、その玄關であり、歷史

の梯子段の一段階であつて、この段階と社會主義と稱せられる段階との間には何等の中間的段階はない」』（二七頁および二八頁）*。

* レーニン、全集、第二十一卷、一八六、一八七頁。——編輯者。

『これはケレンスキーの治下に書かれたものであること、こゝではプロレタリアートの獨裁も、社會主義國家も問題にならないで、「×××＝民主的」國家が問題になつてゐることに注意せよ。我々がこの政治的段階をヨリ高く登れば登るほど、我々がソヴェートにおいて社會主義國家とプロレタリアートの獨裁とをヨリ完全に體現すればするほど、「國家資本主義」を恐れることは我々に益々少くてよいといふことは明かではないか？ 物質的、經濟的、生產的意味において我々がまだ社會主義の「玄關」にゐないことは、明かではないか？ そして我々がまだ遠してゐないこの「玄關」を通じてゞなければ、社會主義の扉に入れないことは、明かではないか？

……』

* * *

『……なほ次の事情も極めて教訓的である。

我々が中央執行委員會で同志ブハーリンと論爭したとき、彼は就中かういつた、專門家に高い給料を支拂ふといふ問題については「我々」は「レーニンよりも右翼」だ、何故なら或る條件の下においては「この連中から買ひ上げること」(即ち資本家達から買ひ上げること、換言すればブルジョアジーから土地、工場その他の生產手段を買ひ取ること)は、勞働者階級に最も合目的的であらう、といふマルクスの言葉を思出すならば(註二六)、我々はこの場合原則から何等の退却をも見ないからである、と。

これは極めて興味ある言葉だ』。

『……マルクスの思想をよく考へて見たまへ。

問題になつてゐるのは前世紀の七十年代のイギリスのこと、獨占資本主義以前の最高潮期のこと、當時軍國主義と官僚主義とが最も少かつた國のこと、勞働者がブルジョアジーを「買ひ取る」といふ意味での社會主義の「平和的」勝利の可能性が當時最も大であつた國のことである。そしてマルクスは、或る條件の下では勞働者はブルジョアジーを買ひ取ることを全く拒まない、といつたのである。マルクスは、如何に多くの新しい問題がその際起るか、變革の道程において如何

にすべての情勢が變化するか、變革の道程においていかに頻繁に且つ激烈にそれが變化するかを特によく理解してゐたので、變革の形態、方法、手段について自己を——即ち社會革命の未來の鬪士を——拘束しなかつたのである。

だが、ソヴェート・ロシアにおいてはプロレタリアートの××××の後、搾取者の軍事的およびサボタージュ的抵抗の鎭壓の後、イギリスが當時平和的に社會主義に移行し始めてゐたならば、五十年前にイギリスにおいて形成されてゐたであらうところの型に從つて、若干の條件が形成されたことは、明白ではないか? イギリスにおいて資本家を勞働者に從屬させることは、當時次の如き事情によつて確保されえたであらう。即ち(一)農民層が缺けてゐるために、勞働者、プロレタリアが人口のうちに最も完全に優勢であつたこと(七十年代のイギリスには農業勞働者の間に社會主義の極めて急速な成功を期待させるやうな多くの徴候があつた)。(二)プロレタリアートが勞働組合に立派に組織されてゐたこと(イギリスは當時この點において世界第一の國であつた)。(三)數世紀にわたる政治的自由の發展によつて訓練されたプロレクリアートの比較的高い教養。(四)立派に組織されたイギリス資本家の長い習慣——當時彼等は政治的および經濟的

問題を妥協によつて解決する上において世界のすべての國々のうちで最もよく組織された資本家であつた（今日ではこの第一位はドイツに移つてゐる）。まさにかゝる事情によつて當時イギリスの資本家を勞働者に平和的に從屬させることが可能であるといふ思想が現はれえたのである。

わが國ではこの從屬は現在或る一定の根本的前提によつて（十月の勝利および十月から二月に至る資本家の軍事的およびサボタージュ的抵抗の鎮壓によつて）確保されてゐる。わが國では、勝利の要因を成したものは、人口のうちに勞働者、プロレタリアが最も完全に優勢であることおよび彼等が高度に組織されてゐることではなくて、貧農と急速に破滅した農民層とがプロレタリアートを支持したことであつた。最後に、わが國には高い教養もなく、妥協の習慣もなかつた。もしこの具體的條件を考察するならば、我々は今や、教養のない如何なる「國家資本主義」にも同意せず、如何なる妥協をも考へず、依然として投機、貧農の買收その他によつてソヴェートの方策を掘り崩さうとする資本家を容赦なく懲罰する方法と、「國家資本主義」に同意し、それを實施しうる、その生産物によつて數千萬の人々を實際に給養する大企業の怜悧にして經驗ある組織者としてプロレタリアートにとつて有用な、教養ある資本家に對する妥協または買收の方法と

の結合を達成しうるし且つ達成せねばならぬ。

ブハーリンは優れて教養あるマルクス主義者＝經濟學者である。それ故彼は、マルクスが、勞働者に、正に社會主義への移行を容易ならしめるために大生産の組織を保存することの重要性と、もし資本家をして平和的に勞働者に從屬し且つ買收の條件でその教養と組織とをもつて社會主義に移ることを餘儀なくさせるやうな事情（例外の形で、即ちイギリスは當時例外であつた）が形成されてゐる場合には、資本家に相當の賠償を支拂ひ、彼等を買ひ取る、といふ思想が完全に許さるべきであることゝを敎へたとき、どこまでも正しかつたことを思ひ出したのである。

しかしブハーリンは誤謬に陷つた、何故なら彼はロシアにおける現在の、丁度例外的な現在の具體的特質を洞察しなかつたからである。即ち現在、我々ロシアのプロレタリアートは、我々の政治的制度において、勞働者の政治的權力の力においては、どのイギリスやどのドイツよりも進んでゐるが、それと同時に整然たる國家資本主義の組織において、教養の高さにおいて、社會主義の物質的＝生産的「移入」の準備の程度においては、西ヨーロッパ諸國の最も後れた國よりも後れてゐる。この特殊な狀態からして、現在ソヴェート權力のために勤務につき、「國家的」大生

産の組織を援助する準備のある、最も教養あり、最も才能あり、最も組織者的能力のある資本家の前に勞働者が提供しなければならぬ特殊な「身代金」の必要がまさに生ずる、といふことは明かではないか？　かゝる特殊な狀態の下において我々が各〻それぞれ小ブルジョア的な二種類の誤謬を避けるやうに努力しなければならぬといふことは、明かではないか？　即ち一方では、我我の經濟的「力」と政治的力との不一致が認められる以上、「從つて」、權力を奪取すべきではなかつた、と主張することは救ひ難き誤謬であらう。かやうな「一致」は決して存在しないだらうといふこと、それは社會の發展においても、また自然の發展においても存在しえないこと、個別的にとれば、その各〻は一面的であり、若干の不一致を免れないであらうところの多くの試みによつてのみ、すべての國々のプロレタリアの革命的協働から戰勝的な社會主義が作り出されるといふことを忘れてゐる「箱の中の男」(註一七)がかく論ずるのである。

他方では、「明瞭な」革命性には自ら誘引されるが、持久的な、考慮された、熟慮された、最も困難な過渡期をも考慮に入れた革命的な仕事には耐へえないところの金切聲を出す男や美辭麗句家に、したい放題のことをさせるのは明瞭な誤謬であらう。

幸ひに、革命的諸黨派の發展とそれらに對するボリシェヴィズムの闘爭との歴史は、輪廓のはつきりした諸〻の型を吾々に遺産として殘してをり、そしてこれらの型のうちでも左翼社會革命黨員と無政府主義者とはやゝ劣等な革命家の型を十分明白に例證してゐる。彼等は今ヒステリーになるまで叫んでゐる、彼等は「右翼ボリシェヴィキ」の「協調主義」に對して叫び狂つてゐる。しかし彼等は「協調主義」は何によつて悪いのかまた何が故に歴史と革命の進行とによつて正當にも罪を宣告されたのであるかを考へることができぬ。

ケレンスキー時代の協調主義は帝國主義的ブルジョアジーに權力を引渡したが、權力の問題はすべての革命の根本問題である。一九一七年十・十一月におけるボリシェヴィキの一部の協調主義は、或ひはプロレタリアートの權力奪取を恐れ、或ひは左翼社會革命黨員の如き「不確かな同伴者」とばかりでなく、憲法議會の解散において、ボガエフスキーの容赦なき擊破において、ソヴェート制度の完全な實現において、あらゆる沒收において、根本において我々を不可避的に妨害したであらうところの敵、チェルノフ主義者、メンシェヴィキと共に、權力を平等に分配しようと欲したのである。

今や權力は、「不確かな同伴者」さへなしに、一つの黨、プロレタリアートの黨の手に奪取され、維持され、强化されてゐる。今や權力の分配や、ブルジョアジーに對するプロレタリアートの獨裁の放棄が問題とならず且つ問題たりえないとき、協調主義について語ることは、鵠のやうに、譫誦してゐるが、理解してゐない言葉を單に反覆することを意味する。我々が國を統治することができ且つ統治しなければならぬ地位に達して、我々が資本主義によつて訓練された要素のうちの最も教養あるものを金錢を惜まずに自己に引きつけ、彼等を小有産者的潰滅に抗して勤務に引き入れようと努力してゐるのを「協調主義」と呼ぶことは、社會主義建設の經濟的任務を考へる能力が全くないことを意味する*』。

* レーニン、全集、第二十二卷、五一一—五二二頁參照。——編輯者。

貪糧稅について、商業の自由について、利權について

以上引用された一九一八年の議論のうちには、期間について多くの誤謬がある。期間は當時豫

想されてゐたよりも長いことが分つた。これは驚くに足りないことである。しかし我々の經濟の基本的要素は依然として同一である。『貧農』(プロレタリアおよび半プロレタリア)は、極めて多くの場合、中農に轉化した。このために小有産者的、小ブルジョア的『要素』は强化された。だが一九一八—一九二〇年の內亂は國の荒廢を强化し、その生産力の復興を妨げ、最も多くまさにプロレタリアートをして血を流させた。これに加ふるに一九二〇年の凶作、飼料不足、家畜の疫病は、さらに激しく運輸および工業の復興を妨げて、それらは、例へば、我々の主要燃料たる薪を農民の馬で運搬することにおいて反映された。

その結果一九二一年の春に至つては政治的情勢は切迫して、農民層の狀態の改善とその生産力の昂揚のために卽時の、最も決定的な、最も特別な方策が緊急に必要となつた。

何故農民層であつて、勞働者ではないのか?

何故なら勞働者の狀態の改善のためには穀物と燃料とが必要であるからである。今日最も大きな『障害』——全國家經濟の見地からして——はまさにこれがためである。だが穀物の生産と收穫、燃料の調達と供給とを增加するには、農民層の狀態を改善し、その生産力を高める以外の方

法はない。我々は農民層から始めなければならぬ。このことを理解しない者は、かやうに農民を第一位におしやることをもつてプロレタリアートの獨裁の『否認』または否認に類するものと考へようとする者は、單純に問題を熟考せず、空語を弄するものだ。プロレタリアートの××はプロレタリアート側からの政治の指導である。指導階級、××階級としてのプロレタリアートは、先づ第一に、最も緊急の、最も『面倒な』任務を解決するやうに、政治を指揮することを理解しなければならぬ。今日最も緊急なものは、農民經濟の生産力を即時に高めうる方策である。これによつてのみ、勞働者の狀態の改善、勞働者と農民層との同盟の强化、プロレタリアートの××の强化を達成することができる。これによらないで勞働者の狀態の改善に進まうと欲するプロレタリアまたはプロレタリアートの代表者は、實際においては白衞軍と資本家の支持者たることを示すものである。何故ならこれによらないで進むことは、勞働者の職業的利益を階級的利益の上におくことを意味し、勞働者の直接の、一時的の、部分的利益のために全勞働者階級の利益、その獨裁、地主と資本家に對する農民層とのその同盟、資本の羈絆からの勞働の解放のための鬪爭におけるその指導的役割を犧牲にすることを意味するからである。

かくて、先づ第一に、農民層の生産力を高めるために即時の且つ重大な方策が必要である。これは食糧政策の重大な變更なしには實行することができぬ。かやうな變更とは、食糧稅を以て穀物の徵發に代へ、租稅を支拂つた後は、少くとも地方的な經濟的取引においては商業の自由を許すことである。

食糧稅を以て徵發に代へることの本質は何處にあるか？

この點については誤つた觀念が非常に普及されてゐる。誤謬は大部分移行の本質を洞察しないこと、現在の移行が何處から何處へ導くかを自問しないことから生ずるのである。人々は移行は共產主義一般からブルジョア性一般へであるかの如く問題を考へてゐる。この誤謬に對しては、我々は不可避的に一九一八年五月にいつたことを指摘しなければならぬ。

食糧稅は、極度の窮迫、荒廢および戰爭によつて餘儀なくされたところの特殊な『戰時共產主義』から正しい社會主義的生產物交換への移行の形態の一つである。だがこの後者はまた、人口中における小農民層の優勢によつて惹き起された特殊性をもつ社會主義から共產主義への移行の形態の一つである。

この特殊な『戰時共產主義』は、我々が事實上農民から食糧のすべての剩餘を、そして時には剩餘ではなくて農民にとつて必要な部分さへも取り上げたこと、軍隊のためおよび勞働者の給養のための支出を賄ふために取り上げたことにある。我々は紙幣と交換して、信用で取り上げたのである。我々はそれ以外の方法で荒廢せる小農の國において地主と資本家とを打ち破ることはできなかつた。そして（世界の最も有力な强國によつてわが搾取者たちは支持されたにも拘らず）我々が勝利を得たといふ事實は、勞働者と農民が自己の解放のための鬪爭において英雄主義の如何なる奇蹟をなしうるかを示すのみではない。この事實はまた、メンシェヴィキ、社會革命黨員、カウツキー一派がこの『戰時共產主義』のために我々を非難したとき、彼等が實際において如何にブルジョアジーの從僕の役割を演じたかを示すものである（註一八）。然るに戰時共產主義は我々の功績と見るべきものである。

しかしこの功績の眞實の程度を知ることは、これに劣らず必要である。『戰時共產主義』は戰爭と荒廢とによつて餘儀なくされたものである。それはプロレタリアートの經濟的任務に照應する政策ではなかつたし且つありえない。それは一時的方策であつた。小農の國において自己の獨

裁を實現するプロレタリアートの正しい政策は農民に必要な工業生產物と穀物との交換である。かゝる食糧政策のみがプロレタリアートの任務に照應し、それのみが社會主義の基礎を鞏固にし且つそれを完全な勝利に導くことができる。

食糧稅はそれへの移行である。我々は今なほ甚しく荒廢されてをり、戰爭の羈絆によつて壓迫されてゐる（資本家の貪慾と邪惡とのために、戰爭は昨日まであつたし且つ明日にでも燃え上るかも知れぬ）ために、我々に必要な穀物の全額に對して農民に工業生產物を與へることができないのである。これを知つてゐるから、我々は食糧稅を採用する、卽ち我々は（軍隊および勞働者のために）最少限に必要な穀物の量を租稅として取り上げ、殘りを工業生產物と交換するであらう。

この際我々はなほ次のことを忘れてはならぬ。窮迫と荒廢とが甚しいために、我々は一度に大規模な、工場的な、國家的な、社會主義的な生產を復興することができぬ。これがためには大工業中心地における穀物および燃料の大なる貯藏が必要であり、消耗された機械を新しいものによつて取りかへること等々が必要である。我々は經驗によつて、これは一度には實行されえないこ

とを確信せしめられた、また我々は、破壊的な帝國主義戰爭の後では最も富裕且つ先進的な國々でさへ或る一定のかなり長い年月を經て漸くかゝる任務を解決しうることを知つてゐる。即ち、機械を要せず、原料、燃料、食糧の國家的貯藏たも、大なる貯藏をも要しないところの、――而も直ちに農民經濟に對する若干の援助を證明し且つその生産力を高めうるところの、小工業の復興を或る程度まで援助することが必要である。

これから何が得られるか？

若干の（たゞ地方的ではあらうとも）商業の自由を基礎にして小ブルジ"アジーと資本主義との復活が生ずる。これは疑ひなきことである。これに對して眼を閉ぢることは笑ふべきことである。

次の疑問が生ずる、これは必要なのであるか？ これは是認しうるか？ これは危險ではないか？

この種の疑問は多く提出されるが、大多數の場合それらはかゝる疑問を提出する人の（柔かに表現すれば）無邪氣さを暴露するにすぎぬ。

一九一八年五月に私がわが經濟のうちに現存する種々の社會經濟制度（ウクラード）の諸要素（構成分）を如何に規定したかを一瞥せよ。父家長的なもの、即ち半未開的なものから社會主義的なものにいたる、これらすべての五つの制度（ウクラード）のこれらすべての五つの段階（または構成分）が存在することは、少しも爭ふ餘地がない。小農の國において小農的『制度（ウクラード）』即ち一部は父家長的な、一部は小ブルジ"ア的な制度が支配することは、自明である。交換が存在する限り、小經營の發展は小ブルジ"ア的發展であり、――資本主義的發展である――これは爭ふべからざる眞理であり、それのみならず日常の經驗および一般世人の觀察によつてさへも確認されるところの、經濟學の初步的眞理である。

社會主義的プロレタリアートはかゝる經濟的現實に當面して、いかなる政策を取りうるか？

社會主義的大工場で生産される小農に必要なすべての生産物を穀物および原料と交換に彼等に與ふべきか？ これは最も望ましい、最も『正しい』政策であらう、――我々は實にそれに着手したのである。しかし我々はすべての生産物を與へることができない、全然できないし且つ極めて急速にはできない――少くとも我々が全國の電化に關する第一期の事業を終了するまでは、さう

することができない。然らばどうすればよいのか？　或ひは數百萬の小生產者の存在の下においては不可避的な、私的な、非國家的な交換の、すなはち商業の、卽ち資本主義のあらゆる發展を全く禁止し、閉鎖しようと試みるべきか？　かゝる政策は愚劣であり、それを試みる黨の自殺であらう。愚劣だといふのは、この政策は經濟的に不可能であるから、自殺だといふのは、これに類似の政策を試みる黨は、不可避的に崩壞を免れないからである。共產主義者のうちの或る者がまさにかゝる政策に陷つたために、『思想、言語および行爲』によつて罪を犯したことを秘密にする必要は少しもない。我々はこの誤謬を匡正することに努力しよう。我々は確かにそれを匡正しなければならぬ、さもなければ全然失敗するであらう。

或ひは（最後の可能的な唯一の合理的な政策）資本主義の發展を禁止しまたは閉鎖しないで、それを國家資本主義の通路に導くべきか？　これは經濟的に可能である、何故なら國家資本主義は――あれやこれやの形態において、あれやこれやの程度において――商業の自由および資本主義一般の要素が存するところには、何處にでも存するからである。

ソヴェート國家、プロレタリアートの獨裁の國家資本主義との聯合、結合、合同は可能である

か？

勿論、可能である。これを私はすでに一九一八年五月に證明した。これを私は一九一八年五月に證明したことと思ふ。そればかりではない、私は當時、國家資本主義は小有產者的（小父家長的並びに小ブルジョア的）要素と比較すれば一歩前進であることを證明した。國家資本主義を單に社會主義と對立させまたは比較するならば、大なる誤謬を犯すものである。これに反して現在の政治的經濟的情勢においては國家資本主義を小ブルジョア的生產と比較することこそ必要なのである。

すべての問題――理論的並びに實踐的の――は、如何にして資本主義の不可避的な（或る程度まで、また或る期間）發展をまさに國家資本主義の通路に導き、如何なる條件によつてこれを設置し、如何にして遠からざる將來において國家資本主義の社會主義への轉化を確保すべきかの正しい方法を見出すことにある。

この問題の解決に近づくためには、何よりも先づ、我々は、わがソヴェート制度の內部における、わがソヴェート國家の埒內における國家資本主義は實際に如何なるものであるかまたありう

るかをできる限り明瞭に表象しなければならぬ。

如何にしてソヴェート權力が資本主義の發展を國家資本主義の通路に導くか、如何にしてそれが國家資本主義を『培養』するか、といふことの最も簡單な場合または實例は、利權である。今日わが國ですべての人は利權が必要であることについては一致してゐるが、利權の意義如何といふことについてはすべての人が熟考してゐない。社會經濟諸制度(ウクラード)とその相互關係の見地から、ソヴェート制度の下における利權とは何であるか？　これは小有產者的（父家長的および小ブルジ"ア的）要素に對する、ソヴェート權力、卽ちプロレタリア國家權力と國家資本主義との契約、ブロック、同盟である。利權所有者は資本家だ。彼は事業を資本主義的に、利潤のために經營する、彼は普通以上の特別利潤の獲得のためか、またはそれ以外の方法では得ることができないかまたは極めて困難なやうな原料の獲得のために、プロレタリア權力と契約を結ぶ。ソヴェート權力は、卽時または最も短期間における生產力の發展、生產物の量の增加の形で利益を得る。例へば我々は數百の某々の產業地、鑛山、森林區を持つてゐる。しかし機械、食糧、運輸の不足のために、我々はすべてを開發することができぬ。我々は同じ原因のために殘りの部分をも貧弱にしか開發

してゐない。大企業の貧弱な且つ不十分な開發からしてそのあらゆる現はれにおける小有產者的要素の强化が生ずる、——卽ち近傍の（やがてはまたすべての）農民經濟の衰退、その生產力の毀損、ソヴェート權力に對するその信賴の低下、掠奪および大衆的な小さな（最も危險な）投機等々。利權の形で國家資本主義を『培養』しつゝ、ソヴェート權力は小生產に對して大生產を、後れたものに對して進んだものを、手工的なものに對して機械的なものを强化し、自己の掌中における大產業の生產物の量を增大し（縱の控除）、小ブルジ"ア的＝無政府主義的經濟關係に對して國家的＝統制的經濟關係を强化する。適度に且つ注意深く實行された利權政策は、疑ひもなく、我々に生產の狀態、勞働者および農民の狀態を急速に（若干の、大きからぬ程度まで）改善することを可能ならしめる、——勿論、數千萬プードの最も價値ある生產物を資本家に引渡す、といふ若干の犧牲を拂つてゞはあるが。利權が我々に有利であつて危險でない程度および條件の決定は、力の相互關係に依存し、鬪爭によつて決定される。何故なら利權もまた鬪爭の一つの形であり、異つた形態での階級鬪爭の繼續であつて、決して階級平和を以て階級鬪爭に代へることではないからである。實踐は鬪爭の手段を指示するであらう。

利權の形での國家資本主義は、ソヴェート制度の内部における國家資本主義の他の形態と比較して、殆ど最も單純な、明瞭な、明白な、輪廓のはつきりした形態であつた。我々はこゝに最も文化的な、進歩的な、西ヨーロッパ的資本主義との正式の、成文の契約を持つてゐる。我々は正確に自己の利益と自己の損失、自己の權利と自己の義務とを知り、我々は利權を讓渡する期間を正確に知り、契約が滿期前の買收權を豫想してゐる場合には、滿期前の買收の條件を知つてゐる。我々は世界資本主義に若干の『貢稅』を支拂ひ、これこれの關係においてそれから『買ひ上げ』、直ちに或る程度のソヴェート權力の地位の鞏固化、我々の經營の條件の改善を獲得する。利權に關する任務の困難は、すべて、利權契約の締結に際してすべてを考察し且つ考慮すること、その後にはその遂行を能く監視することに歸着する。そこには、疑ひもなく、困難があり、そして恐らく、最初の間は、そこには誤謬が不可避的であらう。しかしこれらの困難は、社會主義革命の他の任務と比較すれば、特に國家資本主義の發展、許容、培養の他の諸形態と比較すれば、極めて小さなものである。

食糧稅の採用と關聯して、黨およびソヴェートのすべての活動家の最も重要な任務は、『利權』

政策（即ち『利權的』國家資本主義に類似の政策）の原理、原則、基礎を自由商業、地方的取引等々の、資本主義の他の諸形態に適用することを理解することである。

協同組合を取つてみよう。食糧稅に關する布告が協同組合に關するテーゼの即時の修正とその『自由』およびその權利の若干の擴張とをもたらしたことは、故なきことではない。協同組合もまた國家資本主義の一つの形であるが、それほど單純でなく、それほど輪廓が明かでなく、ヨリ複雜であるから、從つて實際において我々の權力をヨリ大なる困難に當面させる。小商品生產者の協同組合（こゝでは、小農の國における支配的なもの、典型的なものとして、勞働者の協同組合ではなくて、小商品生產者のそれが問題なのである）は不可避的に小ブルジ・ア的資本主義的關係を產出し、その發展を促進し、資本家を前面におし出し、彼等に最大の利益を與へる。小經營主の支配と、交換の可能性、否必要とが存在する限り、かうなるより外はないのである。協同組合の自由と權利は、ロシアの今日の條件の下においては、資本主義への自由と權利とを意味する。この明白な眞理に對して眼を閉すことは愚鈍または犯罪であらう。

しかし私經濟的資本主義とは異る『協同組合的』資本主義は、ソヴェート權力の下においては、

國家資本主義の一變種であり、そしてかゝるものとして、それは今我々に有利であり有用である、――勿論、或る程度において。食糧稅が殘りの（租稅の形で取り上げられない）剩餘の販賣の自由を意味する限り、その限りにおいて我々は資本主義のこの發展――何故なら販賣の自由、商業の自由は資本主義の發展であるから――を協同組合的資本主義の通路に導くことに努力しなければならぬ。協同組合的資本主義は國家（この場合はソヴェート國家）と資本家との間の計算、統制、監督、契約關係を容易ならしめる點において國家資本主義に類似してゐる。商業の一形態としての協同組合は、前記の原因によつてのみならず、また數百萬の人口、だが後には一般に全人口の結合、組織を容易ならしめるが故に、私的商業よりも有利であり且つ有用である、そしてこの事情は、それでまた、國家資本主義から社會主義へのヨリ以上の移行の見地からみて巨大なプラスである。

國家資本主義の諸形態としての利權と協同組合とを比較しよう。利權は大機械工業を土臺にし、協同組合は小さな、手工的な、部分的には父家長的な工業さへも土臺にしてゐる。利權は各各の個々の利權契約において、一人の資本家または一つの會社、一つのシンヂケート、カルテル、

トラストに關係してゐる。協同組合は幾千、いな幾百萬もの小經營主をさへ包括してゐる。利權は正確な契約および正確な期間を認め且つ前提しさへもしてゐる。協同組合は全く正確な契約をも、全く正確な期間をも認めない。協同組合に關する法律を廢止することは、利權に關する契約を破棄することよりも、遙かに容易である。しかし契約の破棄は一度に、簡單に、即時に資本家の經濟的同盟または經濟的『同棲』の事實上の關係を斷絶することを意味するが、これに反して協同組合に關する法律の如何なる廢止も、一般に如何なる法律も、ソヴェート權力と小資本家との事實上の『同棲』を一度に斷絶しないのみならず、一般に事實上の經濟關係を斷絶することはできぬ。利權所有者を『監督』することは容易であるが、協同組合員を監督することは困難である。利權から社會主義への移行は大生產の或る形態から大生產の他の形態への移行である。小經營主の協同組合から社會主義への移行は小生產から大生產への移行、即ちヨリ複雜な、しかしその代りに、成功した場合には、ヨリ廣汎な人口大衆を包容することができ、古い、先社會主義的な、いな、あらゆる『新しきもの』に對立するといふ意味で最も頑强な、先資本主義的な關係の一層深い且つ一層生活力ある根源を掘り崩すことができる移行である。利權政策は、成功した場

合には、現代の進歩した資本主義の水準に立つところの、少數の模範的な――我々のものに比較して――大企業を我々に與へる。數十年の後これらの企業は全く我々のものとなる。協同組合政策は、成功した場合には、我々のために、小經營を昂揚させ、不定期間のうちに、任意の結合を基礎とする大生産へのその移行を容易ならしめる。

國家資本主義の第三の形を取らう。國家は商人としての資本家を誘致し、國家の生産物の販賣と小生産者の生産物の買入とに對して、一定の手數料を支拂ふのである。第四の形は――國家は資本家的企業者に國有の建造物または産業地または森林の一部、土地等々を賃貸する、そしてその場合、賃貸契約は利權契約に最もよく似てゐる。國家資本主義のこの最後の二つの形について はわが國では人々は全く語らず、全く考へず、全く注意してゐない。しかしこれは我々が強く且つ賢いためではなくて、我々が弱く且つ愚かなためである。我々は『卑しき眞理』をまともに見ることを恐れて、あまり屢〻『我等を高める欺瞞』(註一九)の力に身を委ねる。『我々』は資本主義から社會主義へ移行しつゝある、と我々は絶えず主張しつゝ、この『我々』が正に誰であるかを正確に、明瞭に表象することを忘れてゐる。この明瞭な觀念を忘れないがためには、一九一八

年五月五日の論文において私が與へた、わが經濟におけるすべての――除外例なしに間違なくすべての――構成分、すべての種々の社會經濟制度(ウクラード)の總計を眼前に持つことが必要である。『我々』は、プロレタリアートの前衛、先頭部隊は、直接社會主義へ移行しつゝあるが、先頭部隊はたゞ全プロレタリアートの一小部分にすぎず、プロレタリアートは、それでまた、たゞ全人口大衆の一小部分にすぎない。そして『我々』が社會主義への我々の直接の移行の任務を首尾よく解決しうるためには、これがためには、先資本主義的關係から社會主義への移行のためにいかなる間接的な道、方法、手段、援助が必要であるかを理解しなければならぬ。こゝにすべて中心がある。

* 前掲論文「『左翼』小兒病と小ブルジョア性とについて」、全集、第二十二卷、五〇三―五二八頁參照。――編輯者。

ロシア社會主義聯邦ソヴェート共和國の地圖をみよ。北はウォログダから、東南はドン河畔ロストフおよびサラトフにいたり、南はオレンブルグおよびオムスクから、北はトムスク*にいたる間には、廣大無邊な地域が横はつてゐて、その上には數十箇の巨大な文化國家を入れることができよう。そしてこれらすべての地域には父家長生活、半未開狀態および眞の未開狀態そのものが支

配してゐる。だがその他のすべてのロシアの僻遠の農村では？　數十ベ・ルストの田舍道が――一層正しくいへば、數十ベ・ルストの無道路地域が――農村を鐵道から、卽ち文化や、資本主義や、大工業や、大都市との物質的聯絡から距てゝゐるところでは何處でも、どうなつてゐるだらうか？　これらの場所では何處でも、同じく父家長生活、退嬰的生活、半未開狀態が支配してゐるのではあるまいか？

ロシアにおいて支配してゐるこの狀態から社會主義への直接の移行の實現が考へられるであらうか？　然り、或る程度まで考へられる。だがたゞ一つの巨大な完成された科學的事業のおかげで、我々が今や知つてゐる一つの條件の下において。この條件は電化である。もし我々が數十箇の地方的發電所を建設するならば（何處に且つ如何にしてそれらを建設しうるかまた建設せねばならないかを、我々は今や知つてゐる）、もし我々がこれらの發電所から各村落にエネルギーを導くならば、もし我々が十分な數量の電動機その他の機械を獲得するならば、そのときには父家長生活から社會主義への過渡的段階、中間の環は必要でなくまたは殆ど必要でない。しかし我々はよく知つてゐる、この『一つの』條件だけでも、少くとも、たゞ第一次的事業のために十年間

を必要とし、そしてこの期間の短縮は、それでまた、イギリス、ドイツ、アメリカの如き國々におけるプロレタリア××××の場合においてのみ考へられうることを。

そこでこゝ數年間は我々は父家長生活から、小生產から社會主義への移行を容易ならしめうる中間の環について考へることができなければならぬ。『我々』は、屢〻、なほ、『資本主義は害惡であり、社會主義は祝福である』といふ議論の上を迷つてゐる。しかしこの議論は誤つてゐる、何故ならそれは現存する社會經濟制度（ウクラード）の總體を忘れて、そのうちの二つだけを取り出してゐるからである。

資本主義は社會主義に對しては害惡である。資本主義は中世的關係に對しては、小生產に對しては、小生產者の分散と結びついた官僚主義に對しては祝福である。我々がまだ小生產から社會主義への直接的移行を實現する力がない限り、その限りにおいて資本主義は、小生產および交換の自然的生產物として、或る程度まで不可避的であり、そしてその限りにおいて我々は資本主義を（特にそれを國家資本主義の通路に導きつゝ）、小生產と社會主義との間の中間の環として、生產力を高める手段、道、方法、仕方として利用せねばならぬ。

官僚主義の問題を取つてそれを經濟的方面から一瞥せよ。一九一八年五月五日には官僚主義は我々の視野にはなかつた。十月革命の後、我々が古い官僚主義的機關を徹底的に破壞した後半年を經て、我々はまだこの害惡を感じなかつた。

さらに一ケ年を經過した。一九一九年三月十八—二十三日のロシア共產黨第八回大會では、黨の新しい綱領が採用され、そしてこの綱領のうちに我々は、害惡を認めることを恐れないで、それを發見し、暴露し、恥晒しにし、この害惡との鬪爭のための思想と意思と精力と行動とを喚び起したいと考へて、率直に述べ、『ソヴェート制度の內部における官僚主義の部分的復活』について我々は述べてゐる。

さらに二ケ年を經過した。一九二一年の春、官僚主義の問題が討論された（一九二〇年十二月）第八回ソヴェート大會の後、官僚主義の分析と最も密接に關聯した論爭が總結算されたロシア共產黨第十回大會（一九二一年三月）の後、我々はこの害惡を一層明瞭に、一層明白に、一層脅威的に眼前に見るのである。官僚主義の經濟的根源は如何なるものであるか？ 主としてこの根源は二重である、即ち一方では、發展したブルジョアジーはまさに勞働者（部分的には農民）

の××運動に對して官僚主義的機關を、第一には軍事的のもの、次には司法的のもの等々を必要とする。これはわが國にはない。わが國における裁判所は階級的であつて、ブルジョアジーに向けられてゐる。わが國における軍隊は階級的であつて、ブルジョアジーに向けられてゐる。官僚主義は軍隊のうちにはないが、それに配屬してゐる機關のうちにある。わが國には官僚主義の異つた經濟的根源がある、即ち小生產者の分裂、分散、その貧困、無敎養、道路の不完全、文盲、農業と工業との間の取引の缺如、それらの間の聯關と相互作用との缺如が、これである。これは巨大な程度に內亂の結果である。我々が封鎖され、あらゆる方面から攻圍され、全世界から、次には穀物地方の南部から、シベリアから、石炭から遮斷されてゐたときには、我々は工業を復興することができなかつた。我々は『戰時共產主義』の前に躊躇してゐられなかつた、我々は最も絕望的な窮迫にも驚いてはゐられなかつた。我々をして半餓死的な、否半餓死的よりも惡い生活をも忍ばしめよ、しかし前代未聞の荒廢と取引の缺如にも拘らず、飽くまで、我々をして勞働者＝農民の權力を擁護せしめよ。我々は社會革命黨員とメンシェヴィキとが威嚇されたところのもの（彼等を事實上ブルジョアジーに味方せしめたものは主として恐怖と威嚇とであつた）によつて

自己を威嚇せしめなかつた。しかし封鎖された國において、攻圍された城塞において勝利の條件であつたところのものは、恰も一九二一年の春、ロシア社會主義聯邦ソヴェート共和國の領域から最後の白衛軍が決定的に驅逐されたとき、その消極的方面を暴露した。攻圍された城塞内においてはあらゆる取引を『閉鎖する』ことができもし必要でもある。特別の英雄主義の下に大衆はこれを三年間も辛抱することができる。この荒廢の後小生産者はさらに强化され、大工業の復興はさらに遲滯し、延引した。官僚主義は、『攻圍』の遺産として、小生産者の分散および窮迫の上層建築として、完全に自己を暴露した。

この害惡に對して斷乎として闘爭を行ふためには、幾度でも最初からやり直すためには、我々は勇敢にそれを承認しなければならぬ、——我々は我々の建設のすべての領域において、まだ度度最初から再びやり直し、不完全なところを修正し、種々の方法を選んで任務を解決せねばならぬ。大工業の復興がおくれてゐることが暴露され、工業と農業との『閉鎖された』取引の忍び難いことが暴露されたとすれば、——これは、我々がもつと近づき易いものに、即ち小工業の復興に頼らねばならぬことを意味する。この方面から仕事を援助すること、戰爭と封鎖とによつて半

ば破壞された建物のこの脇腹を支へること、資本主義のための埒はわが國では（經濟においては地主および資本家の收奪によつて、政治においては勞働者＝農民の權力によつて）十分狹く、十分『死滅的』に据ゑられてゐるのであるから、資本主義を恐れず、あらゆる方法で、飽くまで取引を發展させること、——これが食糧稅の根本思想であり、これがその經濟的意義である。

黨およびソヴェートのすべての活動家は、すべての努力、すべての注意を、『小さな』手段によつてゞあらうとも、小規模においてゞあらうとも、まさに農民經濟の卽時の向上、近隣の小工業の發展による彼等の援助の見地からの經濟建設事業における地方の——縣の、更にヨリ多く郡の、更にヨリ多く鄕および村の——大なる創意を作り出し、喚び起すことに向けなければならぬ。全國家的な統一的經濟計畫は、正にこれが注意と考慮との中心點、『突擊』活動の中心點となることを要求する。最も廣く且つ最も深い『土臺』に最も近いこの場所で達成された若干の改善は、最も短期間に、大工業のヨリ精力的な且つヨリ首尾よい復興に移ることを可能ならしめるであらう。

食糧徵發事業の活動家は、一〇〇％の徵發を集めよ、といふ一つの基本的指令をこれまで知つ

てゐる。今や指令は異つてゐる、即ち最短期間に一〇〇%の租税を集め、然る後更に大および小工業の生産物との交換によつて一〇〇%を集めよ、といふにある。七五%の租税と大小工業の生産物との交換による七五%（第二の一〇〇のうち）を集める者は、一〇〇%の租税と交換による五五%（第二の一〇〇のうち）とを集める者よりも、有益な國務を遂行するものである。食糧徵發者の任務は複雜化しつゝある。一方では、これは財政的任務であつて、できるだけ速かに、できるだけ合理的に租税を集めなければならぬ。他方では、これは一般經濟的任務であつて、農業と工業との取引を増大し且つ鞏固ならしめるやうに、協同組合を指導し、小工業を援助し、地方における創意、着手を發展させなければならぬ。我々はまだこれを非常に非常に拙くなしうるにすぎぬ。その證據は官僚主義である。我々は、そこではまだ資本主義から多くのことを學びうるし且つ學ばねばならぬ、といふことを承認することを恐れてはならぬ。縣について、郡について、鄉について、村について、實際的經驗の結果を比較してみると、或る場所では私的資本家が資本主義的に相當の成績を收めてゐる。彼等の利潤も相當のものである。これは貢税であり、我々が『授業料として』渡した報酬である。勉强が旨くできさへすれば、授業料を支拂ふことは

惜しくはない。だが隣接地方では協同組合的方法によつてかなりの成績を收め、協同組合の利潤も相當なところがある。更に第三の地方では純粹に國家的な、純粹に共産主義的な方法によつてかなりの成績を收めたところがある（この第三の場合は今日では稀有な例外であらう）。

當面の任務は、各地方の經濟的中心地、各縣の經濟會議が、執行委員會に際して、第一の仕事として、食糧税の支拂の後に殘る剩餘について『取引』の種々の試みまたは方式を直ちに組織することを提議するにある。數ケ月後には實際の結果を得て、それらを比較し且つ研究せねばならぬ。地方産または輸入の食鹽、中心地からの燈用石油、クスタール的木材加工工業、甚だしく重要でなくても地方的原料で農民にとつて必要且つ有用な若干の生産物を與へる手工業、『綠炭』（電化にとつて多少ながら意義を有する地方的水力の利用）等々――すべてこれらのものは、是非とも工業と農業との取引を活潑にするために活動せしめられなければならぬ。この領域で最も大きな結果を收める者は、私經濟的資本主義によつてゞあらうとも、協同組合がなく、この資本主義の國家資本主義への直接の轉化がなくても、それは、共産主義の純粹さについて『思考』し、國家資本主義および協同組合に對する規則、法令、指令を書き、而も實踐的には取引を促進

しない者よりも、全ロシア的社會主義建設事業にヨリ多くの利益を齎すであらう。

社會主義の促進者の役割における私經濟的資本主義、といふ逆説によつてこれは示されうるであらうか？

しかしこれは少しも逆説ではなくて、經濟上全く爭ふべからざる事實である。こゝに一小農國があつて、特に破壞された運輸を持ち、戰爭および封鎖から出たばかりであり、その手に運輸と大工業とを握るプロレタリアートによつて指導されてゐるとすれば、この前提からして全く不可避的に、第一には、現在における地方的取引の第一位的重要性、そして第二には、私經濟的資本主義（國家資本主義のことはいはないまでも）による社會主義の促進を示す可能性が生ずる。

言葉爭ひをもつと少くしたい。我々はこれまでこの部分であまりに多くの過失を犯した。もつと多くの種々雜多の實際的經驗を積むことゝもつと多くそれを研究することが必要である。地方的な仕事を模範的に組織することは、最も小規模ではあつても、中央の國家的な仕事の多くの部門よりも一層重要な國家的意義を有するやうな諸條件が屢〻存在する。そしてわが國では恰も現在、一般に農民經濟について、また特に工業生産物に對する農業生産の剩餘の交換について、諸

條件は、まさにかくの如くである。事業の模範的組織は、右の點において、たとへ一鄕にとつてではあつても、あれやこれやの人民委員部の中央機關の『模範的』改善よりもヨリ大なる國家的意義を持つてゐる。何故ならわが國における中央機關は過去三ケ年半の間にすでに極めて複雜化し、若干の有害な化石狀態を有するまでにいたつたからである。我々はそれを著しく且つ急速には改善しえない、我々は如何にしてこれをなすべきかを知らぬ。ヨリ急進的な改善のため、新鮮な力の新しい流れのため、官僚主義との成功的な闘爭のため、有害な化石狀態の克服のための援助は、地方から、下から、小さな『全體的なもの』の——そして正に『全體的なもの』——模範的組織から、換言すれば、一つの經濟でなく、一つの經濟部門でなく、一つの企業ではなくて、全經濟關係の總和、小さな地域にもせよ、全經濟的取引の總和から來なければならぬ。

我々のうち、中央の仕事に止まつてゐなければならぬ者は、たとへ些細な、間接的に近づきうる範圍においてゞあらうとも、機關の改善と官僚主義の清掃との仕事をつゞけなければならぬ。しかしこの點において、主要な援助は地方から來るであらう。わが國の諸地方では、一般に、事態は、——私が觀察しうる限りでは、——中央よりも良好である、そしてこれは理解されうるこ

とである、何故なら官僚主義の害悪は、自然に中央に集中されるからである。モスクワはこの點で最悪の都市であり且つ一般に共和國中で最悪の『地方』たらざるをえない。地方においては中位的なものからの偏向は二方面に存在する。悪い方面への偏向は善い方面への偏向よりも稀れである。悪い方面への偏向は、共産主義者に諛びてゐた舊官吏、地主、ブルジョアその他の悪漢の濫用であつて、それは時々農民層に對して嫌悪すべき不法、無禮、侮蔑をする。そこではテロリスト的な清掃が必要である、即ち即時の裁判と容赦なき銃殺。マルトフ、チェルノフの徒および彼等に類する共産黨員の俗物どもをして、自己の胸を打つて叫ばしめよ、『神よ、私は「彼等」に類しないこと、私はテロルを承認しなかつたし且つ現に承認してゐないことのために、汝を讃美す』と。この馬鹿者どもは『テロルを承認しない』、何故なら彼等は勞働者および農民を愚弄する部分において白衛軍の從僕的協力者の役割を自ら選んでゐるからである。社會革命黨員とメンシェヴィキとは『テロルを承認しない』、何故なら彼等は『社會主義』の旗の下に、大衆を白衛軍のテロルの下に導く自己の役割を遂行してゐるからである。ロシアにおけるケレンスキー政治とコルニロフ事件、シベリアにおけるコルチャック事件、ジョルジアにおけるメンシェヴィズムは、

これを證明した。フィンランド、ハンガリー、オーストリー、ドイツ、イタリー、イギリス等々における第二インタナショナルと『二箇二分の一』インタナショナル（註二〇）との英雄達がこれを證明した。白衛軍的テロルの從僕的協力者をして彼等のあらゆるテロルの否認のために自らを讃美せしめよ。だが我々は、困難ではあるが疑ひなき眞理を語るであらう、即ち前代未聞の危機、古い關係の崩壞、一九一四―一九一八年の帝國主義戰爭以後の階級闘爭の激化を通過した國々においては――世界のすべての國がさうであるが――僞善者と美辭麗句家とにも拘らず、×××なしにはやつて行けないのである。アメリカ、イギリス（アイルランド）イタリー（ファシスト）、ドイツ、ハンガリーその他の式の白衛軍的、ブルジョア的×××か、さもなくば赤色の、プロレタリア的×××か。中間の道、『第三の』道は存在せず且つ存在しえない。

善い方面への偏向は次の如くである、即ち、官僚主義に對する首尾よき闘爭、勞働者および農民の窮迫に對する注意深い態度、經濟の思慮ある向上、勞働の生産性の引上げ、農業と工業との間の地方的取引の發展が、これである。善い方面へのこの偏向は、悪い方面への偏向よりも頻繁ではあるけれども、やはり稀れである。しかしながらそれらは存在する。内亂と剝奪とによつて

鍛へられた、新しい、若い、新鮮な××××××勢力の産出は地方のいたるところに現はれつゝある。これらの勢力を下から上へ系統的に且つ根氣よくおし進めるために、我々はまだまだ不十分にしか努力してゐない。我々はこれを一層廣汎且つ執拗に行ふことができるし且つ行はなければならぬ。若干の活動家は中央の仕事から引離して地方の仕事に廻すことができるし且つ廻さなければならぬ。卽ち郡および鄕の指導者として、全體としてのすべての經濟的活動の模範的組織を作り出すことによつて、彼等は巨大な利益を齎し、他の中央の職務よりも一層重要な全國家的事業を成就する。何故なら事業の模範的組織は活動家の養成所およびそれを模倣することが比較的容易であるところの模倣の實例として役立つものであり、そして我々は、模範的實例の『模倣』が廣くいたるところに普及し且つ義務的となるやうに、中央から援助することができるからである。

食糧稅を支拂つた後の剩餘について、また小工業、主としてクスタール工業についての農業と工業との間の『取引』の發展の問題は、それ自體の本質において獨立的な、熟達した、賢い地方的創意を必要とし、從つて郡および鄕の事業の模範的組織は、現在、全國家的見地からして全く

異常な重要性を有する。軍事問題においては、例へば、最近のポーランド戰爭當時は、我々は官僚主義的位階制を棄てることを恐れず、共和國の革命的軍事委員會の委員を（高い、中央の職務においたまゝ）『等級を引き下げ』、低い地位に移すことを恐れなかつた。何故今日全露中央執行委員會の若干の委員または大學教授またはその他の高級の地位にある同志を郡または鄕の事業に移してはならないであらうか？　これによつて『動搖させられる』ほど、我々は實際『官僚化した』であらうか？　わが國には喜んでこれに應ずる數十人の中央の活動家が見出されるであらう。そして全共和國の經濟的建設事業はこれによつて非常に利益を受け、そして模範的な郡または模範的な鄕は偉大なるのみならず、直接決定的な歷史的役割を演ずるであらう。

その他の事柄のうちでは、小さな、而も意義を有する事情として、投機に對する闘爭の問題の原則的態度を變更する必要を擧げなければならぬ。國家の統制に叛かぬ『正しい』商業は、我々はこれを支持しなければならぬ、それを發展させることは我々に有利である。しかし投機はこれを經濟學上の意味に理解するならば、『正しい』商業と區別することができぬ。商業の自由は資本主義であり、資本主義は投機である、――これに對して眼を閉すことは笑ふべきことである。

然らばどうしたらよいのか？　投機は犯罪たらざることを聲明すべきであるか？

否。投機に關するすべての法律を修正し改訂して、すべての掠奪と、國家の統制、監督、計算の直接または間接の、公然または內密のすべての違反を犯罪として聲明し（且つ事實上以前に比較して三倍の峻嚴さをもつて追及し）なければならぬ。まさにかゝる問題提起によつて（人民委員會議ではすでに仕事が開始されてゐる、卽ち人民委員會議によつてすでに投機に關する法律の修正事業を開始することが命令されてゐる）、實に我々は、或る程度まで不可避的な、そして我我にとつて必要な資本主義の發展を國家資本主義の通路に導くことができるのである。

政治的結果および歸結

私にはまだ簡單ではあるが政治的情勢に觸れること、それがどうなつたか、そして上述の經濟的情勢と關聯していかに變化したか、といふことに觸れることが殘つてゐる。

すでに述べた如く、一九二一年におけるわが經濟の基本的特徵は、一九一八年におけるものと同じである。一九二一年の春には——主として凶作と家畜の疫病とのために——それでなくても

戰爭と封鎖との結果として極めて困難であつた農民の狀態が極度に激化された。激化の結果は、一般的にいへば、小生產者の『性質』そのものを成してゐるところの政治的動搖であつた。この動搖の最も明瞭な表現はクロンシュタット暴動であつた。

クロンシュタット事件における最も特徵的なものは正に小ブルジョア的要素の動搖であつた。完全に定式化されたもの、明瞭なもの、一定したものは極めて少かつた。『自由』、『商業の自由』、『解放』、『ボリシェヴィキ拔きのソヴェート』、またはソヴェートの改選、または『黨獨裁』からの救濟等々の漠然たるスローガン。そしてメンシェヴィキと社會革命黨員とはクロンシュタットの運動を『自己のもの』だと聲明した。ヴィクトル・チェルノフはクロンシュタットへ急使を送つた、卽ちこの急使の提議によつて、クロンシュタットの指導者の一人、メンシェヴィキのワーリクは、クロンシュタットにおいて『憲法議會』に贊成を決議した（註二）。全白衞軍は瞬くまに、いはゞ無線電信的の速さで、『クロンシュタットのために』動員された。クロンシュタットにおける軍事專門家は、コズロフスキー一人のみではなくて、多くの專門家は、オランニエバウムに上陸する計畫を立てたが、この計畫は、動搖してゐるメンシェヴィキ＝社會革命黨員＝無黨者大衆を戰慄させた。五十

にあまる外國の白衛軍のロシア語新聞は『クロンシュタットのために』精力において猛烈なカンパニヤを發展させた。大銀行、金融資本の全勢力はクロンシュタット援助の基金募集を發表した。ブルジョアジーおよび地主の賢明な指導者、カデットのミリュコフは、馬鹿者のヴィクトル・チェルノフには直接に（そしてクロンシュタット事件に關係したためにペテログラードの監獄に入つてゐたダンとロジコフには間接に）、憲法議會を急ぐのは無益であること、ソヴェート權力に贊成――たゞボリシェヴィキ抜きの――しうるし且つ贊成しなければならないことを辛抱强く説明した。

勿論、小ブルジョア的の空語の英雄たるチェルノフの如き、または『マルクス主義の下に』僞造された俗物的改良主義の騎士たるマルトフの如き、自惚れた馬鹿者達よりも賢明であることは、困難なことではない。しかし問題は、ミリュコフが人物としてヨリ賢明なことに特にあるのではなくて、大ブルジョアジーの黨の指導者が、その階級的地位の故に、小ブルジョアジーの指導者――チェルノフやマルトフの徒――よりも、問題の階級的本質と政治的相互關係を一層明かに見、一層よく理解することにある。何故ならブルジョアジーは實際に一つの階級的勢力であつて、そ

れは資本主義の下においては、君主國においてもまた最も民主々義的な共和國においても、不可避的に支配し、世界のブルジョアジーの支持をまた不可避的に利用するからである。だが、小ブルジョアジー、すなはち第二インタナショナルおよび『二箇二分の一』インタナショナルのすべての英雄達は、問題の經濟的本質において、階級的無力の表現以外の何物でもありえない、――こゝから動搖、空語、無策が生ずる。一七八九年には小ブルジョアはまだ偉大な革命家でありえた。一九四八年には彼等は笑ふべきものおよび哀れむべきものであつた。一九一七―一九二一年には彼等は反動の嫌ふべき協力者であり、その直接の從僕であつて、彼等の實際の役割に從つて、人が彼等をチェルノフ達およびマルトフ達またはカウツキー達、マクドナルド達等々と名づけようとも、同じことである。

マルトフがそのベルリンの雜誌に、クロンシュタットはメンシェヴィキのスローガンを宣布したのみならず、全く白衛軍、資本家および地主に奉仕しないところの反ボリシェヴィキ運動の可能であるといふ證據を提供した、と説明するとき、これはさまに自惚れた俗物的ナルチスの標本である（註二二）。あらゆる眞の白衛軍がクロンシュタットの叛徒を祝福し、クロンシュタットを援助するため

に銀行を通じて基金を集めた事實はまあ單純に看過しよう！　ミリュコフはチェルノフやマルトフの徒よりも正しかつた、何故なら彼は實際の白衛軍の勢力、資本家および地主の勢力の實際の戰術を洩らしてゐるからである。卽ちさあ誰でも勝手に支持しよう、無政府主義者でさへも、いかなるソヴィート權力でも、たゞボリシェヴィキを掃蕩しさへすれば、たゞ權力の移動を實現しさへすれば！　同じことだ、右へであらうと左へであらうと、メンシェヴィキへであらうと無政府主義者へであらうと、たゞボリシェヴィキから權力が移動されさへすれば。だが、あとのことは、――だがあとのことは『我々』が、ミリュコフ達が、『我々』が、資本家および地主が、『自身で』する、無政府主義者や、チェルノフ達やマルトフ達は、ビシヤリと一打ちで追つ拂ふであらう、シベリアでチェルノフとマイスキーとに對してしたやうに、ハンガリーでハンガリーのチェルノフとマルトフとに對してしたやうに、ドイツでカウツキーに對してしたやうに、ウィーンでフリードリヒ・アドラー一派に對してしたやうに、と。眞に業務に熟達したブルジョアジーは、これらの俗物的ナルチス――メンシェヴィキ、社會革命黨員、無黨者――を幾百人となく愚弄し、すべての革命において、數十回もすべての國において驅逐した。これは歷史によつて證明されてゐる。これは事

實によつて檢證されてゐる。ナルチスは喋るであらう。ミリュコフ達と白衛軍とは仕事をするであらう。

多少右へ行かうとまたは多少左へ行かうと、かまはない、たゞボリシェヴィキから權力が移動しさへすればいゝ、だがあとは補足される、――この點でミリュコフは全く正しい。これは、中世以後數百年間の近世史時代の、すべての國のすべての革命史によつて確認された、階級的眞理である。分散せる小生產者、農民を經濟的および政治的に結合するものは、或ひはブルジョアジーであり（資本主義の下においては、すべての國において、近世のすべての革命において常にさうであつたし、資本主義の下においては常にさうであらう）、或ひはプロレタリアートである（近世史における若干の最大の革命の最高の發展に際しては、最も短期間、萠芽的な形態においてさうであつた。ロシアでは一九一七―一九二一年にヨリ發展した形態においてさうであつた）。『第三の』道、『第三の勢力』について喋り且つ夢みることのできるのは、たゞ自惚れたナルチスのみである。

ボリシェヴィキは、最大の努力をもつて、絕望的な鬪爭のうちに、一國を統治する能力あるブロ

レタリアートの前衛を養成し、プロレタリアート××××創造し且つ防衛した、そしてロシアにおける階級的勢力の相互關係は、四ケ年間の經驗、實踐によつて吟味されて、いやが上にも明瞭になつた。唯一の×××階級の鋼鐵の如き鍛へられた前衛、小ブルジ"ア的動搖的要素、外國に隱れ且つ世界のブルジ"アの支持を有するミリュコフ達、資本家、地主。事態はいやが上にも明瞭である。あらゆる『權力の移動』を利用するもの、また利用しうるものは彼等のみである。

上に引用された一九一八年の小冊子においてはこれについて率直に次の如く述べられてゐる、『主要な敵』は『小ブルジ"ア的要素』である。『或ひは我々がこの小ブルジ"アを自己の統制と計算とに從屬させるか、或ひは彼等が、まさにこの小有産者的地盤の上に發生するところの、ナポレオンおよびカヴェニャックの徒が革命を顚覆したやうに、我々の勞働者權力を不可避的に顚覆するであらう。問題はかくの如くである。問題はたゞかくの如くである。』(一九一八年五月五日の小冊子から、上を見よ)*。

* 本譯書一〇〇、一〇一頁參照。——譯者。

我々の力は、ロシア並びに世界の、現存するすべての階級の大いさの計算が全く明瞭であり冷

靜であること、次にこれからして生ずる鐵の如き精力、堅牢さ、鬪爭の決意と無容赦とにある。我々は多くの敵を持つてゐるが、彼等は分散してをり、または何を欲するを知らぬ(すべての小ブルジ"ア、マルトフおよびチェルノフの徒、すべての無黨者、すべての無政府主義者の如く)。だが我々は結合されてゐる——直接には自分達の間で、間接にはすべての國のプロレタリアと。我々は我々が何を欲するかを知つてゐる。だから我々は世界的規模において打ち克き難きものなのである。勿論このことは決してあれやこれやの時期における個々のプロレタリア××の敗北の可能性を排除するものではないが。

小ブルジ"ア的要素が要素と呼ばれるのは故なきことではない、何故ならこれは實際或る最も無定形的なもの、不確定的なもの、無意識的なものだからである。小ブルジ"アジーのナルチスは、『普通選擧』が資本主義の下において小生産者の性質を絶滅すると考へてゐるが、實際においてはそれは教會、新聞、學校、警察、軍隊、種々の形態における經濟的抑壓の援助の下にブルジ"アジーを援助し、分散せる小生産者を彼等が自己に從屬させるのを援助するのである。荒廢、窮迫、狀態の困難は動搖を惹き起す、卽ち今日はブルジ"アジーに味方し、明日はプロレタリア

ートに味方する。たゞプロレタリアートの鍛へ上げられた前衛のみがこの動搖によく抵抗し且つ對抗することができる。

一九二一年の春の事件は今一度社會革命黨員とメンシェヴィキとの役割を明かにした、即ち彼等は動搖しつゝある小ブルジョア的要素がボリシェヴィキから離反し、資本家と地主とのために『權力の移動』を完成することを援助したのである。メンシェヴィキと社會革命黨員とは今や『無黨者』に塗りかへることを學んだ。これは完全に證明されてゐる。そしてたゞ馬鹿者だけが今日、我々が自らを愚弄せしめえないことを見ることができず、理解することができないのである。無黨者會議は物神ではない。もしまだ無關心な大衆、政治の圏外に立つてゐる數百萬の勤勞者層に近づくことができるならば、それは價値あるものである。しかしもし『無黨者』に塗りかへられたメンシェヴィキおよび社會革命黨員によつて綱領を與へられるならば、それは有害である。かういふ人々は暴動を援助し、白衛軍を援助する。公然のものも無黨者に塗りかへたものも、メンシェヴィキおよび社會革命黨員にふさはしい場所は監獄であつて（または白衛軍と協同の外國新聞である、我々は喜んでマルトフを外國に行かしめた）、無黨者會議ではない。大衆の思想を統制し、

彼等に近づくためには、我々は他の方法を見出しうるし且つ見出さねばならぬ。議會主義、憲法議會、無黨者會議を利用しようと欲する者は外國に行くがいゝ、どうぞ、マルトフの許へ行つてくれ給へ、『民主々義』の魅惑を味つてくれ給へ、この魅惑についてウランゲルの兵隊に訊いてくれ給へ、お願ひだ。だが我々は『會議』における『反對派』の役割などをしてゐるべきではない。我々は世界のブルジョアジーに包圏されてをり、彼等は『自己のもの』を取戻し、地主とブルジョアジーとを復興させるために、あらゆる動搖の瞬間を狙つてゐる。我々はメンシェヴィキと社會革命黨員とを、公然のものであらうと『無黨者』に塗りかへたものであらうと、等しく監獄に入れておかなければならぬ。

我々はあらゆる手段によつて政治的に無關心な勤勞者大衆とヨリ密接な結合を結ぶであらう、たゞメンシェヴィキと社會革命黨員とに餘地を與へ、ミリュコフにとつて有利な動搖の餘地を與へる手段を除いては。我々は幾百千の無黨者を、だがミリュコフにとつてかくも有利なメンシェヴィキおよび社會革命黨員の指示の虎の卷を講義するために、無黨者に『塗りかへた』連中からではなくて、大衆の中から、普通の勞働者と農民の中から眞の無黨者を特に熱心にソヴェートの仕事

に動員し、第一の經濟的活動に動員するであらう。わが國では數百千の無黨者が働いてをり、彼等のうちの數十人は最も重要な責任ある地位に就いてゐる。我々は彼等の活動をヨリ多く檢査しなければならぬ。我々はなほ新しい檢査のために幾千人の普通の勤勞者を動員し、系統的に且つ確乎と、幾百人も彼等を試驗し、經驗による檢査を基礎にして、彼等を高い地位に移さなければならぬ。

わが國の共産主義者は今まだまだ管理に關するその眞の任務を十分に理解しえなかつた。即ち『自ら』『すべてのこと』をしようと努力し、疲勞して何一つ成功せず、二十もの仕事を心がけて一つも完了しないといふやうなやり方ではなくて、數十人および數百人の助手の仕事を檢査し、彼等の仕事の檢査を下から、即ち眞の大衆によつて組織しなければならぬ、仕事を指導し、そして知識を有する者（專門家）と大經濟の調整の經驗を有する者（資本家）から學ばなければならぬ。賢明な共産主義者は軍事專門家から學ぶことを恐れない、軍事專門家の十分の九はいつでも裏切りかねないものではあるけれども。賢明な共産主義者は資本家から學ぶことを恐れない（この資本家が大資本家＝利權所有者であらうと、または商人＝仲買人であらうと、または小資

本家＝協同組合役員等々であらうと、同じことである）、資本家は軍事專門家と選ぶところはないけれども。赤軍では、軍事專門家の裏切者を逮捕し、潔白な者および誠實な者を區別し、全體において數千數萬人の軍事專門家を利用することを學んだ。我々は同じことを（特殊な形態で）技師、教師についてもやつてゐる――これは赤軍におけるよりもずつと拙くなされてゐるが（赤軍の場合にはデニキンとコルチャックとがよく我々を鼓舞し、ヨリ速かに、ヨリ熱心に、ヨリ聰明に學ぶことを餘儀なくさせた）。我々は同じく（同じくまた特殊な形態で）仲買人＝商人や、國家のために活動する買占業者や、協同組合役員＝資本家や、利權所有者＝企業家等々からも學ぶであらう。

勞働者および農民大衆には彼等の狀態の即時の改善が必要だ。有用な仕事に新しい勢力――無黨者をも加へて――を配置することによつて、我々はこれを達成するであらう。食糧稅とそれに關聯した幾多の方策はこれを援助するであらう。我はこれによつて小生產者の不可避的動搖の經濟的根源を絶つであらう。だがミリュコフにのみ有利な政治的動搖に對しては我々は假借なく鬪爭するであらう。動搖者は多い。我々は少い。動搖者は分散してゐる。我々は結合してゐる。動

搖者は經濟的に獨立してゐない。プロレタリアートは經濟的に獨立してゐる。動搖者は自ら何を欲するかを知らない、欲しようと、凍えようと、ミリュコフは振り向きもしない。だが我々は自ら何を欲するかを知つてゐる。

だから我々は勝利を得るであらう。

結　論

總括しよう。

食糧稅は戰時共產主義から正しい社會主義的生產物交換への移行である。

一九二〇年の凶作によつて激化された極端な荒廢は、大工業を急速に復興することが不可能なるが故に、この移行を焦眉の必要たらしめた。

このことから、第一に農民の狀態を改善することが必要になる。手段は、食糧稅、農業と工業との取引の發展、小工業の發展である。

取引は商業の自由であり、資本主義である。それは、その中で小生產者の分散狀態との、そして

て或る程度まで官僚主義との鬪爭を援助する限りにおいて、我々に有利である。限度を定めるものは實踐、經驗である。プロレタリアートがその手に權力をしつかり握り、その手に運輸と大工業とをしつかり握つてゐる限り、プロレタリア權力にとつて恐るべきものはそこには何もない。

投機に對する鬪爭は掠奪と國家の監督、計算、統制の違反とに對する鬪爭に轉化されなければならぬ。かやうな統制によつて、我々は或る程度まで不可避的な且つ我々に必要な資本主義を國家資本主義の通路に導くのである。

農業と工業との取引の激勵における地方の創意、着手、獨立性の全面的な、百方手段を盡したところの、あらゆる犧牲を拂つての發展。この點における實踐的經驗の研究。出來るだけ多くのその多樣性。

農業に役立ち且つその向上を助けるところの小工業を援助すること。或る程度まで國有原料の分配によつてもそれを援助すること。最大の犯罪は原料を加工しないまゝで置くことである。

共產主義者は商人をも、資本家＝協同組合役員をも、資本家をも含めて、ブルジョア的專門家から『學ぶこと』を恐れるな。彼等から學ぶことは、形式においては異るが、事の本質において

は、我々が軍事專門家から學んだのと同じことである。『學問』の結果をたゞ實際の經驗によつてのみ檢査せよ。多くのブルジョア的專門家よりも立派にやれ、かくの如くにして農業の昂揚、工業の昂揚、農業と工業との取引の發展を達成することに成功せよ。『授業料』を支拂ふことを惜むな。勉强が旨くできさへすれば、高い授業料を支拂つても、惜しくはない。

あらゆる手段を盡して勤勞者大衆を援助し、彼等に接近し、彼等の中から數百千の無黨者の活動家を經濟的活動に動員せよ。だが、實際には流行のクロンシュタット的無黨者の衣裳に着替へしたメンシェヴィキと社會革命黨員に外ならぬところ『無黨者』は、――これを愼重に監獄に入れておくか、またはベルリンのマルトフの許へ送つて、純粹民主々義のあらゆる魅力を自由に利用させ、チェルノフ達や、ミリュコフ達や、ジョルジアのメンシェヴィキと自由に思想を交換せしめよ。

一九二一年四月二十一日

（全集、第二十六卷、三一七―三五二頁）。

一九二一年五月二十六―二十七日

ロシア共產黨全露會議における、

食糧稅に關する報告および結語

一九二一年五月二十七日および二十八日『ロシア共產黨全露會議日報』第一號および第二號所載。

同志諸君、食糧稅の問題を私は黨のために小冊子において論じなければならなかつたが、それは列席者の大多數が御承知のことゝ思ふ。私個人にとつてはこの問題を黨會議へ討議のために提起することは、この問題提起の必要に關する材料が私の手許になかつたといふ意味で不意であつたが、地方にゐた同志達の非常に多くの者、殊に同志オシンスキーは、多くの縣を旅行した後、中央委員會にかう報告した、――そしてこれはなほ若干の同志によつても支持された、――地方においては、食糧稅に關聯して決定された政策は、まだ甚しく不明瞭であり、屢ゝ理解されてさ

へゐない、と。だがこの政策の排他的な重要性に鑑み、黨會議における補足的な討議は大いに必要だと思はれたので、黨會議を期日よりも早く召集することに決定したのである。私の分前となつてゐるのは、この政策の一般的意義の問題について緒論を與へることにあるが、私は私が小冊子のうちに述べたことに若干の補足をするだけに止めたいと思ふ。今地方においてはこの問題が如何に提起されてゐるか、如何なる缺點、不明確および不明瞭が地方において最も多く感じられてゐるか、この點については私は直接には知らない。會議に提出された問題によつて、又は今後の討論によつて、如何なる方面に今や地方の活動家および黨の注意が向けられなければならないかゞ明かになつた時には、私はなほ、恐らく、補足的な説明を與へなければならないであらう。

私が見ることのできた限りでは、食糧税および新經濟政策と關聯した政治的任務の誤解と理解が十分に明瞭でないことゝは、恐らく、この問題のあれやこれやの方面の誇張と關聯してゐる。しかしこの種の誇張は、我々が實際に仕事を始めない限り、全く不可避的であり、そして我々が新しい基礎の上に立つて一つでも食糧カンパニヤを實行しないうちは、この政策のあれやこれやの特殊性の適用の實際の限界を多少とも正確に定めることは、殆ど不可能である。私はたゞ概略的

に二、三の反對論に論及するに止めよう、これらの反對論は、集會で渡された二、三の記錄によつて私が判斷しえたやうに、最も多くの誤謬を喚び起したものである。食糧税およびそれと關聯した我々の政策における變更は、屢〻我々の政策における根本的急變といふ意味に解釋されてゐる。かゝる解釋が外國における白衛軍の新聞や、主として社會革命黨員およびメンシェヴィキの新聞によつて熱心に吹き立てられてゐることは、怪しむに足りない(註二三)。しかし私は、これがロシア社會主義ソヴェート共和國の領土においても現はれてゐるところの類似の行動の若干の影響によるものであるか、それとも、或る社會において嘗て感じられ、そして食糧狀態の異常な劣惡化の結果恐らく今日もなほ感じられるところの激化した不滿によるものであるかを知らない、——恐らく或る程度までこの種の疑惑はわが國においても普及されてゐて、行はれた變更の意義と新政策の性質とに關する誤つた觀念を作り出したのであらう。農民人口の壓倒的優勢の下において我々の主要任務たるものは——政策一般においても特に經濟政策においても——勞働者階級と農民層との間における一定の關係の樹立であることは、當然のことである。近世史上初めて我々は、搾取者階級は排除されたが、我々はなほ二つの異つた階級——勞働者階級と農民層とを有す

るが如き社會秩序に當面してゐる。農民層の壓倒的優勢の下においては、この優勢は經濟政策の上におよび全政策一般の上に反映せざるをえなかつた。これらの二階級の間の關係の正しい樹立、階級の××の見地からの正しい樹立は、我々にとつて主要な問題となつてゐる、――そして相當長年月にわたつて不可避的にさうなるであらう。我々は勞働者階級と農民層との協調の定式を非常に屢〻論じてゐる。そしてこの定式がそれ自體において全く不定であるが故に、ソヴェート權力の敵は非常に屢〻それを我々に對して動かすのである。勞働者階級と農民層との間の協調てふ言葉は好きなやうに理解することができる。協調は、勞働者階級の見地からすれば、たゞそれが勞働者階級の××を支持し且つ……に向けられた方策の一つである場合においてのみ、許されうるものであり、正しいものであり且つ原則的に可能なものである、といふことを眼中においてゐないと、勞働者階級と農民層との協調の定式は、勿論、ソヴェート權力のすべての敵および獨裁のすべての敵が自己の見解のうちに引き入れる定式となるであらう。我々の革命の第一期、卽ち今日大略實現されてゐると看做しうる時期においては、如何にしてこの協調を實現すべきであらうか？　プロレタリアートの獨裁は農民層の壓倒的多數の下において如何にして維持され且

つ鞏固にされたか？　我々の協調の主要な原因、主要な原動力および主要な基準は、內亂であつた。內亂は、つねに白衛軍、社會革命黨員並びにメンシェヴィキの我々に對する同盟への參加の下に始まつたが、いつでも不可避的に、すべての社會革命黨の憲法議會的要素とメンシェヴィキ的要素とが、クーデターによると否とに拘らず、後方へ押しやられて、白衛軍の先頭には專ら資本家的および地主的要素が進出した、といふ結果になつた。コルチャックとデニキンとの支配においても、すべての多くのヨリ小さな支配および我々に對する襲擊においてもさうであつた。そしてこれは、プロレタリアートと農民層との同盟の形態を決定した主要な要因であつた。この事情は我我にとつて信ずべからざる困難を二重に作り出したが、他方では、勞働者階級と農民層との間の同盟の定式が如何にして實現されなければならないか、といふ困難な考慮から我々を解放した、何故なら戰時狀態はこの定式と條件とを絕對定言的に指示して、些かの選擇をも我々に殘さなかつたからである。

勞働者階級はたゞ戰爭とこの內亂の諸條件とによつて要求された形態においてのみ獨裁を實現することができた。この戰爭に地主が參加したことが、勞働者階級と農民とを無條件に絕對的

に、そして鞏固に結合したのである。この點においては何等の內部的な政治的動搖もなかつた。ロシアの主要な穀物地方がロシアから遮斷された結果、食糧難が極度に達したがために、我々の當面した巨大な困難の下においては、我々の食糧政策は徵發なしには實際に實現されなかつたであらう。この徵發は正しい分配の下においてさへ殆ど獲得することができなかつた剩餘の沒收を意味したのみではない。徵發が如何なる變則を伴つてゐたかについては、私はこゝで詳しく述べることができぬ。いづれにもせよ徵發はその任務を――穀物地方からの最大の遮斷の條件の下においてゞも、工業の維持を――遂行したのである。そしてこれはたゞ戰時狀態の下においてのみ幾らか滿足的に行はれえたのである。我々が實際に外敵を永久的に始末するや否や、――これはやつと一九二一年に事實となつたのであるが――我々の前には他の任務、卽ち勞働者階級と農民層との經濟的同盟が現はれた。一九二一年の春初めて我々はこの任務を直接に提起した、そしてこれは一九二〇年の凶作が農民の狀態を信じ難いほど劣惡化した時、我々が初めて、敵の外部的襲擊と關聯したものではなくて、勞働者階級と農民層との間の關係と關聯したところの、內部的な政治的動搖を或る程度まで經驗した時に起つたのである。もし一九二〇年が我々に非常に豐作

を、または少くともたゞ豐作を與へてゐたら、もし我々が四億二千萬プードの徵發のうち四億プードを集めてゐたら、我々は我々の工業計畫を大部分遂行し、我々は農業生產物と都市の工業生產物との交換の若干の豫備を持つてゐたであらう……然るに我々の許では逆のことが起つたのである。二、三の地方では食糧危機よりも更に一層激烈な危機、卽ち燃料危機、都市生產物によつて農民經濟を滿足させることの全くの不可能が起つたのである。農民經濟の信じ難いほど激烈な危機が起つた。そこでかゝる事情から、我々は如何なる場合にも從來の食糧政策に止まることができなくなつた。我々は、今後の方策への移行として、勞働者階級と農民層との間の同盟の如何なる經濟的基礎が我々に直ちに必要であるか、といふ問題を日程に上さなければならなかつた。

今後への過渡的方策は、農民が生產物を都市および工場の生產物との交換としてのみ引渡し、その場合資本主義制度の下に存在したすべての形態にそれを從屬せしめる必要のないやうな狀態が得られるやうに、農業生產物と工業生產物との交換を準備することに歸着する。しかし經濟的諸條件の故に、我々はこのことを考へることもできなかつた。だから我々によつて私が述べた過渡的形態が、採用されたのである、卽ち租稅の形で何等の等價物なしに生產物を取り上げ、そし

て商品交換の形で補充的生産物を得ること、これである。しかしこれがためには相當の豫備を有することが必要だ、――然るに我々の豫備は極めて僅かであり、そしてそれを外國との商品交換によつて補充する可能性は、資本主義强國と一聯の條約の結果、漸く今年になつて現はれたのである。實のところ、それは今のところたゞ緒論たり、序言たるにすぎない。眞實の商品交換はまだ今まで始まつてゐない。資本主義仲間の大多數または大部分のこれらの協定のサボタージュおよび決裂のあらゆる試みが絶えず繼續されてゐる、そして最も特徴的なのは、社會革命黨員およびメンシェヴィキのものをも含めて、白衛軍のロシア語新聞が、殆ど他の何事にもこれほどは集中しなかつたほど精力的且つ執拗にその力をこの協定に集中してゐることである。ブルジョアジーがヨリ良く鬪爭に準備されてゐること、彼等がプロレタリアートよりも發展してゐること、そして彼等の階級的自覺は彼等が經驗しなければならなかつたあらゆる『不愉快』によつて更に一層尖鋭化されてをり、そして彼等が普通の敏感さよりも遙かに高度の敏感さを表はしてゐることは、全く明かである。彼等が我々の政策の中心たり、結び目たる點をまさに打ちあてゝゐることを見るためには、白衛軍の新聞をよく見れば足りる。

すべての白衛軍のロシア語新聞は、鬪爭はまだ行はれてゐるけれども、明かに失敗した軍事的襲擊の失敗の後、――實現されえない目的を立てゝゐる、即ち通商協約を切斷すること、これである。今春極めて大規模に企てられ、そしてその際社會革命黨員とメンシェヴィキとが反革命的勢力の中で第一位を占めたカンパニヤ、この鬪爭は、一定の目的を以て、即ちこの春ロシアと資本主義世界との經濟的協定を切斷しようとする目的を以て行はれたのである。そしてこの目的は著しく彼等に成功した。實際、我々は基本的條約を結んだし、これらの條約の數は增加しつゝあり、そしてこの部分について强められた反抗はこれを我々は克明しつゝあるが、しかし遲延は我我にとつて非常に危險になつた、何故なら外國からの若干の援助なくしては、大工業の復興と正しい商品交換とは、或ひは不可能であるか、或ひは極めて危險なかゝる遲延を意味するからである。これが即ちその下に我々が行動しなければならぬ條件であり、商業の復興の問題を農民にとつて第一位に押し出したところの條件である。私は利權の問題に觸れないであらう、何故ならこの問題は黨の諸集會において最も多く討論され且つ最近には何等の誤解をも喚び起してゐないからである。事態は從前の通りであつて、我々は心から利權を提議してゐるが、たゞ一つの幾らか

重大な利權をも今まで外國の資本家達は獲得せず、たゞ一つの幾らか確實な利權契約をも我々は今まで締結しなかつた。一切の困難は、西ヨーロッパの資本を引き入れる實際的に吟味された方法を見出すことにある。

理論的には我々にとつて全く爭ふ餘地がない、――すべての人においてもまた、この點については疑問は四散してゐることゝ思はれる、――私はいふ、わが國の大工業の復興のための設備、材料、原料、機械の貯藏を最も短期間に增大するために、我々がなほ提供しうる數千萬または數億によつてヨーロッパ資本から買ひ取ることが我々に有利なことは、理論的には全く明かである、と。

財源を鞏固にするため、社會主義社會を建設するための眞實且つ唯一の基礎たるものは一つそしてたゞ一つのみである――卽ち大工業である。資本主義的大工場なくしては、高度に發展した大工業なくしては、社會主義一般は問題となりえない、そして農民國についてはそれはなほ更問題となりえない。だが我々はロシアにおいてこのことを以前よりも遙かに具體的に知つてゐる、そして大工業の復興の不定的且つ抽象的形態の代りに、我々は今や一定の、精密に計算された、

具體的な電化計畫について語つてゐるのである。我々は全く精密に計算された計畫を持つてゐる、それはロシアの自然的特殊性を考慮に入れて、如何なる財源によつて我々がこの大工業の基礎を我々の經濟へ引き入れることができ、引き入れなければならず、そして引き入れつゝあるかについて、我々に一定の觀念を與へるところの、最良のロシアの專門家および學者の活動の援助の下に計算されたものである。これなくしては、わが國の經濟生活の如何なる眞實の社會主義的な土臺も問題となりえない。これは全く爭ふ餘地がない、そして最近食糧稅との關聯においてこのことについて抽象的な表現で語られたとすれば、今や我々は具體的に、何よりも先づ大工業を復興しなければならない、と述べなければならぬ……私は個人的に若干の同志からこの種の聲明を聞いたことがあるが、勿論これに答へるにはたゞ肩をすくめる外はない。もし我々がこの基本的な目的を忘れえたと假定すれば、これは、勿論、全く笑ふべきことであり且つ馬鹿げたことである。そこで問題はたゞ如何にしてかゝる疑問や誤解が同志の間に生れえたのか、如何にして彼等がそれなくしては社會主義の物質的な生產的基礎が不可能なこの基本的な主要任務、この任務がわが國において閉却されてゐると考へることができたか、といふことだけである。これらの同

志は我々の國家と小工業との間の相互關係を簡單に誤解したのである。我々の基本的任務は大工業の復興である。だが我々が幾らか眞面目に且つ組織的にこの大工業の復興に移るためには、我我には小工業の復興が必要である。我々はこの一九二一年と昨年中に大工業の復興に關する我々の活動において巨大な中絶を經驗した。

一九二〇年の秋と冬にわが國の大工業の二、三の最重要部門は運轉され始めたが、それらは中絶しなければならなかつた。何のためか？　何故か？　十分な程度に勞働力を供給される可能性を持つてゐる、原料を供給される可能性を持つてゐる多くの工場があつたのに、何故これらの工場の活動は中絶されたか？　何故なら我々は食糧および燃料の豫備を十分に持たなかつたからである。月別の規則正しい割當によつて保證された國家の貯藏としての四億プードの穀物（私は概數を與へるのであるが）を有することなくしては、これなくしては、何等かの規則正しい經濟的建設について、大工業の復興について語ることは困難であり、これなくしては我々は、すでに開始された大工業の復興に關する活動が數ケ月間再び中絶されるやうな狀態にあるのである。運轉を開始された少數の企業の壓倒的多數は、今や休止してゐる。完全に保證された十分の食糧の豫

備なくしては、國家がその注意を大工業の復興に集中しうること、大工業の復興を組織的に提起すること、些かな規模にもせよ、この復興が中絶なしに進むやうに提起しうることは、問題たりえないのである。

だが燃料については、ドンバスの復興まで、石油が規則正しく得られるまでは、わが國にはまた、木材が、薪の燃料が殘つてゐる、そしてこれもまた、同じ小經營への依存を意味するのである。

そこで、何故主要な注意が現在農民に向けられなければならないかを理解しなかつた同志達における誤謬、誤解が生じた。若干の勞働者はいふ、農民は或る程度優遇されてゐるが、我々には何一つ與へられない、と。かういふ言葉を聞かなければならなかつたが、思ふに、この言葉はあまりに廣くは普及されてゐない、といはねばならぬ。何故ならかういふ言葉は社會革命黨員の問題提起を繰返すが故に危險である、といはねばならないからである。こゝでは明瞭な政治的挑發と、次に勞働者の職場的な、階級的ではなくて職人的な偏見の遺物がある。こゝでは勞働者階級は自己を同權的な資本主義社會の一部分の如くに見て、彼等が同じ資本主義的基礎の上に立ち續

けてゐることを意識しない。曰く、人々は農民を優遇し、彼等を徴發から解放し、剰餘の自由な部分を交換のために彼等に提供した、我々勞働者は仕事臺に向つて立ち、そして同じものを欲してゐる、と。……

かゝる見地の基礎には何が存在するか？　本質において同じ小ブルジョア的イデオロギーが存在する。農民が資本主義社會の構成分として入つてゐる限りは、勞働者階級もやはりこの社會の構成分である。從つて、農民が商賣するならば、我々も商賣しなければならない、と。そしてそこには勞働者を舊世界に繋ぐ古い偏見が疑ひもなく生き殘つてゐる。古い資本主義世界の最も明瞭な擁護者および唯一の衷心からさへもの擁護者は、社會革命黨員とメンシェヴィキである。百、千、そして十萬もの爾餘の陣營においては資本主義世界の衷心からの擁護者を諸君は見出さないであらう。しかし社會革命黨員とメンシェヴィキとが自ら代表してゐるいはゆる純粹民主々義の中にはまだ衷心から資本主義を擁護するやうな珍しい標本が殘つてゐる。そして彼等が一層執拗に自己の見地を固守すればするほど、勞働者階級に對する彼等の影響は益〻危險である。勞働者階級が生產の中絶の時期を經驗しなければならない時には、彼等は一層危險である。階級的プロレ

タリア的自覺の發展のための主要な物質的基礎は、勞働者が作業する工場を見る時、彼が實際に階級……うる力を毎日感じてゐる時における、大工業である。

勞働者がこの物質的生產的基礎を足許から失ふ時には、不均衡、不定、絶望、不信仰の狀態が勞働者の若干の層を捉へ、そして小ブルジョア民主々義――社會革命黨員とメンシェヴィキ――の直接の挑發と結合して、これは一定の作用を表はす。そしてそこには、共產黨の隊伍においてもまた、次のやうに論議する人々が見出されるが如き心理が現はれる、曰く、農民には贈物が與へられた、勞働者にもまた同じ基礎の上に立つてかやうな取扱を與へなければならない、と。我々は若干の贈物を勞働者に與へなければならなかつた。勿論、工場生產物の一部分を勞働者に賞與として與へることに關する布告は、不信仰および絶望の狀態と結びついた過去に根ざしてゐるところの氣分への讓歩である。あれやこれやの大きからぬ限界までこの讓歩は必要であつた。讓歩はなされたが、しかし一分間も忘れてならないことは、そこで我々は、專ら經濟的見地、プロレタリアートの利益の見地から必要な讓歩をしたしまたしつゝあることである。プロレタリアートの基本的な且つ最も本質的な利益――大工業とその鞏固な經濟的基礎との再建が行はれるならば、

彼等は自己の獨裁を鞏固にし、すべての政治的および軍事的困難にも拘らず、彼等は自己の獨裁を確實に最後まで導くであらう。何故我々は讓歩をしなければならなかつたか、そしてそれを必要以上に廣汎に觀察しようとしなかつたことが、何故極めて危險なのであるか？　何故なら我々はたゞ一時的な條件と食糧的および燃料的關係における困難とによつてこの道に進むことを餘儀なくされたのだからである。

農民層に對する關係は徵發の基礎の上にではなくて、租稅の基礎の上に置かれなければならない、と我々がいふ時、この政策の主要な經濟的基準は何であつたか？　それは、徵發の下においては農民の小經營が正しい經濟的基礎を持たず、そして多年の後には死滅すべく運命づけられてをり、小經營は存續し且つ發展することができないことである。何故なら小經營主は自己の活動の鞏固化と發展、生產物量の增大への興味を失ふからである。そしてその結果、我々は經濟的基礎を失ふことになるであらう。我々は他の基礎を持たず、我々は他の源泉を持つてゐない。だが國家の掌中に食糧の大なる貯藏を集中することなくしては大工業の再建は問題たりえない。だから我々は第一に、我々の食糧關係を變更するこの政策を實施するのである。

我々がそれを實施するのは、大工業の再建の我々の豫備を持つため、大工業――それを先進諸國と比較すれば、我々のみじめな形の大工業ではあるが――が經驗せざるをえないすべての中絕から勞働者階級を免れしめるため、プロレタリア的方法ではなくて、我々にとつて最大の經濟的危險性たる投機的、小ブルジョア的方法に訴へる手段を求める必要からプロレタリアを免れしめるためである。わが國の現實の悲しむべき諸條件の故に、プロレタリアは、自ら生產物を獲得しこれらの生產物を農產物と交換するために、プロレタリア的な、大工業と結びついた方法によつてゞはなくて、或ひは掠奪により、或ひは社會的工場における私的生產による手間稼ぎの方法に訴へることを餘儀なくされてゐる、――このことのうちにわが國の主要な經濟的危險性、ソヴェート制度のすべての存在の主要な危險性がある。だが今日プロレタリアートが自己の獨裁を實現するためには、彼等が階級として鞏固なことを感じ、足下における地盤を感ずることが必要である。しかしこの地盤は消滅してゐる。不斷に作業しつゝある大機械工場の代りに、プロレタリアは他のものを見、投機業者および小生產者として經濟部面に現はれることを餘儀なくされてゐる。

プロレタリアートをこれから免れしめるためには、我々は過渡期にあたつて如何なる犠牲をも惜んではならぬ。徐々にもせよ、大工業の不斷の再建を確保するためには、我々は贈物を欲しがる外國の資本家へ贈物をすることを拒んではならぬ、何故なら今日、社會主義建設の見地からみれば、數億を外國の資本家に支拂つて、その代りにプロレタリアートの經濟的基礎を我々のために復興し、彼等をいつまでも投機業者的プロレタリアートたるプロレタリアートではなくて、鞏固なプロレタリアートへ轉化するところの、大工業の復興のための機械と材料とを獲得することは、有利だからである。メンシェヴィキと社會革命黨員とはプロレタリアートは階級的に解體されたのであるから、プロレタリアートの任務は放棄すべきである、とうるさく叫び立てゝゐる。彼等はこのことを一九一七年以來叫んでゐるが、彼等が一九二一年に至るまで倦まずにそれを繰返してゐるのは、實に驚かなければならぬ。しかし我々がこの攻擊を聞く時には、我々は、何等の階級的解體もないとか、何等のマイナスもないとか答へないで、我々は次の如くいふ、ロシアの現實および國際的現實の諸條件は、プロレタリアートが階級的解體の時期を經驗し、このマイナスを經驗しなければならない時においてさへ、彼等は、このマイナスにも拘らず、權力の獲得と

維持とのその任務を實現することができる、といふが如き狀態にある、と。

プロレタリアートの階級的解體の條件がマイナスであることを否定することは、——笑ふべきことであり、馬鹿げたことであり、不合理なことである。一九二一年に我々は、外部の敵との鬪爭の終了の後、最も主要な危險性、最も大なる害惡となつたのは、我々に僅かに殘されてゐる最大企業における不斷の生產的勞働を確保することができなかつたことであることを見た。これは根本問題である。かゝる經濟的基礎なくしては、勞働者階級における鞏固な政治的權力はありえない。大工業の不斷の復興を確保するためには、例へば、四億プードの豫備が確保され且つ正しく分配されるやうに、食糧政策が立てられなければならぬ。それを舊來の徵發によつて集めることは我々には無條件にできないであらう。一九二〇年と一九二一年とはこのことを示した。今や我々は、それにも拘らず食糧稅によつて、巨大な困難を呈するこの任務を果しうることを見るのである。我々は古い方法によつてはこの任務を果しえない、我々は新しい方法を準備しなければならぬ。我々はこの任務を食糧稅と、小生產者としての農民に對する正しい關係によつて解決することができる。我々はこれまでこれを理論的に證明することに少からず注意を拂つたのであ

る。

黨の新聞や、諸集會における談話によつて判斷すれば、プロレタリアートの手に政治的權力と並んで運輸、大工場、經濟的基礎を保持しつゝ、この任務を我々が解決しうることは、理論的に完全に證明されてゐるやうに見える。我々は農民層に小生產者として十分な餘地を與へなければならぬ。農民經濟の昂揚なくしては、我々は食糧狀態を解決することができぬ。

そこでかゝる範圍において我々は、商業の自由、取引の自由を基礎とする小工業の發展の問題を提起しなければならぬ。この取引の自由は、勞働者階級と農民層との間に經濟的に鞏固であるやうな關係を作り出すことを可能性ならしめるところの手段である。農業生產の規模について我我は今や益ゝ正確な資料を持つてゐる。黨大會においては穀物生產に關する小冊子が配付されたが、それは當時なほ校正刷で大會の成員の間に分配された。その時以來この材料は蒐集され且つ擴張された。最終的な形の小冊子はすでに植字に廻されてゐるが、會議にはまだ用意されてゐない、そしてそれを會議が散會する時までに出版することができるかどうか、私は答へることができぬ。我々はそのためにあらゆる方策を講ずるが、それを出版しうると約束することはできぬ。

これは、農業生產の狀態、我々が處理する財源をヨリ正確に規定しうるやうにと、我々が行つたところの活動の一小部分である。

それにも拘らず、次のことに歸着するところの資料が存在する、といふことができる、即ち特に收穫の豫想が全く惡くなくまたは春期待されえたやうに惡くない今年、我々は經濟的任務を完全に解決することができる、と。このことは、徐々ではあつても、不斷の、大工業の復興事業に全體的に獻身するために、農業上の豫備を集める可能性を我々に保證するであらう。

生產上の豫備を集める任務が解決されるためには、小有產者に對する關係の形態を見出さなければならぬ、そしてこゝには食糧稅以外の形態は存在しない、否、何人もそれ以外の形態は提議しなかつたし、また考へることができない。しかしこの任務を實際的に解決し、食糧稅の正しさを調整し、それを以前のやうにではなく實施しなければならぬ。即ち以前には人々は二、三倍も取り、農民を遙かに劣惡な條件の下に殘したので、それがために最も勤勉な農民が最も多く苦しみ、そして經濟的に鞏固な關係のあらゆる可能性が失はれてゐたのである。食糧稅も各ゝの農民から徵收する同じ方策ではあるが、それは異つた仕方で提起されなければならぬ。以前蒐集され

且つ發表された資料に基いて、我々は、今やこの問題において食糧税は最大の決定的な變化を齎すであらうといふことができるが、どの程度にすべてを結合しうるかは、まだやはり或る程度まで問題である。しかし我々が農民に彼等の狀態の改善を直ちに與へなければならないこと、――これは疑ひなきところである。

地方的活動家の前には次の任務が置かれてゐる、即ち一方では、食糧税を完全に實施することと、そして他方では、できるだけ短期間に實施することである。困難は、收穫が今年は非常に早くて、普通の期間の見地から準備してゐると、我々は時期を失するだらう、といふことによつて增大される。だから黨會議の繰り上げの召集は重要であり且つ時宜に適してゐる。食糧税の徵收のためのすべての機構の準備のために以前よりも速かに活動せねばならぬ。二億四千萬プードの最少限の豫備を國家に確保することおよび農民の狀態を確保することもまた、食糧税の速かな徵收にかゝつてゐる。租税の徵收のあらゆる延引は農民にとつて若干の壓迫である。租税の徵收は自發的には行はれず、强制なしには我々はすますことができず、租税の徵收は農民經濟にとつて多くの壓迫を課する。もし我々が租税徵收のこの活動を規定よりも延期するならば、農民は不滿

を抱き、そして剩餘の處分の自由を得ることができない、といふであらう。自由が實際に自由に似るためには、租税の徵收が速かに行はれること、租税の徵收者が久しく農民の妨げをしないことが必要である、そしてこれは收穫から租税の完全な徵收までの期間を短縮することによつて可能なのである。

これは一つの任務であるが、他の一つの任務は、農民にとつての取引の自由と小工業の向上とを最大限に實現し、以て小財産と小商業との基礎の上に成長する資本主義に若干の自由を與へ、そしてそれは我々にとつて全く恐ろしくないが故に、それを恐れないことにある。

プロレタリアートがその手に大工業のすべての源泉を握つてをり、何等の國有の崩壞も問題たりえない今日形成された一般的な經濟的および政治的情勢の故に、我々はそれを少しも恐れる必要はない。そして我々が生産物の最も完全な不足のため、我々の最も完全な窮乏のために苦しんでゐる時に、小産業的な農業を基礎にする資本主義が脅威を成すものだ、と恐れることは、笑ふべきことである。それを恐れることは、わが國の經濟の力の相互關係を全く考慮しないことを意味し、これは、小農民經濟としての農民經濟が、若干の取引の自由なくしては、これと關聯した

資本主義的關係なくしては、少しも鞏固でありえないことを全く理解しないことを意味する。

同志諸君、諸君はこのことをしつかりと記憶しなければならぬ。そして我々の主要な任務は、諸地方到るところに刺激を與へ、最大限の創意を發揮し、最大限の獨立性と最大限の大膽さを表はすことにある。我々はこの點においてこれまで、幾らか大規模に活動することを恐れてゐたといふ缺點を持つてゐる。商品交換および商品取引の意味において地方における事情はどうであるか、大工業によつて要求されそして食糧および燃料の大なる貯藏を工業中心地に運搬することにあるところの大なる仕事なしに、農民の狀態を直ちに改善しうる小工業を如何に復興し且つ幾分でも發展させることができたか、といふ問題において、多かれ少かれ具體的に準備された、諸地方から集められた、何等の實際的な經驗をも我々は持つてゐないのである。この點において諸地方では一般經濟的見地からみて不十分なことしかなされてゐない。我々は諸地方からのこれらの資料を持たず、我々は全共和國における事情がどうであるかを知らず、我々は實際に仕事の正しい提起の實例を持たない、そして私には勞働組合大會からも最高國民經濟會議の大會からもかゝる印象が殘されてゐる。

これらの大會の主要な缺點はまたもや次の如くである、即ち我々はテーゼ、一般的計畫および考察の如きつまらないことにヨリ多く從事して、大會において人々が實際に地方的經驗を語り合ひ、地方から來た彼等が、こゝに千の實例のうちから我々は一つ良いものを見出してそれを模倣しよう、と述べうるやうなことがないことである。だがかゝる立派な實例を我々は千對一ではなくて、遙かに多く持つてゐる。然るに我々はかゝる活動の仕方を極めて少くしか見ないのである。

私は先走りすることは欲しないが、而も勞働者の團體的保證について、即ち食糧券制度から、或る企業が實際に作業してゐる限り、比例的に立案された一定量の食糧を保證される制度への移行について、一言述べたいと思ふ。この考へは結構であるが、わが國ではそれは或る半空想的なものに轉化されてゐる。そして我々はこの方向への實際に準備的な活動を今のところ持つてゐない。わが國にはまだ、少數の勞働者を有するものにもせよ、これこれの郡のこれこれの工場において我々がこの方策を適用して、こゝに成果がある、といふやうな實例がない。それがわが國にはない。そしてこゝにすべての我々の活動の最大の缺點がある。我々は、一九一八年に、即ちと